

白梅学園短期大学自己点検評価
(2005 年度)

白梅学園短期大学
2006 年 6 月

《2006年度自己点検・自己評価委員》

瀧口 優（保育科）委員長（第三者評価連絡調整委員：ALO）

平賀 明彦（副学長）

堀江まゆみ（心理学科）

西方 規恵（福祉援助学科）

佐々加代子（白梅学園大学子ども学部こども学科）

土門久美子（企画調整部第三者評価責任者）

仙波良太郎（企画調整部第三者評価担当者）

白梅学園短期大学 自己点検評価

（2005年度）

発行日 2006年6月30日

監修 学長 無藤 隆

編集 2006年度自己点検評価委員会

発行 白梅学園短期大学

印刷 コロニー東村山印刷所

刊行にあたって

白梅学園短期大学
学長 無藤 隆

白梅学園短期大学として自己評価について、2004年度に引き続き、ここにまとめ、報告する。ご覧頂くと分かるように、前年度に比べ、種々の点で改善を図り、向上が見られている。何より大きなことは、四年制大学の発足に並行して、短期大学では教養科を廃止し、保育科については定員減を行ったことである。特に、教養科では受験の応募者の数の低下に伴い、多くの教育上の問題も生まれてきており、廃止の決断に至ったのである。だが、教養教育の精神は本学の建学の理念に密接につながるものであり、短期大学の今後においても重視していきたいと考えている。

そもそも、自己点検・自己評価とは大きくいって、三つの働きを持つはずである。一つは、本学の歩みを毎年記録することにより、学内外の関係者や世の人々に本学のあり方を理解してもらうということである。情報公開と説明責任の一端を果たすのである。第二には、その結果を毎年度積み重ねることにより、改善すべき点を焦点化し、またそのための方途を探るのである。また、実際に何がどこまでよくなったかを検討していく素材ともなる。第三に、学内の人間にとっては、自己評価の報告書を作る過程そのものが反省のために役立つ。授業評価でも、研究や社会的活動の実績にしても、カリキュラムの実現の状況にせよ、また学生の福利厚生のあるあり方であっても、日頃多忙な中で忘れがちな点を確認することになる。つい分かっているつもりで実は念頭から去っていることを改めて自覚出来るのである。

現状把握は改善のための基礎資料である。実際の状況に向き合い、客観的な資料を用いて、自分たちが日頃、感覚的に対応していることに正面切って向き合うことになる。その把握は必ず、ではどうよくしていくかの方策の検討へと進む。現状に甘んじていては、改善につながらない。常に向上し、よりよいものにしようとして、初めて、今の水準も維持可能となるはずである。その上、時代の伸展は早く、常にどう対応すべきかを迫ってくるものでもある。

短期大学の教育はこれまでも決して容易なものではなかった。だがこれからはさらに困難が増すことを予測出来る。それに大して右往左往するのではなく、見通しを持って立ち向かうためにも、本資料を活用して、今後の進路を全学を挙げて検討し、よりよい教育を実現していきたいと考えている。

終わりになるが、本評価の作成に携わった教職員の皆さんに感謝し、またこれを手にとって下さる方々の参考になることを望む次第である。

目 次

1. 刊行にあたって（学長）	
2. 2005年度自己点検評価	1
序. 白梅学園短期大学の特色等について	1
(1) 当学校法人の沿革の概要、及び本学の沿革の概要	1
(2) 本学の所在地、位置、周囲の状況等	4
(3) 法人理事長・学長及びALOの氏名、連絡先及びその略歴	4
(4) 当該短期大学の過去7ヵ年の改廃状況（入学定員の変遷を含む） 及び現在の設置学科・専攻ごとの入学者数及び定員補充率	6
(5) 本学の過去3ヵ年学生の出身地別人数及び割合	7
(6) 当法人が設置する他の教育機関等	7
(7) その他	8
領域Ⅰ. 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標について	9
【建学の精神、教育理念について】	9
(1) 白梅学園短期大学建学の精神	9
(2) 建学の理念の周知方法	9
(3) 周知するための特別な取り組み	9
【教育目的・教育目標について】	10
(1) 学科等ごとの教育目標	10
(2) 学生や教職員への周知の方法について	11
(3) 周知するための特別な取り組み	11
【定期的な点検等について】	11
(1) 定期的な点検を行う組織及び手続き	11
(2) 点検における理事会や教授会の関与について	11
【特記事項について】	11
(1) 建学の精神等について特に努力していること	11
(2) 評価項目が実現できない事由等	12
領域Ⅱ. 教育の内容について	13
【教育課程について】	13
(1) 各学科等の教育目的・教育目標（再掲）	13
(2) 各学科の現在の教育課程（付表として教育課程表及び授業形態等一覧表）	13
(3) 現行の教育課程における特記事項	28
(4) 取得可能な免許及び資格	28
(5) 選択科目の状況	28
(6) 卒業要件単位数及びその他の卒業要件	29
(7) 教育課程の見直し、改善についての各学科の現状	31
【授業内容・教育方法について】	32
(1) シラバスや講義要綱について	32
(2) 学生の履修態度、学業への意欲などについて	32
【授業改善への努力について】	34
(1) 学生による授業評価についての概要	34
(2) 短期大学全体の授業改善（FD）への組織的な取り組みについて	34
(3) 担当授業について兼任教師などとの教員間の意思疎通や協力体制について	34

【特記事項について】	3 6
(1) 他の教育機関との単位互換制度など評価項目には含まれないが独自に取り 組んでいることについて	3 6
領域Ⅲ. 教育の実施体制について	3 8
【教員組織について】	3 8
(1) 専任教員数について	3 8
(2) 教員の採用、昇任について	3 8
(3) 専任教員の年齢構成について	3 8
(4) 学長から見た専任教員について	3 9
(5) 学長から見た助手等について	4 0
【教育環境について】	4 0
(1) 本学の校地面積	4 0
(2) 本学の校舎について	4 1
(3) 教育研究に使用する情報機器について	4 1
(4) 授業用の機器・備品の整備状況	4 2
【図書館について】	4 3
(1) 本学図書館の概要について	4 3
(2) 図書の整備と利用状況について	4 4
(3) 情報発信と連携について	4 5
【特記事項について】	4 5
(1) 外国人教員の採用について	4 5
領域Ⅳ. 教育目標の達成度と教育効果について	4 6
【単位認定について】	4 6
(1) 本学の単位認定方法	4 6
(2) 単位の認定状況	4 6
(3) 学長としての評価の現状に対する受け止め方	6 0
【授業に対する学生の満足度について】	6 0
(1) 授業評価について	6 0
(2) 学生の満足度の現状の受け止め方	6 1
(3) 学長は学生の授業評価についてどのように受け止めているか	6 3
【退学、休学、留年などについて】	6 3
(1) 本学の退学、休学、留年等について	6 3
(2) 学生の状況及び指導の現状について	6 4
(3) 学科長はどのように受け止めているか	6 5
(4) 学長はどのように受け止めているか	6 6
【資格取得の取り組みについて】	6 6
(1) 取得可能な資格と取り組み及び取得状況	6 6
(2) 今後導入予定の資格	6 8
【学生による卒業後の評価、卒業生に対する評価について】	6 8
(1) 学科等ごとの専門就職（当該学科等で学習した分野に関連する就職）の状況 （専門就職数及び割合等について）	6 8
(2) 卒業生に対する就職先からの評価について	6 8
(3) 卒業生による当短大に対するアンケート等について	7 0
(4) 卒業生に対する社会からの評価についてどう受け止めるか	7 0

【特記事項について】	7 1
(1) 教育目標の達成度と教育の効果について特に努力していること	7 1
(2) 評価項目が達成できない事由	7 1
領域Ⅴ. 学生支援について	7 2
【入学に関する支援について】	7 2
(1) 入学志願者への本学の説明・対応について	7 2
(2) 入学者選抜の方針・方法に関する説明について	7 2
(3) 広報および入試事務の体制について	7 2
(4) 入学試験の流れと多様な選抜方法の公正・正確な実施について	7 3
(5) 入学手続き者に対する情報の提供について	7 5
(6) 入学者に対するオリエンテーションについて	7 5
【学習支援について】	7 5
(1) ガイダンスの概要について	7 5
(2) 学力補充のための補習授業の取り組みについて	7 6
(3) 学習上の問題や悩み等への指導・助言体制について	7 7
(4) 進度の早い学生等に対する学習上の配慮や学習支援について	7 7
【学生生活支援について】	7 7
(1) 学生生活を支援するための組織や体制の現状	7 7
(2) クラブ活動の現状、学生会の現状、学園祭実施の状況	7 8
(3) 学生の休息のための施設、空間、保健室、売店の設置の概要について	7 9
(4) 学生寮の状況、下宿・アパート等の宿舍の斡旋体制、通学のための便宜	7 9
(5) 2005年度の奨学金取得状況	7 9
(6) 学生の健康管理、メンタルケアやカウンセリングの体制の概要	8 0
(7) 学生情報の保管・保護	8 0
【進路支援について】	8 1
(1) 学生の就職を支援するための組織や体制	
(教員組織、事務組織)の現状	8 1
(2) 進路指導課・就職資料室などの現状について	8 1
(3) 過去3ヵ年の就職状況	8 1
(4) 過去3ヶ年の進学(4年制大学、専門学校等)及び海外留学の実績	8 1
【多様な学生に対する支援】	8 3
(1) 過去3ヵ年の留学生の受け入れと学習支援・生活支援	8 3
(2) 過去3ヵ年の社会人学生の受け入れと学習支援	8 3
(3) 過去3ヵ年の障害者の受け入れと学習支援	8 4
(4) 過去3ヵ年の長期履修生の受け入れ状況について	8 4
【特記事項について】	8 4
(1) 長期欠席者への援助、学生に対する表彰制度等、学生支援についての努力	8 4
(2) 人権擁護にあたっての学内体制の整備	8 5
領域Ⅵ. 研究について	8 6
【教員の研究活動全般について】	8 6
(1) 過去3ヵ年(平成15～17年度)に在籍した教員の研究実績について	8 6
(2) 教員個人の研究活動の公開について	8 7
(3) 過去3ヵ年の科研費の申請及び採択状況について	8 7
(4) 学科等ごとのグループ研究や共同研究、大学単位の研究等について	8 8

【研究のための条件について】	89
（１）研究費についての支給規程等について	89
（２）教員の発表機会の確保について	90
（３）研究に係る機器、備品、図書等の整備状況について	90
（４）教員室、研究室または研修室、実験室等の状況	90
（５）教員の研修日、研究時間の確保について	90
【特記事項について】	90
（１）その他に教員の研究について努力していること等	90
（２）評価項目や評価の観点が実現できない自由等について	91
領域Ⅶ. 社会的活動について	92
【社会的活動への取り組みについて】	92
（１）社会的活動への取り組みについて	92
（２）社会人の受け入れについての今後の方向	93
（３）過去３ヵ年の地域社会に向けた公開講座などについて	93
（４）大学と地域社会の交流、連携について	97
【学生の社会的活動について】	98
（１）学生による地域活動、地域貢献等について	98
（２）学生の地域活動や地域貢献についての大学の評価	99
【国際交流・協力への取り組みについて】	99
（１）過去３ヶ年の学生の海外教育機関への派遣状況について	99
（２）過去３ヶ年の大学と海外教育機関との交流について	99
（３）過去３ヶ年の教職員の留学、海外派遣、国際会議出席等の状況	101
【特記事項について】	101
（１）社会的活動において評価項目で実現できない事由	101
領域Ⅷ. 管理運営について	102
【法人組織の管理運営体制について】	102
（１）理事長自身のリーダーシップと関与について	102
（２）理事会の開催状況	102
（３）常任理事会の名称及び構成メンバーについて	103
（４）監事の業務執行状況について	104
（５）評議員会の開催状況	104
（６）管理運営についての改善点及び課題	104
【教授会などの運営体制について】	105
（１）学長のリーダーシップについて	105
（２）各種委員会の開催状況等	107
（３）短期大学全般の課題について	108
【事務組織について】	109
（１）事務分掌について	109
（２）事務職員の任免について	109
（３）事務組織についての諸規定について	110
（４）決済処理の概要と流れ、公印の管理等について	110
（５）事務職員の教員や学生からの信頼について	110
（６）事務組織のＳＤ活動について	110
（７）事務組織が抱えている問題・課題について	110

【人事管理について】	1	1	0
（１）教職員の就業について	1	1	0
（２）法人と短期大学教職員の関係について	1	1	1
（３）教員と事務職員の関係について	1	1	1
（４）教職員の健康管理、就業環境の改善について	1	1	1
領域Ⅸ．財務について	1	1	2
【財務運営について】	1	1	2
（１）「中・長期の財務計画策定」について	1	1	2
（２）事業計画と予算の決定過程	1	1	2
（３）予算の各部門への伝達、及び執行に関わる経理など	1	1	2
（４）監査状況	1	1	2
（５）財務の公開について	1	1	3
（６）資金等の保有と運用の基本方針について	1	1	4
（７）寄付金や学校債の状況について	1	1	4
【財務体質の健全性と教育研究経費について】	1	1	4
（１）資金収支計算書・消費収支計算書の概要	1	1	4
（２）前年度末の貸借対照表の概要	1	1	4
（３）財産目録及び計算書類について	1	1	4
（４）短期大学における教育研究経費比率	1	1	4
【施設設備の管理について】	1	1	4
（１）固定資産管理規程など財務諸規定について	1	1	4
（２）火災などの災害対策について	1	1	4
領域Ⅹ．改革・改善について	1	1	6
【自己点検・評価について】	1	1	6
（１）本学における自己点検・評価の位置づけ	1	1	6
（２）自己点検・評価報告書の発行状況	1	1	6
【自己点検・評価の教職員の関与と活用について】	1	1	6
（１）自己点検・評価に関わった教職員について	1	1	6
（２）自己点検・評価結果の活用について	1	1	7
【相互評価・外部評価について】	1	1	7
（１）過去に行った相互評価等の概要について	1	1	7
（２）相互評価や外部評価を行うための組織・規程の整備状況について	1	1	7
【第三者評価（認証評価）について】	1	1	7
（１）第三者評価を実施するための学内組織の概要について	1	1	7
（２）第三者評価を迎えるにあたっての決意	1	1	7
【特記事項について】	1	1	8
（１）大学として特に努力している改善点等	1	1	8
（２）評価項目や評価観点が実現できない事由	1	1	8
補．将来計画の策定について	1	1	9
（１）将来計画の策定について	1	1	9
（２）終わりに	1	1	9

《白梅学園短期大学の特色等について》

白梅学園短期大学は1942年に設立された東京家庭学園を母体に、1957年4月に保育科の短期大学として設立された。1950年に付属の幼稚園を創立し、保育者養成校としての基盤を明確にしている。その後1961年に心理技術科（現在の心理学科）、1966年に教養科（四年制大学設立にともなって2006年3月廃科）、1998年に福祉援助学科を立ち上げ、今日に至っている。

創立以来の学是として「ヒューマニズム」をかかげ、学生の指導や地域との協力等においても教職員としてこの学是を基本とした関わりを続けてきた。2007年には短期大学としての50周年を予定し、学園としての新たなスタートを切ることになる。

（１）当学校法人の沿革の概要、及び本学の沿革の概要

沿革

1942年	3月	財団法人社会教育協会の事業として、同会常務理事小松謙助を創立者とし、法学博士穂積重遠を学園長に迎え、小石川区指ヶ谷町に東京家庭学園を設立。
1945年	5月	空襲によって、協会、学園、学寮の一切の施設を焼失。小松謙助協会理事長に就任。初代協会長阪谷芳郎子爵の縁故により、小石川区原町の竜門社内において授業を行う。
1946年	3月	小石川区丸山町の山月川合信水氏のキリスト心宗東京協会に移る。
1948年	9月	杉並区馬橋4丁目500番地（現在、高円寺北4-29-3）に校地と校舎を得る。
1950年	3月	東京家庭学園付属白梅幼稚園を創立。
1951年	7月	学園長穂積重遠逝去。
1952年	1月	法学博士牧野英一学園長に就任。
1953年	4月	東京家庭学園に旧厚生保母学園の事業を併合して白梅保母学園を創立。厚生省より保母養成機関の指定あり。
	12月	学校法人白梅学園設立認可。小松謙助理事長に就任。
1955年	4月	白梅保母学園を白梅学園保育科と改称。同科に対し保母資格に併せて文部省より幼稚園教諭2級普通免許状授与資格の指定あり。
1957年	4月	白梅学園短期大学設立。保育科第1部、保育科第2部設置認可。牧野英一学長に就任。
1961年	4月	心理技術科第1部、心理技術科第2部、専攻科保育専攻第1部、保育専攻第2部開設。
1962年	1月	創立者理事長小松謙助逝去。
	3月	牧野英一学長退任、名誉学長となる。
	4月	野口明学長に就任。短期大学専攻科保育専攻を2年課程とする。
	8月	曾志崎誠二理事長に就任。
1963年	2月	心理技術科第1部、心理技術科第2部に対し、文部省より中学校教諭職業指導科2級普通免許状授与資格の課程認定あり。

	4月	小平市小川町1丁目830番地に校地(41,465 m ²)を得て校舎の建築に着工。
1964年	1月	建設中の小平校舎において、短期大学昼間部の授業を開始。
	3月	小平校舎第1期工事(5,750 m ²)竣工。
	4月	白梅学園高等学校(女子普通科)を開設。
	8月	学生寮(954 m ²)竣工。
1965年	4月	学長野口明退任。楨智雄学長に就任。
1966年	3月	体育館兼講堂及びピアノ練習室(1,676 m ²)、小平校舎B棟増築工事(1,337 m ²)竣工。
	4月	教養科開設。同科に対し文部省より中学校教諭国語科2級普通免許状授与資格の課程認定あり。
1967年	3月	小平校舎D棟増築工事(4,250 m ²)竣工。
	4月	短期大学保育科第2部の修業年限を3年とする。
1968年	10月	学長楨智雄逝去。樋口愛子学長代行に就任。
	12月	樋口愛子学長に就任。
1969年	3月	短期大学附属白梅幼稚園小平園舎竣工。
	4月	同幼稚園小平園舎開園。
1970年	4月	杉並校舎における短期大学夜間部及び幼稚園を小平校舎に移し、杉並校舎を閉鎖する。
	4月	名誉学長牧野英一逝去。
	12月	理事長曾志崎誠二逝去。山崎丹照理事長事務代行に就任。
1971年	4月	星島二郎理事長に就任。
1973年	6月	星島二郎理事長退任。常務理事樋口愛子理事長に就任。
1974年	10月	理事長・学長樋口愛子逝去。
	11月	鈴木三男吉理事長代行に就任。田中未来学長代行に就任。
	12月	第1小体育館(290 m ²)竣工。
1975年	1月	細谷俊夫学長に就任。
1976年	2月	樋口記念館(E棟、1,278 m ²)竣工。
1979年	12月	動物飼育実験室(57 m ²)竣工。
1980年	3月	第2小体育館(261 m ²)竣工。
1981年	2月	関連機関として社会福祉法人小松福社会を設立。
	4月	小平市花小金井南町2丁目83番地10に白梅保育園開園。
1982年	6月	鈴木三男吉理事長に就任。
	10月	白梅学園短期大学創立25周年式典及び記念誌出版。
1983年	3月	学長細谷俊夫退任。
	4月	田中未来学長に就任。
1984年	3月	E棟増築工事(2,281 m ²)完了。
		白梅会館(244 m ²)竣工。A, B, C, D, E棟改修工事完了。
1987年	4月	保育科第2部、心理技術科第2部、専攻科保育専攻第2部学生募集停止。

		短期大学専攻科保育専攻第1部開講。
1989年	4月	学長田中未来退任。黒田瑛学長代行に就任。 短期大学専攻科福祉専攻開設。(介護福祉士養成施設) 短期大学心理技術科を心理学科と科名変更。 新若葉寮(1,403 m ²)竣工。
	7月	第2大体育館(2,999 m ²)竣工。
	8月	旧若葉寮(954 m ²)取壊し。
	9月	新校舎F棟(2,049 m ²)竣工。
	11月	黒田瑛学長に就任。
1991年	8月	G棟(450 m ²)竣工。
	9月	第2造形室(150 m ²)竣工。
1992年	4月	専攻科福祉専攻、学位授与の認定。
	10月	鈴木三男吉理事長退任。
	11月	小松雄二理事長に就任。
1993年	4月	専攻科保育専攻、学位授与の認定。 短期大学第2部(保育科第2部、心理学科第2部、専攻科保育専攻第2部)の廃止。保育科第1部、心理学科第1部、専攻科保育専攻第1部を保育科、心理学科、専攻科保育専攻と名称変更。
1995年	3月	学長黒田瑛退任。
	4月	石井哲夫学長に就任。 教養科に対し文部省より図書館司書資格の単位認定あり。 白梅学園短期大学情報処理センター設立。
	9月	白梅学園短期大学教育・福祉研究センター設立。
1996年	3月	H棟(1,963 m ²)竣工。
1997年	4月	心理学科に対し文部省より図書館司書資格の単位認定あり。
1998年	3月	I棟(2,338 m ²)竣工。 専攻科保育専攻1年課程廃止。
	4月	専攻科保育専攻2年課程開設。 福祉援助学科(介護福祉士養成施設)開設。
1999年	4月	教養科に対しビジネス実務士の教育課程認定あり。 専攻科保育専攻に対し文部省より幼稚園教諭1種免許状の課程認定を受ける。
2000年	1月	理事長小松雄二逝去。小松隆二理事長代行に就任。
	3月	小松隆二理事長に就任。
2004年	3月	学長石井哲夫退任。
	4月	無藤 隆学長に就任。
	11月	白梅学園大学設立認可。
2005年	3月	創立60周年記念館(J棟、1,296 m ²)竣工。
	4月	白梅学園大学設立。子ども学部子ども学科開設。

4 月 無藤 隆学長に就任。

子ども学部子ども学科に対し、厚生労働省より保育士養成機関の指定あり。文部科学省より幼稚園教諭 1 種免許状、小学校教諭 1 種免許状の課程認定あり。

白梅学園短期大学教養科、専攻科保育専攻の募集停止。

2006 年 3 月 白梅学園短期大学教養科、専攻科保育専攻科廃科

（２）本学の所在地、位置、周囲の状況等

所在地：東京都小平市小川町 1 丁目 8 3 0 番地

周囲の状況：武蔵野台地の中央、都心から西へ 2.6 km の住宅都市。玉川上水、野火止用水、狭山・境緑道が市の外周部をつなぐ緑の散歩道「小平グリーンロード」など緑豊か。住環境の良さから人口増が続き、都市基盤整備や福祉・産業・文化施策に取り組む。市内 7 駅に特色をもたせて整備し、市全体を発展させる多核連環都市構造のまちづくりを推進。

小平市主産業：特産品は梨、うど等。電子・通信機器用部品、タイヤ、一般機械器具等が主産業。

小平市の面積：20.46 km²

小平市の人口：175,230 人

（３）法人理事長・学長及び ALO の氏名、連絡先及びその略歴

○理事長 小松 隆二

（連絡先：042-342-2311 FAX 042-346-5616）

<略歴>

学歴	昭和 36 年 3 月	慶応義塾大学経済学部 卒業	（経済学士）
	昭和 38 年 3 月	慶応義塾大学大学院経済学研究科修士課程	修了（経済学修士）
	昭和 42 年 3 月	慶応義塾大学大学院経済学研究科博士課程	修了
	昭和 47 年 9 月	経済学博士（慶応義塾大学）	
職歴	昭和 38 年 4 月	慶応義塾大学経済学部助手	
	昭和 44 年 4 月	慶応義塾大学経済学部助教授	
	昭和 51 年 4 月	慶応義塾大学経済学部教授、大学院研究科委員	
	平成 5 年 5 月	慶応義塾常任理事（平成 13 年 3 月まで）	
	平成 11 年 11 月	学校法人白梅学園理事（現在に至る）	
	平成 12 年 3 月	学校法人白梅学園理事長（現在に至る）	
	平成 13 年 4 月	東北公益文科大学学長（現在に至る）	

○学 長 無藤 隆

（連絡先：042-346-5636 FAX 042-346-5652）

<略歴>

学歴	昭和 47 年 3 月	東京大学教育学部心理学科 卒業	（教育学士）
	昭和 50 年 3 月	東京大学教育学研究科修士課程	修了（教育学修士）

職歴	昭和 52 年 9 月	東京大学教育研究科博士課程 退学
	昭和 61 年 8 月	お茶の水女子大学家政学部 助教授
	平成 5 年 1 0 月	お茶の水女子大学生活科学部 教授
	平成 13 年 4 月	お茶の水女子大学附属小学校校長
	平成 15 年 4 月	お茶の水女子大学子ども発達教育 研究センター教授
学会等	平成 16 年 4 月	白梅学園短期大学 学長（現在に至る） 学校法人白梅学園理事（現在に至る） お茶の水女子大学客員教授（現在に至る）
	平成 17 年 4 月	白梅学園大学 学長（現在に至る）
	平成元年 1 2 月	日本発達心理学会理事（平成 1 7 年）
	平成 4 年 1 2 月	日本生活科・総合的学習教育学会常任理事（現在に至る）
	平成 6 年 4 月	文部省・教育研究開発評価協力者
	平成 8 年 8 月	文部省・教育課程審議会委員（平成 10 年 8 月まで）
	平成 9 年 1 1 月	日本乳幼児教育学会常任理事（現在に至る） 日本保育学会理事（現在に至る）
	平成 12 年 5 月	文部省・教育課程審議会専門調査員（平成 12 年 12 月まで）
	平成 12 年 2 月	文部省・幼児教育の振興に関する調査協力会合協力者（平成 13 年 3 月まで）
	平成 13 年 11 月	文部科学省・幼稚園教員の資質向上に関する調査研究協力者（平 成 14 年 6 月まで）
	平成 13 年 12 月	厚生労働省・社会保障審議会児童部会委員（現在に至る）
	平成 14 年 10 月	東京都青少年問題協議会委員（現在に至る）
	平成 16 年 4 月	学校法人白梅学園理事（現在に至る） 文部科学省中央教育審議会委員（現在に至る）
	平成 16 年 6 月	大学セミナーハウス評議員（現在に至る）
	平成 16 年 10 月	文部科学省教育課程の在り方に関する懇談会委員（平成 17 年 3 月まで）
	平成 17 年 2 月	文部科学省科学技術・学術審議会専門委員（平成 18 年 1 月ま で）
	平成 17 年	大学・大学院における教員養成推進プログラム選定委員会にお ける評価委員（現在に至る）
	平成 17 年 4 月	全国保育士養成協議会常任理事（現在に至る） 厚生労働省家庭総合研究事前評価委員会委員（現在に至る） 文部科学省中央教育審議会義務教育特別部会委員
	平成 17 年	文部科学省大学・大学院における教員養成推進プログラム選定 委員会における評価委員（現在に至る）
	平成 17 年 10 月	文部科学省総合施設モデル事業評価委員（現在に至る）
	平成 18 年 4 月	日本発達心理学会理事長（現在に至る）

○AL O 瀧口 優

(連絡先：042-342-2311 FAX042-346-5644)

takiguti@shiraume.ac.jp

<略歴>

学 歴 昭和 45 年 4 月 東京教育大学文学部文学科入学
昭和 49 年 3 月 東京教育大学文学部文学科卒業
平成 18 年 3 月 和光大学大学院社会文化総合学科修士卒業（学術修士）
職 歴 昭和 49 年 4 月 埼玉県立桶川高校教諭（昭和 55 年 3 月まで）
昭和 55 年 4 月 埼玉県立桶川西高校教諭（昭和 63 年 3 月まで）
昭和 62 年 4 月 埼玉大学非常勤講師（平成 2 年 3 月まで）
昭和 63 年 4 月 埼玉県立川口高校教諭（平成 9 年 3 月まで）
平成 9 年 4 月 埼玉県立熊谷高校教諭（平成 11 年 3 月まで）
平成 11 年 4 月 白梅学園短期大学教養科助教授
平成 18 年 4 月 白梅学園短期大学保育科教授（現在に至る）
学会等 昭和 51 年 4 月 埼玉県高等学校特別活動研究会理事
昭和 56 年 4 月 教育科学研究会会員（現在に至る）
昭和 56 年 4 月 新英語教育研究会中央常任委員（昭和 58 年～平成 2 年事務局長）
昭和 60 年 4 月 埼玉県高等学校英語教育研究会理事
昭和 61 年 4 月 日本英語教育改善懇談会事務局長（平成 2 年まで）
平成 4 年 4 月 語学教育研究所会員（現在に至る）
平成 7 年 4 月 映画英語教育学会理事（現在に至る）
平成 10 年 4 月 日本イギリス児童文学会会員（現在に至る）
平成 15 年 4 月 世界幼児教育機構（OMEP）会員（現在に至る）
平成 15 年 4 月 日本保育学会会員（現在に至る）

（４）当該短期大学の過去 7 ヶ年の改廃状況（入学定員の変遷を含む）及び現在の設置学科・専攻ごとの入学者数及び定員補充率

2000 年度より臨時定員増によって増えていた心理学科及び教養科の定員を徐々に減らし、2004 年度において本来の定員に落ち着いている。保育科は入学希望者も多く、常に定員を超えて充足しているが、その他の学科については年度によって定員に達しない時もある。とりわけ教養科と心理学科においては近隣の大学が四年制に移行するに伴い、大きな影響を受けており、学科のカリキュラムを変えながら学生のニーズに応えられるように努力し、ほぼ定員を確保している。

表序－① 学科・専攻科別入学者数の過去 7 年間の推移

定員 年度	保育科		心理学科		教養科		福祉援助学 科		専攻科保育 専攻		専攻科福祉 専攻	
	*1		*2		*3		(8 0)		(1 5) *4		(4 0)	
	入学	充足	入学	充足	入学	充足	入学	充足	入学	充足	入学	充足
1999	219	146%	143	143%	96	96%	88	110%	13	87%	31	78%

2000	250	139%	120	133%	48	69%	88	110%	10	67%	38	95%
2001	252	140%	99	116%	20	31%	87	109%	17	113%	28	70%
2002	249	138%	98	123%	53	88%	89	111%	10	67%	35	88%
2003	253	141%	80	107%	59	107%	87	109%	11	73%	34	85%
2004	246	137%	79	113%	57	114%	78	98%	9	60%	32	80%
2005	123	123%	83	119%	—	—	87	109%	—	—	30	75%

*1) 保育科は1998年～1999年度まで150人、2000年～2004年度まで定員180人、2005年度～定員100人

*2) 心理学科は1998年～1999年度まで定員100人、2000年度が90人、2001年度が85人、2002年度が80人、2003年度から75人、2004年度から70人である。)

*3) 教養科は1998年～1999年度まで定員100人、2000年度が70人、2001年度が65人、2002年度が60人、2003年度から55人である。2004年度から50人、2005年度から募集停止。

*4) 専攻科保育専攻は2005年度から募集停止

(5) 本学の過去3ヵ年学生の出身地別人数及び割合

本学は東京都の西部に位置し、多摩地域の高校及び西武線や武蔵野線を利用して埼玉県から通学する学生が多い。また中央線を使って山梨県などからも通学範囲として意識されており、毎年一定数が入学している。例年約9割の学生が自宅からの通学者である。下記出身地は、出身高等学校の所在地である。

表序－②

	北海道	東北	関東	東京	埼玉	甲信越	東海	北陸	近畿	中四国	九州	沖縄	その他	合計
2003	5	12	20	359	41	25	4	2	6	2	2	0	1	479
	1.0%	2.5%	4.2%	74.9%	8.6%	5.2%	0.8%	0.4%	1.3%	0.4%	0.4%	0%	0.2%	
2004	4	10	28	344	38	24	4	1	3	1	1	1	1	460
	0.9%	2.2%	6.1%	74.8%	8.3%	5.2%	0.9%	0.2%	0.7%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%	
2005	1	4	20	204	36	16	4	0	3	1	2	0	2	293
	0.3%	1.4%	6.8%	69.6%	12.3%	5.5%	1.4%	0%	1.0%	0.3%	0.7%	0%	0.7%	
出身地	北海道	青森 宮城 秋田 山形 福島 岩手	茨城 栃木 群馬 千葉 神奈川	東京	埼玉	山梨 長野 新潟	静岡 岐阜	富山	大阪 兵庫 滋賀 和歌山	鳥取 広島 島根 香川 徳島	長崎 鹿児島 福岡 熊本	沖縄	大検 外国	

(6) 当法人が設置する他の教育機関等

①白梅学園大学

所在地：東京都小平市小川町1丁目830番地

2005年度入学定員：1年 120人

2005年度学生数：1年 149人

②白梅学園高等学校

所在地：東京都小平市小川町1丁目830番地

2005年度入学定員：1年 400人 2年 400人 3年 400人 計 1200人

2005年度学生数：1年 340名 2年 322名 3年 198名 計 860名

③白梅幼稚園

所在地：東京都小平市小川町1丁目830番地

2005年度入学定員：3歳児（3学級） 90名

4歳児（3学級） 105名

5歳児（3学級） 105名

2005年度園児数：3歳児 52名

4歳児 89名

5歳児 79名

（7）その他

①財務について

当法人は本学ならびに併設の白梅学園高等学校、および付属の白梅幼稚園をあわせて財務を行っており、本学だけで財務の状況を明確に示すことはできない。また保育士及び介護福祉士の養成課程を中心とした本学は、演習や実習などによって少人数による授業などの対応が必要であり、財政的にゆとりがあるというわけにはいかない。更に教養教育における選択科目を幅広く設置することによって、学生の視野を広げることを重視しており、その点からも財政的な支出が多くなっている。

②略語について

本報告において、学校法人白梅学園は「当法人」、白梅学園短期大学は「本学」また保育科、心理学科、教養科、福祉援助学科、保育専攻及び福祉専攻を合わせて「学科等」と表記している。本報告書内の「委員会」とは、学長、副学長、4学科代表者、企画調整室代表で構成する「自己点検・自己評価委員会」のことをいう。

《領域Ⅰ 建学の精神・教育理念・教育目標》

【建学の精神、教育理念について】

（１）白梅学園短期大学建学の精神

本学は「人間を愛し、人間の価値を尊重するヒューマンイズムの精神」を建学の理想として掲げ、60余年にわたって、その探求と実現をめざし、教育・研究活動を展開してきている。

本学はこの建学の精神にもとづき、学則並びに学生便覧に「日本国憲法および教育基本法の精神の実現につとめ、社会の発展と人類の福祉に寄与する人材を育成することを目的とする」と書き込んだ。

ヒューマンイズムとは人間性の調和的な発展をめざすものであり、人間を真理や価値の基礎に置く人間中心主義であるが、人間の価値が脅かされている現代においては人間性の回復をめざす言葉としてより重要な意味を持つと判断している。

本学は1942年に東京家庭学園として創立して以来、保育士の養成校として子どもの教育に軸足を置き、1957年の短期大学設立と同時に保育科が設置された。学園の設立の柱は子どもにある。さらに1961年には短期大学として初めて心理技術科が設置され、人間の心の問題について研究することが位置づいた。1966年には教養科を設置し、中学校の教員養成においても人間中心の精神を込めることに配慮が行われた。そして1998年には福祉援助学科が設立され、障害を持つ人々や高齢者への視点も持てるようになった。文字通り全ての世代に人間尊重の精神が届くように学園としての道筋が確立された。

（２）建学の理念の周知方法

本学では毎年学生に配布される「学生便覧」において、その冒頭に「建学の理想および教育目的」を掲げている。本学の目指す人間像は以下の通りである。

1. 自分と他人を大切にし、人類愛にみちた人間
2. 主体的に判断し、行動し、その結果に責任をもつ人間
3. 知的な探究心にみち、論理的に考え、生涯学びつづける姿勢をもつ人間
4. 美しいものに感動する心をもち、新鮮なおどろきを感じられる人間
5. 仲間と協力して、民主的で平和な社会をつくり、新しい文化を創造する人間

この建学の理念や教育目的は、入学時の学長挨拶や各学科でのオリエンテーションでも語られ、授業科目や行事などにおいても折に触れて学生に伝えられている。

教職員の採用に関しては、本学の理念や教育目的に沿って選考が行われ、「ヒューマンイズム」はその柱として位置づけている。

（３）周知するための特別な取り組み

（２）でも触れたように、入学式やオリエンテーションなどを利用するが、各学科ごとにオリエンテーションゼミを実施して、学園生活の送り方や学習の進め方とともに、理念について学生の理解を深めることも一つの取り組みとして位置づいている。

また、各教科目やカリキュラムに反映させ、教育体系において建学の理念を体現することに

も意を用い、「ヒューマニズム論」をはじめ、人文・社会・自然の分野から人間探求にアプローチすることのできる教養教育科目群を開設し、それらをほぼ必修化することで教育理念の追求を目指している。

【教育目的・教育目標について】

本学には4学科の他に教養教育部門及び専攻科を設置している。この項目では、教育目的・教育目標を学科等別に記述する。

（１）学科等ごとの教育目標

①教養教育

教養教育科目は、本学の学生全員が学科の違いを超えて共通して学ぶ科目群であり、人類の築いてきた諸学の精髓に触れることで、知的・学問的に「自己と世界」を見る力を養うことを目標としている。下記A～Gの7群で構成されている。

A群 ヒューマニズムに関する科目群 — 「人間とは何か」を考える

B群 人間と環境に関する科目群 — 自分自身を見つめる

C群 生と死と健康に関する科目群 — 穏やかに生きる基盤

D群 表現とコミュニケーションに関する科目群 — 人と人との繋がり

E群 日本と世界の文化に関する科目群 — 国境と時代を超えた人との繋がり

F群 現代社会と人間に関する科目群 — 今、人間としてどう生きるか

G群 情報に関する科目群 — 情報機器について学ぶ

②保育科

保育科は、人間尊重の理念に立ち、科学的認識にもとづく、新しい保育理論と技術を備えた保育士および幼稚園教諭を養成する。

③心理学科

心理学科は、豊かな教養のうえに科学的認識をもって心理学的事象を理解し、すべての人びとの福祉に役立つように、心理学の知識を用いる人間を養成する。

④教養科

教養科は、現代社会と文化の本質について、多様な観点から科学的に理解できる力を養成する。さらにその力を、幼児教育を含む広い意味での他者への支援に役立てられる人材を育てることをめざす。

⑤福祉援助学科

福祉援助学科は、福祉の理念に根ざした高度な対人援助についての専門教育をほどこし、人間尊重の精神を身につけた介護福祉士を養成する。

⑥専攻科保育専攻

専攻科保育専攻は、短期大学卒業生またはそれと同等以上の学力のある者に対し、幼児教育ならびに児童福祉・社会福祉に関する一層高度な理論的実践的研究を指導する。

⑦専攻科福祉専攻

専攻科福祉専攻は、保育士養成所を卒業して保育士資格を取得したものに対し、社会福祉に関する高度な理論的・実践的な研究を指導すると同時に、介護福祉士を養成する。

（２）学生や教職員への周知の方法について

本学では教育目的・教育目標を、すべての学生に対して「学生便覧」によって提示している。「学生便覧」は学生の大学での授業や生活全てにわたってまとめられたもので、本学では学生及び教職員双方共に常に参照するものとなっている。

（３）周知するための特別な取り組み

（２）でも触れたように「学生便覧」の冒頭に書かれており、新入学者及び新２年生ともに行われる４月のオリエンテーションにおいて、その便覧全体について説明が行われる。その際に教育目的や教育目標についても触れることになる。

また、毎年のカリキュラム編成の見直しの際に、建学の理念、教育目標が教育体系に適切に反映され、効果あらしめているか否かの点検を行い、改善をすすめている。

【定期的な点検等について】

（１）定期的な点検を行う組織及び手続き

教育目的や教育目標は大学の基本理念であり、定期的な点検を行うための恒常的な組織が置かれているわけではない。年度末において次年度の「学生便覧」を作成するにあたって、教務部より各学科及び各部署に対して前年度のものをどのように変更するのかが求められ、学科によっては変更される場合もありうる。教育目的や教育目標の改定については、最終的には教授会の決定を必要とする。

（２）点検における理事会や教授会の関与について

（１）で示したように、教育目的や教育目標を変更する場合は、各学科より教務部に変更案が提示され、教務委員会の議を経て教授会に提案される。

本学園は幼稚園、高校、短期大学及び大学を抱えており、教育目的や教育目標については各部署で決定することを原則としている。したがって理事会として直接関わるようなシステムにはなっていない。ただし、理事会から教育目的や教育目標について意見を出す場合は、各部署から出されている理事を通じて行われることになる。

【特記事項について】

（１）建学の精神等について特に努力していること

日常的に建学の理念を周知、徹底する努力を続けているが、さらに、教育課程において、その理念が十二分に発揮できるような体系を築くことに力を注ぎたい。とりわけ教養教育的な側面から教育課程において本学の建学の理念を支えていた教養科の廃科に伴い、その役割を如何にして他の学科、領域において確保していくかが重要な課題であり、学園全体の将来構想の策定に当たっても、重要な柱として位置付け、「ヒューマニズムの精神」を保育・教育の場で発揮できる実践者の育成に努めたい。

（２）評価項目が実現できない事由等

教育理念、教育目標が具体的な教育活動の中で常に生かされ、その徹底についての努力が日常的に蓄積されているかどうかについては、学長をはじめとする執行部が常に点検の姿勢を持ち、将来にわたっての取り組み姿勢を再確認する役割を担っていると考えます。法人組織との連携の上で、常に理念と目標の実現に向けて活動が進められているかを確認し、将来展望を開く際の指針として掲げることが重視したい。とくに来年度は本学建学 50 周年に当たるので、その記念事業などを通して「ヒューマンイズムの精神」の今日的意義を再確認する機会としたい。

《領域Ⅱ 教育の内容》

【教育課程について】

（１）各学科等の教育目的・教育目標（再掲）

①教養教育

教養教育科目は、本学の学生全員が学科の違いを超えて共通して学ぶ科目群であり、人類の築いてきた諸学の精髓に触れることで、知的・学問的に「自己と世界」を見る力を養うことを目標としている。下記A～Gの7群で構成されている。

A群 ヒューマニズムに関する科目群 — 「人間とは何か」を考える

B群 人間と環境に関する科目群 — 自分自身を見つめる

C群 生と死と健康に関する科目群 — 穏やかに生きる基盤

D群 表現とコミュニケーションに関する科目群 — 人と人との繋がり

E群 日本と世界の文化に関する科目群 — 国境と時代を超えた人との繋がり

F群 現代社会と人間に関する科目群 — 今、人間としてどう生きるか

G群 情報に関する科目群 — 情報機器について学ぶ

②保育科

保育科は、人間尊重の理念に立ち、科学的認識にもとづく、新しい保育理論と技術を備えた保育士および幼稚園教諭を養成する。

③心理学科

心理学科は、豊かな教養のうえに科学的認識をもって心理学的事象を理解し、すべての人びとの福祉に役立つように、心理学の知識を用いる人間を養成する。

④教養科

教養科は、現代社会と文化の本質について、多様な観点から科学的に理解できる力を養成する。さらにその力を、幼児教育を含む広い意味での他者への支援に役立てられる人材を育てることをめざす。

⑤福祉援助学科

福祉援助学科は、福祉の理念に根ざした高度な対人援助についての専門教育をほどこし、人間尊重の精神を身につけた介護福祉士を養成する。

⑥専攻科保育専攻

専攻科保育専攻は、短期大学卒業生またはそれと同等以上の学力のある者に対し、幼児教育ならびに児童福祉・社会福祉に関する一層高度な理論的実践的研究を指導する。

⑦専攻科福祉専攻

専攻科福祉専攻は、保育士養成所を卒業して保育士資格を取得したものに対し、社会福祉に関する高度な理論的・実践的な研究を指導すると同時に、介護福祉士を養成する。

（２）各学科の現在の教育課程（付表として教育課程表及び授業形態等一覧表）

①教養教育

全ての学科に共通する科目群として教養教育科目が設置されており、その中から各学科に必要なとされた単位を取得することになっている。各学科ごとに取得の方法等が異なるので、付表は

それぞれの学科ごとに配置してある。

②保育科

教養教育科目については体育と語学の必修を含めて16単位を修得することになっているが、幼稚園の二種免許において日本国憲法も必修となっている。それ以外は概ね幅広い分野において履修していると判断できる。専門教育科目については免許科目に係る必修が多く、2年間で90単位以上履修している学生が多いため、選択科目がとりにくいという課題がある。2年次の専門教育科目においては選択科目が設置されており、1年半にわたるゼミナール（ゼミナールⅠ、ゼミナールⅡ）と合わせて、学生の選択の要求に応えるものとして効果的に位置づいている。

表Ⅱ－①2005年度保育科1年次履修状況

<教養教育>

科目群		授業科目名	授業形態			卒業単位			教員配置			2005年度 ()は分割数	
			講 義	演 習	実 習	必 修	選 必	選 択	専 任	兼 担	兼 任	履修人数	
教養教育科目	A 総合	ヒューマニズム論	○					2		○		10	(1)
		人間	○					2		○	○	0	(1)
	B 生命	生理学〔体の不思議〕	○					2			○	11	(1)
		生物学〔生物の世界〕	○					2			○	12	(1)
		生と死を考える	○					2			○	18	(1)
		生活と健康	○					2			○	16	(1)
		自然環境と人間	○					2	○			35	(1)
		人間の生と性	○					2			○	42	(1)
	C 人間	美術〔造形とイメージネーション〕	○					2		○		57	(1)
		庶民の生活文化	○					2			○	12	(1)
		言語とコミュニケーション	○					2		○		52	(1)
		異文化コミュニケーション	○					2	○			6	(1)
		手話入門	○					2			○	15	(1)
		日本文学	○					2			○	34	(1)
		英米文学	○					2		○		0	(1)
		心理学A〔心のしくみ〕	○					2	○			43	(1)
		心理学B〔性格と人間関係〕	○					2			○	49	(1)
		日本国憲法	○					2			○	140	(2)
	D 社会	男と女・ジェンダーを考える	○					2	○			5	(1)
		現代社会と人間A〔近代国家と戦争〕	○					2		○		17	(1)

専門 教育科目		現代社会と人間B〔消費社会と欲望〕	○				2			○	19	(1)
		現代社会と人権	○				2			○	18	(1)
		現代社会とコミュニティ	○				2			○	16	(1)
		日本とアジアの近現代史	○				2		○		4	(1)
	E 外国語	外国語Ⅰ		○			1			○	123	(7)
		外国語Ⅱ		○			1			○	121	(7)
		海外語学研修		○			2		○		0	(1)
		英会話（基礎）Ⅰ		○			1			○	8	(1)
		英会話（基礎）Ⅱ		○			1			○	6	(1)
	F 体育	教養体育（実技）		○		1				○	124	(4)
		教養体育（講義）	○			1				○	122	(1)
	G 情報	情報処理入門	○				2			○	124	(3)
	目的 の理解	社会福祉	○				2		○		122	(1)
		児童福祉	○				2	○			122	(1)
		保育原理Ⅰ	○				2		○		123	(1)
		保育原理Ⅱ	○				2		○		121	(1)
		保育者論	○				2		○	○	123	(1)
		教育原理	○				2	○			122	(1)
	対象 の理解	発達心理学	○				2	○			125	(1)
		教育心理学	○				2	○			121	(1)
		小児保健Ⅰ	○				2			○	123	(1)
		小児保健Ⅱ	○				2			○	121	(1)
		小児栄養Ⅰ		○			1		○		123	(3)
	内容 方法 の理解	教育課程総論	○				2	○			124	(1)
		保育内容総論		○			1	○	○		123	(2)
		保育内容 健康		○			1		○		124	(3)
		保育内容 言葉		○			1		○		128	(3)
		乳児保育Ⅰ		○			1	○			123	(3)
	基 技	音楽Ⅰ		○			1		○	○	123	※
		図画工作		○			2	○	○		120	(6)
	演習 総合	ゼミナールⅠ		○		1		○			120	(9)
	実 習	幼稚園実習			○		5	○			124	
		実習指導			○		1	○			123	
		保育所実習Ⅰ			○		2	○			120	

表Ⅱ－② 2005年度保育科2年次科目履修状況

学年		科目名	授業形態			卒業単位			教員配置			2005年度	
			講義	演習	実習	必修	選必	選択	専任	兼任	兼任	履修人数	
教養教育科目	D表現とコミュニケーション	海外語学研修		○			2		○			0	(1)
		選択外国語 英会話（応用）		○				2			○	0	(1)
		選択外国語 フランス語会話		○				2			○	0	(1)
		選択外国語 ドイツ語会話		○				2			○	0	(1)
		選択外国語 中国語会話		○				2			○	0	(1)
		選択外国語 英文講読		○				2			○	0	(1)
専門教育科目	目的の理解	社会福祉援助技術		○				2		○	○	228	(4・5)
		現代保育の課題	○					2	○			8	(1)
		養護原理	○					2	○			231	(2)
		家族援助論	○					2		○		228	(2)
	対象の理解	小児保健実習			○			1			○	230	(6)
		小児栄養Ⅱ		○				1		○		230	(3)
		精神保健	○					2	○			231	(2)
	内容・方法の理解	保育内容 人間関係		○				1		○		259	(4)
		保育内容 環境		○				1	○		○	259	(6)
		保育内容 表現		○				2	○	○		261	(2・6)
		幼児の運動遊び		○				1		○		87	(2)
		子どもの活動と自然		○				1	○		○	79	(2)
		お話しの世界		○				1		○		91	(3)
		子どもの音楽の世界		○				1	○			113	(2)
		子どもの造形と遊び		○				1	○	○		124	(3)
		遊びと身体表現		○				1	○			86	(2)
		乳児の遊び		○				1			○	111	(2)
		保育計画法		○				1	○			257	(2)
		幼児教育の方法		○				2	○			250	(2)
		乳児保育Ⅱ		○				1	○			230	(4)
		養護内容		○				1	○		○	229	(5)
		障害児保育		○				1	○	○		236	(4)
		保育臨床相談		○				2	○	○		248	(2)
	基技	音楽Ⅱ		○				1	○		○	254	※
		体育		○				2	○		○	242	※
	演習総合	ゼミナールⅡ		○		2			○	○		261	(19)
	実習	幼稚園実習			○			5	○			248	
		実習指導			○			1	○			226	

	保育所実習Ⅱ			○		2	○		201	
	施設実習Ⅰ			○		2	○		227	
	施設実習Ⅱ			○		2	○		25	

③心理学科

本学科の教育課程は、専門教育科目と教養教育科目に大別される。専門教育科目では、心理学の基礎から応用にいたる幅広い分野の科目が配置され、短期大学の2年間という限られた期間の中で、心理学のほぼ全体が網羅されている。

専門教育科目の中には、心理学の実験を行って結果をレポートにまとめるところまで指導する科目、心理学でよく使われる統計技法やコンピュータの利用を実際的に指導する科目などがあり、言語的な知識だけでなく、心理学の考え方が実践的・体験的に身につけられるように配慮されている。

また、近年の若者の就職・就労に対する意識を高めるため、就職支援に関する科目、実際の職業現場で体験的に実習を行うインターンシップ科目、ホームヘルパー(訪問介護員)2級の資格を得るための家庭介護科目などが配置されている。一方、教養教育科目では、全学共通の幅広い分野を学修する科目群のほか、英語のほかフランス語、ドイツ語、中国語といった外国語科目を幅広く配置し、広く深い教養を身につけるための配慮がなされている。なお、2005年度入学生からは、教養教育科目の科目区分が変更されたことに加え、2年次での外国語科目と体育科目が選択科目となり、より柔軟な科目選択ができるようになった。

全体として、心理学を中心としながら、幅広い人間理解と実践のための教育課程が整備されているといえる。

表Ⅱ－③ 2005年度心理学科1年次科目履修状況

科目群	科目	授業形態			卒業単位			教員配置			2005年度	
		講義	演習	実習	必修	選必	選択	専任	兼任	兼任	履修人数	
教養教育科目	A 総合	ヒューマニズム論	○				2		○		43	(1)
		人間	○				2		○	○	12	(1)
	B 生命	生理学〔体の不思議〕	○				2			○	10	(1)
		生物学〔生物の世界〕	○				2			○	10	(1)
		生と死を考える	○				2			○	58	(1)
		生活と健康	○				2			○	19	(1)
		自然環境と人間	○				2	○			15	(1)
		人間の生と性	○				2			○	63	(1)
	C 人間	美術〔造形とイメージ〕	○				2		○		51	(1)
		庶民の生活文化	○				2			○	75	(1)
		言語とコミュニケーション	○				2		○		40	(1)
		異文化コミュニケーション	○				2	○			23	(1)
		手話入門	○				2			○	14	(1)

専門教育科目	D 社会	日本文学	○				2			○	38	(1)
		英米文学	○				2		○		45	(1)
		日本国憲法	○				2			○	45	(1)
		男と女・ジェンダーを考える	○				2	○			53	(1)
		現代社会と人間 A〔近代国家と戦争〕	○				2		○		19	(1)
		現代社会と人間 B〔消費社会と欲望〕	○				2			○	18	(1)
		現代社会と人権	○				2			○	25	(1)
		現代社会とコミュニティ	○				2		○		7	(1)
		日本とアジアの近現代史	○				2			○	45	(1)
	E 外国語	外国語Ⅰ		○			1			○	89	(6)
		外国語Ⅱ		○			1			○	83	(6)
		海外語学研修		○			2		○		0	(1)
		英会話（基礎）Ⅰ		○			2			○	8	(1)
		英会話（基礎）Ⅱ		○			2			○	6	(1)
	F 体育	教養体育（実技）		○			1			○	37	(1)
		教養体育（講義）	○				1			○	24	(1)
	基礎心理科目	心理学概説	○			2			○		90	(1)
		児童心理学	○			2			○		84	(1)
		知覚心理学	○			2			○		83	(1)
		学習心理学	○			2			○		92	(1)
		認知心理学	○				2	○			53	(1)
		性格心理学	○			2			○		83	(1)
		生理心理学	○			2				○	80	(1)
	演習科目	プレゼンテーション技法		○		1					85	(2)
		心理学実験演習		○		2			○		85	(6)
		心理テスト・調査演習		○		2			○		81	(6)
		論文の読み方		○		1			○		62	(4)
		心理統計Ⅰ		○		1			○		89	(2)
		心理統計Ⅱ		○		1			○		87	(2)
	演習科目	コンピュータ演習Ⅰ		○		1			○		85	(2)
		コンピュータ演習Ⅱ		○		1			○		67	(2)
		インターンシップ		○			1	○			13	(1)
	特別選択科	時事・社会特講	○				2			○	47	(1)
		労働・健康特講	○				2			○	35	(1)
		生きがい情報士特論	○				1	○		○	13	(1)
		家庭介護総論	○				4	○		○	5	(1)

		家庭介護演習	○	○				1	○		○	5	(1)
		家庭介護実習			○			1	○		○	5	(1)

表Ⅱ－④ 2005年度心理学科2年次科目履修状況

科目群		科目	授業形態			卒業単位			教員配置			2005年度	
			講義	演習	実習	必修	選必	選択	専任	兼任	兼任	履修人数	
教養教育科目	D表現とコミュニケーション	海外語学研修		○			2		○			0	(1)
		応用英語Ⅰ		○		1					○	67	(3)
		応用英語Ⅱ		○		1					○	65	(3)
		選択外国語 英会話（応用）		○				2			○	5	(1)
		選択外国語 フランス語会話		○				2			○	0	(1)
		選択外国語 ドイツ語会話		○				2			○	2	(1)
		選択外国語 中国語会話		○				2			○	4	(1)
		選択外国語 英文講読		○				2			○	7	(1)
専門教育科目	基礎	青年心理学	○					2	○			52	(1)
	演習科目	卒業研究プレゼミ		○		1			○			68	(7)
		心理技法演習		○		1				○	○	67	(8)
		インターンシップ		○				1	○			21	(1)
	応用心理科目	対人心理学	○					2	○			50	(1)
		臨床心理学	○					2	○			53	(1)
		精神生理学	○					2	○			46	(1)
		心理テスト法Ⅰ	○					2	○			44	(1)
		心理テスト法Ⅱ	○					2	○			38	(2)
		カウンセリング	○					2			○	80	(1)
		行動分析	○					2	○			39	(1)
		コミュニケーション心理学	○					1	○			39	(1)
		非行・犯罪心理学	○					2			○	51	(1)
		障害児心理学	○					2	○			68	(1)
		健康心理学	○					2			○	51	(1)
		社会調査法	○					2			○	11	(1)
		心理学特講	○					2			○	52	(1)
		環境心理学	○					2			○	23	(1)
		ピアヘルパー	○					1			○	45	(1)
	医	精神医学	○					2			○	44	(1)
		卒業研究		○		2			○			66	(7)
	特別選択科目	家庭介護総論	○					4	○		○	9	(1)
		家庭介護演習	○	○				1	○		○	9	(1)
		家庭介護実習			○			1	○		○	9	(1)

④教養科

教養科は2002年よりそれまでの歴史コース、文学コース、英語コミュニケーションコースから現代教養コースと現代保育教養コースになった。2005年度はその4年目であり、最後の卒業生を送り出す年でもあった。

現代教養コースは、幅広く教養を学べるようになっている。学生は多くの選択肢の中から卒業に必要な68単位を修得する。自然科学、社会科学、人文科学のあらゆる分野に科目群は及び、保育や心理、そして福祉に関わる科目の選択も可能である。

現代保育教養コースは幼稚園二級免許の取得を目指す中で、教養科にふさわしい学習内容を確保するために、現代保育教養選択科目群を設置し、保育科とは違った保育に関わる教養を位置づけた。

表Ⅱ－⑤ 2005年度現代保育教養コース2年次科目履修状況

科目群	科目名	授業形態			卒業単位			教員配置			2005年度	
		講義	演習	実習	必修	選必	選択	専任	兼任	兼任	履修人数	
教養教育科目	A ヒューマニズム	ヒューマニズム論	○				2		○		4	(1)
		総合科目・人間	○				2		○	○	1	(1)
		現代とヒューマニズムⅠ〔近代国家と戦争〕	○				2		○		2	(1)
		現代とヒューマニズムⅡ〔消費社会と欲望〕	○				2			○	3	(1)
	B 人間と環境	心理学入門Ⅰ〔心のしくみ〕	○				2	○			0	(1)
		心理学入門Ⅱ〔性格と人間関係〕	○				2			○	1	(1)
		体の不思議	○				2			○	1	(1)
		生物の世界と人間	○				2			○	0	(1)
		人間と環境	○				2	○			0	(1)
	C 生死と健康	生と死を考える	○				2			○	0	(1)
		人間の生と性	○				2			○	3	(1)
		生活と健康	○				2			○	0	(1)
		教養体育（実技）		○		1				○	0	(1)
		教養体育（講義）	○			1				○	1	(1)
	D 表現とコミュニケーション	外国語Ⅰ		○			1			○	1	(4)
		外国語Ⅱ		○			1			○	1	(4)
		海外語学研修		○			2	○			0	(1)
		選択外国語 英会話（基礎）		○			1			○	0	(1)
		選択外国語 英会話（応用）		○			2			○	3	(1)
		選択外国語 フランス語会話		○			2			○	0	(1)
		選択外国語 ドイツ語会話		○			2			○	0	(1)

現代保育教養専門科目	D 表現とコミュニケーション	選択外国語 中国語会話		○				2			○	0	(1)
		選択外国語 英文購読		○				2			○	0	(1)
		選択外国語 異文化コミュニケーション	○					2	○			5	(1)
		言語とコミュニケーション	○					2		○		0	(1)
		手話入門	○					2			○	0	(1)
		造形美術とイメージ	○					2		○		3	(1)
	E 日本と世界の文化	近現代の日本文学	○					2			○	4	(1)
		庶民の生活文化	○					2			○	0	(1)
		現代英米の文学	○					2		○		2	(1)
	F 現代社会と人	現代社会と人権	○					2			○	1	(1)
		憲法と私たち(日本国憲法)	○					2			○	12	(1)
		日本とアジアの近現代史	○					2		○		1	(1)
		男と女・ジェンダーを考える	○					2	○			11	(1)
		地域生活と家族	○					2			○	0	(1)
	基礎理論と保育教養	メディア社会と子ども	○					2		○		27	(1)
		子どもの歴史	○					2	○			12	(1)
		子どもの育ちと文化	○					2			○	【非開講】	
		子育て支援論	○					2			○	10	(1)
		子どもと人権	○					2			○	6	(1)
		多文化社会と子ども	○					2	○			27	(1)
		児童文学の世界	○					2			○	12	(1)
		女性労働と子育て	○					2	○			25	(1)
	保育内容と指導法	うた・おとの世界		○				1			○	18	(1)
		幼児の身体表現		○				1			○	6	(1)
		運動遊びの指導		○				1			○	5	(1)
		伝承遊び入門		○				1			○	9	(1)
		幼児の絵画指導		○				1			○	20	(1)
		遊びの造形		○				1			○	17	(1)
		児童文化演習		○				1			○	13	(1)
		児童文学演習		○				1		○		10	(1)
	実習	保育内容・指導法演習		○				2			○	26	(1)

表Ⅱ－⑥ 2005年度教養科現代教養コース2年次科目履修状況

科目群		科目名	授業形態			卒業単位			教員配置			2005年度	
			講義	演習	実習	必修	選必	選択	専任	兼任	兼任	履修人数	
	aゼミ	ゼミナールⅡ		○		2				○		22	(2)
		卒業研究		○		2				○		22	(2)

現代教養専門専門科目

b 入門	博物館の現場(博物館実習)			○		3		○	○	4	(1)
	ビジネスの現場		○			2			○	17	(1)
c ヒューマニズムと人間	ヒューマニズム論	○				2		○		8	(1)
	総合科目・人間	○				2		○	○	11	(1)
	現代とヒューマニズムⅠ(近代国家と戦争)	○				2		○		5	(1)
	現代とヒューマニズムⅡ(消費社会と欲望)	○				2			○	9	(1)
	人物研究Ⅰ〔和泉式部〕	○				2		○		2	(1)
	人物研究Ⅱ〔柳田国男〕	○				2			○	14	(1)
	人物研究Ⅲ〔有島武郎〕	○				2			○	7	(1)
d 情報とコミュニケーション	情報ネットワーク論	○				2			○	20	(1)
	視聴覚教育メディア論	○				1			○	3	(1)
	言語とコミュニケーション	○				2		○		4	(1)
	海外語学研修		○		2		○			0	(1)
	応用英語Ⅰ		○		1				○	22	(1)
	応用英語Ⅱ		○		1				○	22	(1)
	選択外国語 英会話(応用)		○			2			○	0	(1)
	選択外国語 フランス語会話		○			2			○	0	(1)
	選択外国語 ドイツ語会話		○			2			○	0	(1)
	選択外国語 中国語会話		○						○	0	(1)
	選択外国語 英文購読		○			2			○	0	(1)
	選択外国語 ビジネス英語	○				2	○			2	(1)
	選択外国語 異文化コミュニケーション	○				2	○			9	(1)
	造形美術とイメージ	○				2		○		3	(1)
	手話入門	○				2			○	0	(1)
e 文学表現と歴史	話し言葉の伝承	○				2			○	17	(1)
	絵本・絵巻と物語表現	○				2		○		14	(1)
	源氏物語の世界	○				2		○		7	(1)
	児童文学の世界	○				2			○	12	(1)
	比較文化論・近代文明と日本人	○				2			○	4	(1)
	近現代の日本文学	○				2			○	15	(1)
	現代英米の文学	○				2		○		10	(1)
	世界の児童文学	○				2	○			7	(1)
	国境を越える民俗学	○				2			○	14	(1)
	日本とアジアの近現代史	○				2			○	6	(1)

f	現代社会と福祉	社会福祉の考え方	○					2		○		9	(1)
		地域生活と家族	○					2		○		2	(1)
		男と女・ジェンダーを考える	○					2	○			5	(1)
		現代社会と人権	○					2			○	4	(1)
		憲法と私たち(日本国憲法)	○					2			○	4	(1)
		ビジネス実務を知る	○					2			○	20	(1)
		家庭介護総論	○					4	○			3	(1)
		家庭介護演習	○	○				1	○			3	(1)
		家庭介護実習			○			1	○			3	(1)
	g 現代の子ども	子どもの育ちと文化	○					2				【非開講】	
		子育て支援論	○					2			○	5	(1)
		多文化社会と子ども	○					2	○			21	(1)
		生涯学習概論	○					1			○	14	(1)
		庶民の生活文化	○					2			○	3	(1)
	h 現代の環境と健康	心理学入門Ⅰ(心のしくみ)	○					2	○			5	(1)
		心理学入門Ⅱ(性格と人間関係)	○					2			○	5	(1)
		体の不思議	○					2			○	4	(1)
		生物の世界と人間	○					2			○	2	(1)
		人間と環境	○					2	○			1	(1)
		生活と健康	○					2			○	1	(1)
		生と死を考える	○					2			○	11	(1)
		人間の生と性	○					2			○	9	(1)

⑤福祉援助学科

カリキュラムの構造は、専門必修科目、教養科目からなる。

専門科目には、厚生労働省が介護福祉士資格取得に必要としている指定科目62単位と、本学独自科目の「卒業研究ゼミナール」と「福祉研究入門」がある。さらに選択科目として、「遊びの造形」「シニアの音楽とダンス」「発達心理学」「ホスピスケア論」などの科目から6単位を選択必修としている。本学の特徴を活かし、保育や心理学の領域からも幅広く福祉や処遇、文化、心理について学ぶことができるよう配慮されている。

教養科目は、全学共通に開校されている6分野から、語学の選択必修を含み11単位選択する。教養科目はヒューマニズム、人間と環境、生と死、文化、社会などのジャンルがある。「ヒューマニズム論」、や「近代とヒューマニズム」は選択する学生も多く、介護福祉士としての幅広い教養と、人間理解を深めることができるよう教育課程が整備されている。

表Ⅱ－⑦ 2005年度福祉援助学科1年次科目履修状況

科目群		科目名	授業形態			卒業単位			教員配置			2005年度	
			講義	演習	実習	必修	選必	選択	専任	兼任	兼任	受講人数	
教養教育科目	E 外国語	外国語Ⅰ		○			1				○	87	(5)
		外国語Ⅱ		○			1				○	82	(5)
		海外語学研修		○			2		○			0	(1)
	F 体育	教養体育（実技）		○				1			○	36	(1)
		教養体育（講義）	○					1			○	2	(1)
専門教育科目	専門必修科目	社会福祉概論Ⅰ	○			2			○			87	(1)
		社会福祉概論Ⅱ	○			2			○			83	(1)
		老人福祉論Ⅰ	○			2					○	87	(1)
		老人福祉論Ⅱ	○			2					○	85	(1)
		リハビリテーション論	○			2			○			82	(1)
		レクリエーション活動援助法		○		2					○	82	(2)
		老人の心理	○			2					○	87	(2)
		障害者の心理	○			2				○		82	(1)
		家政学概論Ⅰ	○			2					○	87	(2)
		家政学概論Ⅱ	○			2					○	82	(2)
		医学一般Ⅰ	○			2					○	87	(1)
		医学一般Ⅱ	○			2					○	83	(1)
		精神保健	○					2			○	82	(1)
		介護概論Ⅰ	○			2			○			87	(2)
		介護概論Ⅱ	○			2			○			83	(2)
		介護技術Ⅰ		○				2	○			87	(2)
		介護技術Ⅱ		○				2	○			81	(2)
		介護技術Ⅲ		○				1	○		○	82	(2)
		形態別介護技術Ⅰ（老人）		○		1					○	87	(2)
		形態別介護技術Ⅱ（内部障害・肢体障害）		○		1					○	82	(2)
		形態別介護技術Ⅴ（聴覚障害）		○		1					○	87	(2)
		介護実習Ⅰ			○			3	○			81	
		介護実習Ⅱ			○			3	○			80	
		実習指導Ⅰ		○				1	○		○	81	(5)
		福祉研究入門		○		1			○			87	(5)
	福祉文化の	家族福祉論	○					2			○	79	(1)
		発達心理学	○					2		○		68	(1)

	援助と理解	遊びの造形		○			1			○	80	(2)
		シニアの音楽とダンス		○			1			○	74	(2)

表Ⅱ－⑧ 2005年度福祉援助学科2年次科目履修状況

科目群		科目名	授業形態			卒業単位			教員配置			2005年度	
			講義	演習	実習	必修	選必	選択	専任	兼任	兼任	受講人数	
教養教育科目	A ヒューマニズム	ヒューマニズム論	○					2		○		12	(1)
		総合科目・人間	○					2	○		○	14	(1)
		現代とヒューマニズムⅠ 〔近代国家と戦争〕	○					2		○		28	(1)
		現代とヒューマニズムⅡ 〔消費社会と欲望〕	○					2			○	18	(1)
	B 人間と環境	心理学入門Ⅰ〔心のしくみ〕	○					2	○			22	(1)
		心理学入門Ⅱ 性格と人間関係	○					2			○	41	(1)
		体の不思議	○					2			○	0	(1)
		生物の世界と人間	○					2			○	6	(1)
		人間と環境	○					2	○			4	(1)
	C 生死と健康	生と死を考える	○					2			○	25	(1)
		人間の生と性	○					2			○	10	(1)
		生活と健康	○					2			○	6	(1)
	D 表現とコミュニケーション	海外語学研修		○				2	○			0	(1)
		情報処理演習		○		1					○	74	(2)
		選択外国語英会話（基礎）		○				2			○	0	(1)
		選択外国語 英会話（応用）		○				2			○	0	(1)
		選択外国語 フランス語会話		○				2			○	0	(1)
		選択外国語 ドイツ語会話		○				2			○	6	(1)
		選択外国語 中国語会話		○				2			○	2	(1)
		選択外国語 英文講読		○				2			○	0	(1)
		選択外国語異文化コミュニケーション	○					2	○			10	(1)
		言語とコミュニケーション	○					2		○		2	(1)
		造形美術とイメージ	○					2		○		10	(1)
	E 日本の文化と世界	近現代の日本文学	○					2			○	35	(1)
		庶民の生活文化	○					2		○		18	(1)
		現代英米の文学	○					2			○	13	(1)
	F 現代社会と人間	現代社会と人権	○					2			○	3	(1)
		憲法と私たち（日本国憲法）	○					2			○	2	(1)
		日本とアジアの近現代史	○					2			○	3	(1)

専門教育科目	専門必修科目	男と女・ジェンダーを考える	○				2	○			32	(1)
		地域生活と家族	○				2		○		1	(1)
		障害児・者福祉論	○			2		○			73	(1)
		社会福祉援助技術	○			2		○			74	(1)
		社会福祉援助技術演習		○		1		○			75	(2)
		家政学実習Ⅰ（栄養・調理）			○	1				○	74	(2)
		家政学実習Ⅱ（被服・住居）			○	1				○	75	(2)
		医学一般Ⅲ	○				2			○	73	(1)
		形態別介護技術Ⅲ（知的障害・精神障害）		○		1				○	73	(2)
		形態別介護技術Ⅳ（視覚障害）		○		1				○	76	(2)
		介護実習Ⅲ			○		4	○		○	75	
		実習指導Ⅱ		○			1	○		○	70	(5)
		実習指導Ⅲ		○			1	○		○	68	(5)
		卒業研究ゼミナール		○		2		○			74	(5)
	福祉と処遇	地域福祉論	○				2		○		11	(1)
		ホスピスケア概論	○				2			○	12	(1)
	文福化社	視聴覚メディア活用法		○			1		○		12	(1)

⑥専攻科保育専攻

多様な保育ニーズに対応し、より高度な専門性、研究的力量を備えた保育者の養成を目指して、カリキュラムの編成を行っている。教育課程の特徴は次の通りである。

①幼児教育・保育に関する高度な学習

幼児教育・保育の理論、保育内容についての理解を深め、基礎的技能の一層の習熟を図る。

②今日の保育ニーズに応える資質の修得

保育ニーズと教育・保育施設のあり方を把握する総合的科目および各論の学習により、幼稚園・保育所における多様な保育ニーズに対応できる資質の修得を図る。

③より確かな実践的力量の蓄積

充実した「専攻科実習」、実習と有機的に結びついた「専攻科実習特演」の授業の中で、保育者としてのより確かな実践的力量を蓄積していく。

④豊かな研究的力量の形成

「総合演習研究Ⅰ」「修了研究演習」「総合演習研究Ⅱ」において、自らの課題を明確にし、「修了研究論文」を作成、検討する中で豊かな研究的力量を形成する。

⑤学士号と幼稚園教諭一種免許状の取得を可能とする

学士号（教育学士）と幼稚園教諭一種免許状の取得に向け科目の学年・学期配当、履修指導を考慮していく

本専攻科は認定専攻科であり、全科目が課程認定を受けているので、入学生で幼稚園教諭二種免許状を有する者で、本専攻科において、修了単位 46 単位に幼稚園教諭免許状必修単位 24

単位を含めて、合計 62 単位を取得し、あわせて学位授与機構の審査に合格すれば、学士号（教育学）と幼稚園教諭一種免許状が取得できる。

表Ⅱ－⑨2005年度専攻科保育専攻2年生科目履修状況

科目名	授業形態			卒業単位			教員配置			2005年度	
	講義	演習	実習	必修	選必	選択	専任	兼任	兼任	履修人数	
生活保育論	○					2			○	9	(1)
保育実践研究	○			2			○			9	(1)
保育内容研究Ⅲ	○				2			○		0	(1)
現代保育特論Ⅱ	○			2			○			9	(1)
保育・教育相談研究	○					2			○	9	(1)
家族福祉論	○					2			○	9	(1)
保育問題研究Ⅱ	○					2			○	9	(1)
保育問題研究Ⅳ	○					2		○		9	(1)
専攻科実習特演Ⅱ		○				1	○			9	(1)
専攻科実習Ⅱ			○			3	○			9	(1)
総合演習研究Ⅱ		○		3			○	○		9	(1)
修了研究演習		○		6			○	○		9	(3)

⑦専攻科福祉専攻

当専攻の教育課程は、社会福祉士及び介護福祉士で定められた介護福祉士を養成するために必要な科目が、体系的に編成されている。特に介護福祉士教育は文部科学省・厚生労働省の指定を受け、社会福祉士介護福祉士学校職業能力開発校等、養成施設指定規則に準拠して実施する必要がある、一定のカリキュラムを修了しなければ国家資格は得られないので、指定規則にある教育課程が取り入れられている。

また、保育士資格を取得した方を対象とした1年課程であるため、一般教養科目は既に取得したという前提のもと、専門科目に特化した教育課程ではあるが、本専攻ではより豊かな感性と人間性をもった介護福祉士として、広い視野と柔軟な考察力を身につけるために、修了研究演習や社会福祉の関係科目を独自に開講し、多角的に物事を考えることのできる人材養成に努めている。

さらに、専門科目においても、1年課程には含まれない医学一般やレクリエーション援助活動法などを開講し、時代のニーズに対応した効果的な教育体制がとられている。

表Ⅱ－⑩2005年度専攻科福祉専攻1年生科目履修状況

科目名	授業形態			卒業単位			教員配置			2005年度	
	講義	演習	実習	必修	選必	選択	専任	兼任	兼任	履修人数	
老人福祉論	○			4				○		30	(1)
リハビリテーション論	○			2					○	30	(1)

老人・障害者の心理	○			2			○		○	30	(1)
家政学概論	○			2				○	○	30	(1)
家政学実習			○	2				○	○	30	(1)
介護概論	○			4			○			30	(1)
介護技術		○		4			○		○	30	(1)
形態別介護技術		○		4			○		○	30	(1)
医学一般	○			2					○	30	(1)
レクリエーション活動援助法		○			1				○	18	(1)
実習指導		○		1			○		○	30	(1)
介護実習		○		8			○		○	30	(1)
修了研究演習		○		2			○	○		30	(3)
社会福祉制度政策論	○				2			○		20	(1)
障害福祉論	○				2		○			28	(1)
社会福祉援助方法論	○				2		○			7	(1)

（３）現行の教育課程における特記事項

本学は短大としては教養教育を大切にし、より多くの科目と単位数を確保するように努力してきた。特に資格を出すことを基本にした養成系の学科として、外国語を必修に位置づけるなど、教養を重視しながら教育課程を組み立ててきた。教養教育の科目数及び単位数は選択科目のところでも触れてあるように、大変充実している。

（４）取得可能な免許及び資格

本学において取得可能な免許及び資格は以下の通りである。

〈免許〉

- ・幼稚園教諭１種免許（保育専攻）
- ・幼稚園教諭２種免許（保育科）

〈資格〉

- ・保育士資格（保育科）
- ・介護福祉士資格（福祉援助学科，福祉専攻）
- ・学芸員資格（教養科）
- ・訪問介護員／ホームヘルパー２級資格（心理学科）
- ・生きがい情報士受験資格（心理学科，福祉援助学科）
- ・ピアヘルパー受験資格（心理学科）
- ・社会福祉主事任用資格（保育科，福祉援助学科）

（５）選択科目の状況

保育科及び福祉援助学科においては、免許及び資格のための必修科目は数多く設置されており、専門科目での選択科目については限られたものにならざるをえない。子ども学科及び心理学科では専門科目においても選択科目の割合が高い。

なお、教養教育科目については選択科目を各分野にわたって配置し、学生のニーズに応えられるようにしている。保育科、心理学科、福祉援助学科において7分野 42 科目が設置してあり、保育科は体育と外国語の必修を除いて12単位、心理学科は外国語の必修を除いて18単位、福祉援助学科は外国語と情報処理入門の必修を除いて7単位を選択できるようになっている。

（６）卒業要件単位数及びその他の卒業要件

本学の卒業要件を4学科及び専攻科に分けて示し、学科別に卒業要件等について記述する。

①保育科

保育科は2年間で62単位を取得することによって卒業要件を満たすことになっている。しかしそれは資格を取らないという前提であり、幼稚園教諭二種免許状取得の場合は同じ62単位でも専門教育科目において必修科目の縛りが多くなる。更に指定保育士養成施設の卒業資格を取得する場合には80単位となっている。またカリキュラムとしては2年間に91単位取得することで2つの資格が可能となるように配置されている。

表Ⅱ ①保育科卒業及び幼稚園教諭二種免許状ならびに指定保育士養成施設卒業に必要な単位数

種 別		卒 業	幼稚園免許	指定保育士	幼稚園＋指定保育士
教養教育 科 目	A群～F群	12単位	12単位	12単位	12単位
	外 国 語	2単位	2単位	2単位	2単位
	教養体育	2単位	2単位	2単位	2単位
専門教育 科 目	必修科目	3単位	41単位	57単位	68単位
	選択科目	28単位	5単位	7単位	7単位
教養教育・専門教育選択		15単位	————	————	————
合 計		62単位	62単位	80単位	91単位

②心理学科

本学科の卒業に必要な単位数は66単位である。この66単位は、表に示すように、教養教育科目と専門教育科目に区分され、それぞれ必要な単位数を定めている。教養教育科目はAからFの6分野に区分され、分野ごとに必要な単位が定められていることから、幅広い教養を身につけることができる。

他方、専門教育科目は、基礎心理科目、演習科目、応用心理科目、医学系科目、卒業研究、特別選択科目に区分され、心理学の各分野を幅広く履修できる構造となっている。このうち、特別選択科目は、就職支援のために設けられた科目群で、ホームヘルパーの資格を取るための科目も含まれている。

表Ⅱ－②心理学科卒業に必要な単位数

教養教育科目（A群）	2単位
教養教育科目（B・C群）	4単位
教養教育科目（D群）	6単位
教養教育科目（E群）	2単位
教養教育科目（F群）	2単位

教養教育科目（A～F 群）	4 単位
専門教育科目（必修）	2 6 単位
専門教育科目（選択）	1 2 単位
教養教育科目・専門教育科目・特別教育科目	8 単位
合 計	6 6 単位

③福祉援助学科

介護福祉士養成科目としての必修科目に、白梅学園としての独自科目卒業研究ゼミナール及び福祉研究入門を加えた 17 科目 65 単位、教養科目 6 科目以上 11 単位、さらに白梅学園としての独自選択科目として 6 科目 6 単位以上、合計 82 単位以上を取得することによって介護福祉士の資格を持って卒業する。

また卒業時共通試験に合格することが卒業条件である。

なお介護福祉士資格を取得しない場合には、実習指導、介護実習などの実習関連科目を取得しない。他の学科に開講されている科目などをとることにより教養科目をおおく取得しヒューマニズム精神に基づいた社会人を輩出することを重要視している。

表Ⅱ ⑬福祉援助学科卒業および資格取得に必要な学科目の種別単位

種 別	介護福祉士に必要な単位	卒業に必要な単位	備 考
教養教育科目	1 1 単位	1 1 単位	
専門必修科目	6 5 単位	4 3 単位	
その他の科目	6 単位	—————	注
教養教育・専門教育	—————	9 単位	注
合 計	8 2 単位	6 3 単位	

④教養科

教養科は現代保育教養コースと現代教養コースがあり、卒業単位に関しては両コースとも 68 単位となっている。現代保育コースにおいて幼稚園教諭二種免許状の取得をする場合には指定科目を含めて現代保育教養専門科目において 58 単位を取得することが前提となっている。

現代教養コースにおいては、全てが専門科目として位置づいているため、その中から 68 単位取得することが卒業の要件となる。

外国語については現代保育教養コースは 2 単位、現代教養コースは 4 単位が必修であり、体育は両コースともに 2 単位を取得しなければならない。

表Ⅱ ⑭教養科現代保育コースの卒業及び幼稚園教諭二種免許状取得に必要な単位数

科 目 群	卒 業 単 位	幼免取得卒業単位
教養教育科目（A～F）	2 0 単位	2 0 単位
	4 8 単位	5 8 単位
	6 8 単位	7 8 単位

表Ⅱ ⑮教養科現代教養コースの卒業に必要な単位数

種 別	現代教養コース
	卒業単位
現代教養専門科目	68単位（教養教育科目）
合 計	68単位

⑤専攻科保育専攻

専攻科保育専攻は2年課程で、専攻科の修了には46単位を取得しなければならない。更に幼稚園教諭一種免許状の要件である学位の取得にあたっては必修科目を含めて62単位を取得することになっている。

表Ⅱ ⑯専攻科保育専攻の修了に必要な単位数

種 別	修了単位	幼免一種（学位取得）
幼免一種専門科目他	46単位	62単位

⑥専攻科福祉専攻

専攻科福祉専攻の修了要件は、1カ年以上在学し37単位を履修することである。修了要件と介護福祉士資格取得要件が一致しているため、資格取得なしで修了することはない。また保育士養成所を卒業し保育士資格を取得した者を対象とし、社会福祉に関する理論と実践研究を進めるとともに、高齢者や障害者の介護に従事する介護福祉士専門職としての介護福祉士の養成を目的としている。教科の内容は、基礎科目と介護福祉士養成に必要な専門科目に加え、修了研究演習と医学一般が修了要件の必修科目になっており、加えて障害者福祉論や社会福祉制度政策論などの社会福祉関係科目やレクリエーション関連科目を、選択科目として設けている。

また学位授与機構に認定された専攻科であるため（1992年度より）、学位授与機構の定める履修方法にしたがって学士号を取得する場合には、履修単位が単位数として認定される。

表Ⅱ ⑰専攻科福祉専攻の修了に必要な単位数

種 別	修了単位
介護福祉専門科目他	37単位

（7）教育課程の見直し、改善についての各学科の現状

①保育科

保育科は保育者の養成学科として、厚生労働省や文部科学省で指定された科目を多数設置しなければならない。その関係で教育課程の見直しや改善については、その範囲内で実施しなければならない。しかし限られた中でも選択科目を設置し、学生のニーズに応えるように配慮してきている。2年生の後期には8講座から3科目を選ぶシステムがあり、新しい科目を加えたり入れ替えたりして調整している。

②心理学科

心理学科の教育を時代に合ったものにするため、教育課程の見直しは絶えず行われている。しかし、2004年度に規模の大きなカリキュラム改正を行ったため、2005年度入学生については、科目の新設や変更といったカリキュラムの大幅な改正は行っていない。「インターンシップ」

が2年前期から1年後期となったこと、「非行・犯罪心理学」が2年後期から2年前期に移動したことが主な変更点である。なお、特別選択科目の中にあった「現代社会特講」という科目名称がカリキュラム表から除かれたが、これは科目を削減したわけではない。「現代社会特講」は「学術・文化・産業ネットワーク多摩」が行う提携講座の受け皿(本学側の単位認定にあたり読み替えられるべき科目名称)であったが、今年度からこうした提携講座や他大学での履修単位をそのまま本学科の単位として認定できるように改めたため、必要性がなくなったのである。

③福祉援助学科

福祉援助学科は介護福祉士養成課程としての指定科目が大半である。さらに白梅学園短期大学の独自科目を加えると必要科目数が18科目63単位である。さらに白梅学園の独自の教養教育37科目の中から11単位、白梅学園の特色を生かした文化的要素を含む専門教育科目の選択科目7科目から6単位を選択する。

ヒューマニズム精神に基づく幅広い教養を身につけるために多くの講義と演習を開講している。選択方法は学生の自由意志に任せている。しかし介護福祉士に必要と思われる科目群をあらかじめ提示し、選択基準を示して自己選択できるよう方向性を示す必要がある。2004年度は「カウンセリング」を廃止した。教養教育科目の中で代替できるため割愛した。

介護福祉士養成課程のカリキュラム(1650時間)については過密であり、見直しの時期に来ている。なかでも現場実習が約4分の一を占める。夏休みや春休みが圧縮されて学生の自主的な活動の機会に影響を及ぼしているのは否めない。

④専攻科福祉専攻

介護福祉専門職の育成を目指して教育するにあたり、常に社会情勢や介護・社会福祉を取り巻く法律改正等の動きをみながら、教育課程の見直しを行っている。特に、社会福祉・社会保障全般の法改正を前にして、他の介護福祉士養成学科とも協力しながら、これからのカリキュラム編成に関する情報収集に努め検討している。

また本専攻の教育課程は、保育士での教育課程の基盤があるとはいえ、1年間で介護福祉士の専門科目を取得するという関係上、過密なカリキュラムになっている。そのため学生にとってはゆとりがない状況は否めないが、その中においても介護福祉の実践力やコミュニケーション能力などを高められるような工夫が、今後の課題である。

【授業内容・教育方法について】

(1) シラバスや講義要綱について

本学では各学科の授業内容や教育方法、評価等について学生に提示するために冊子でシラバスを配布している。授業科目名、担当者、開講期、授業目標、テキスト・参考書、授業計画、授業方法、評価方法等が記載されている。また、2005年度からweb上でのシラバス検索が可能となり、短期大学webページにすべての授業科目を公開し閲覧できるようになっている。

(2) 学生の履修態度、学業への意欲などについて

①保育科

保育士及び幼稚園教諭二種免許状取得を目標に入学してくる保育科の学生は、その履修態度や資格への意欲が高い。とりわけ実習を体験することで、学ぶことの意味が相対化され、教室

での学びと有機的に結びついている。また全ての学生が1年半の少人数ゼミ活動を通じて、担当教員と身近に接することができ、学業や進路の問題についても丁寧な対応ができるようになっている。学生は各教科から出される課題に積極的に対応し、担当教員からの高い評価を得ている。

②心理学科

授業内容と教育方法は科目ごとにシラバスとして提示し、年度始めのオリエンテーションの機会に説明して、学生のカリキュラム理解に役立てている。また、「心理学実験演習」「心理テスト・調査演習」「卒業研究プレゼミ」「卒業研究」など学科のカリキュラムにおいて中心的な役割を果たす科目に関しては、授業ごとにオリエンテーションを行う機会を設けている。そのため、学生のカリキュラムに対する理解は良好で、学業への意欲も高いと考えている。

昨年度は学生の中に授業中の私語が目立つ者がいたため、本学科のいくつかの講義科目において試験的に座席指定制を採用するなどの対応が必要であった。しかし、そうした取り組みもあって今年度は良好な授業環境が確保されていたため、特に大きな取り組みは必要なかった。

③福祉援助学科

入学して3ヶ月経過した7月に新入生の生活実態調査アンケートを実施し、学生の生活や学業への興味関心、意欲等の情報を収集している。このアンケートから、概ね8割以上の学生は、入学から3ヶ月時点で、介護福祉士国家資格取得に意欲的であること、入学してから実際の学校の印象が良くなっていると受け止めている。

また、前期の終了時点で、「福祉研究入門」という少人数（16～18名）単位のゼミナール形式の講座で、担当教員が個別面接を実施し、学生の履修状況、学業への意欲、健康状態、その他各々の学生の個別的な問題を聴取している。ここでは、学生が個別に抱える問題が明らかになり、学科会議等で必要に応じた検討がされており、対応できていると捉えている。

学科教務主任は、教科担当教員と定期的に連絡をとり、学生の履修状況を把握している。履修状況が不十分な学生がいる場合、クラス担任、ゼミナール担当教員と連携して、個別に指導解決にあたっている。

本学科では、施設介護実習が授業全体の1/3の時間を占めている。実習毎に、実習指導センター及び実習指導担当教員から、個別的な学生情報が提供され、対応が報告されている。

④教養科

現代教養コースの学生は、数多くの選択肢の中から興味関心を前提として履修しているので、学力としては課題があっても授業に臨む姿勢は積極的であった。

現代保育教養コースは幼稚園教諭二種免許を取得するということ、それに伴う実習などがあり、学ぶことの意味を相対化しながら授業を受けることができた。一部免許をとらない学生もいたが、2年間の少人数ゼミがあることによって、協力して学習する姿勢を保つことができていた。

⑤専攻科保育専攻

2年間の授業や実習、卒業研究等を通じて、子どもをどのようにとらえ、どのように対処すればよいのかを理解し、あわせて現在子どもをめぐってどのような課題があるのか、それをどのように深めればよいのかを学んだ。

研究発表会では一人ひとりの研究課題に沿って深い問題を提起し、学位にふさわしい内容と

なっている。

⑥専攻科福祉専攻

専攻科福祉専攻の授業内容と教育方法はシラバスに提示し、年度始めのオリエンテーションや各科目の授業等で随時学生に説明し、履修科目の選択や履修内容、方法の理解に努めている。

学生の学習意欲や履修態度は、介護福祉士資格を取得するという目的がはっきりしていること、また教科の多くが専門科目であるため、おおむね意欲的に学習していると考ええる。特に演習科目や介護実習における実習態度は、講義等の座学学習よりも一層真剣に取り組んでいる様子が見受けられている。

【授業改善への努力について】

（１）学生による授業評価についての概要

領域Ⅳにおいて学生による「授業評価」の結果についてまとめているが、本学は 2002 年度より学生による授業評価に取り組み、前期・後期それぞれ 2 回ずつアンケートを実施してきた。各回の結果は授業担当者に戻され、それぞれの授業の改善に有効に活用できるようにした。2005 年度からはゼミナールを除くすべての授業科目について前期・後期 1 回ずつ実施した。結果については教授会で報告され、「2005 年度授業アンケートの結果について」として学生へも配布されている。

なお、年度ごとに「白梅学園短期大学自己点検評価—授業アンケート結果報告書」を作成し、授業の改善に向けて分析等を行っている。

（２）短期大学全体の授業改善（FD）への組織的な取り組みについて

本学の FD（Faculty Development）活動は、学生の授業評価と同時に、個々の教員が授業の改善をすすめ、とりわけ学科ごとの話し合いが重視されている。短期大学全体としては教授会後の教職員懇談会として 2005 年度は 2 月に FD 研究会を開催した。

2005 年度 FD 研究会開催状況

2006 年 2 月 9 日（木）会場 I-13 講義室	
内容 話題提供 1 「話すこと、聞くことの指導—学校の先生方に話していること—」	
講師 村越正則（白梅学園大学子ども学部教授）	
話題提供 2 「大学における授業研究を考える」	
講師 八木紘一郎（白梅学園大学子ども学部教授）	
参加者数	
白梅学園短期大学専任教員	21 名
白梅学園大学専任教員	12 名

（３）担当授業について兼任教師などとの教員間の意思疎通や協力体制について

①教養教育

教養教育としては教養教育担当が配置され、教養教育全体の見直しや確認を行っている。特に教養体育と教養語学については、毎年担当者の打ち合わせを開き、1 年間の問題を振り返ると同時に次年度に向けての教材の調整などを行っている。2005 年度、語学担当者については 2 月初旬に開催し、機器の希望なども含めて確認している。

なお体育と語学以外の兼任講師との調整は教務係が行い、必要に応じて教務委員会の教養教育担当が対応した。

②保育科

演習科目や講義科目の多くを専任教員が担当し、兼任講師が行う場合もその内容を十分に調整して授業をすすめている。養成課程としてできるだけ共通の内容を履修することが必要であり、複数で担当する場合は評価にあたっては協議して行っている。音楽Ⅰや音楽Ⅱなどのピアノについては多数の兼任講師が配置されることもあり、専任教員がそのまとめ役としてリーダーシップを発揮している。

③心理学科

専任教員と非常勤教員との間の意思疎通に関して、演習科目を中心とする、専任と非常勤の分担科目については、専任教員の中に1名ずつ取りまとめ担当を決め、その教員が連絡及び調整に当たっている。他方、独立した講義系科目に関しては、学科長が非常勤との連絡役を勤めている。連絡にあたっては、随時面談や電話連絡を行うほか、電子メールによるコミュニケーションも活用されている。特に、専任教員相互間の連絡にはメーリングリストが大きな役割を果たしている。

④福祉援助学科

学科内で得られている学生情報と兼任教員が得ている学生情報の交換、共有を目的として定期的に非常勤講師会を開催し、情報交換を行っている。介護福祉士資格取得に必要な科目には、各担当授業で多くの重複する内容が含まれているが、それらが各授業計画の中で必要性に応じ、工夫された配置になっていると捉えている。

学科教務主任は、教科担当教員と定期的に連絡をとり、協力の必要や問題の共有を心がけている。問題が発生した場合、クラス担任、ゼミナール担当教員と連携して、対策を講じている。

⑤教養科

現代教養コースについては、科目が教養教育と重なるため、特に学科として兼任講師との調整を行ってはいない。現代保育コースは、幼稚園教諭二種免許の科目が、保育科の聴講となるため、現代保育教養の独自の専門科目について学科として調整している。

⑥専攻科保育専攻

専攻科保育専攻の多くの科目が、保育科をはじめとした専任教員によって行われており、ごく限られた科目のみ兼任講師が担当している。その科目については専攻科長が窓口となって調整を行ってきた。

⑦専攻科福祉専攻

兼任教師などとの教員間の協力体制については、学内の他学部・他学科所属の教員との関係では、学生に対する教員相互の対応の仕方や各実習段階に見合った授業内容などについての意見交換を行い、可能な範囲で教務課とも相談しながら、学習効果に見合った変則開講等の工夫を行っている。また講義科目の非常勤講師との意思疎通は、年度初めには必ず個別の打ち合わせを行い、メール等も活用しながら適宜情報交換を行っている。さらに介護技術や実習指導などの演習科目は、非常勤講師と専任教員がチームで授業を展開するため、授業前後に意見交換を行い、教員間の信頼構築と学生指導の歩調あわせに努めている。

【特記事項について】

（１）他の教育機関との単位互換制度など評価項目には含まれないが独自に取り組んでいることについて

本学では教養教育の外国語Ⅰ、Ⅱの英語及び英語Ⅰ、英語Ⅱにおいて習熟度別授業を実施している。学生のレベルと進路のニーズに合わせてクラス分けを行い、習熟の不十分なクラスでは少人数での授業を行っている。また同じく教養教育において海外語学研修を科目として設置し、夏季休業中の１ヶ月、イギリスのリーズにあるリーズメトロポリタン大学を中心に語学研修を行い、２単位を与えている。

①保育科

保育科は１年後期から１年半にわたってゼミ活動を行い、２年の終わりにはその成果をゼミ発表会として全学に公開している。例年ゼミの特質を活かした発表があり、学生が自分達で積み重ねてきた研究を協力して発表することによって、より豊かな内容を身につけることが可能となっている。なお、ゼミ活動の一環としてゼミ合宿もカリキュラムの中に設定し、全てのゼミが同時期に行うことを原則としている。

②心理学科

今年度も引き続き「学術・文化・産業ネットワーク多摩」が主催する「大学単位互換事業」に参加している。ただし、その単位の認定に当たっては、本学側で読み替え科目を設定せず、授業提供大学が開設した科目をそのまま本学で認定することとした。その結果、読み替え科目の「現代社会特講」がカリキュラムから削除された。このことは他大学での履修科目を複数認定することが可能となったことを意味し、学生の多様な学修の可能性をいっそう拡大することにつながっている。

③福祉援助学科

福祉援助学科では、介護福祉士国家資格取得に必要な必修科目がある。その中で、本学科では、「シニアの音楽とダンス」「あそびの造形」という科目を配置し、高齢者や障害者への援助に創意工夫していく、創作的な感性教育を重視している。

在宅介護実習、いきがい情報士受験資格講座等を開講し、施設内介護に留まらず、広く社会全体に視野を広げた介護福祉士養成を行っている。

④教養科

４月の入学時より２年間ゼミに所属し、現代教養コースは個人の発表、現代保育教養コースはゼミ単位の発表を行っている。現代教養コースでは２年の５月に学外研修を行い、後期には卒業研究という科目を設置して、個別に卒業研究の指導を行っている。

⑤専攻科保育専攻

「総合演習研究Ⅰ」「修了研究演習」「総合演習研究Ⅱ」など、自らの課題を明確にし、修了研究論文を作成、検討する中で、豊かな研究力量を形成することを目的としている。２００５年度も全員が修了研究論文を完成している。

⑥専攻科福祉専攻

専攻科福祉専攻では、必修・選択科目・規定の介護実習の他に、「障害者施設における一日体験実習」を行っている。これは介護実習先としての障害者施設が少ないという現状のなかで、学生全員が重度の障害を持つ方々との関わりをもち理解を深める機会を持つことを目的に、実施

しているものである。具体的には学生自身がレクリエーション企画等を持ち込み、居住者・職員と相談しながら内容を練り上げ、主体的な学習が行えるような援助を各施設の協力の下で進めている。

《領域Ⅲ 教育の実施体制》

【教員組織について】

（１）専任教員数について

専任教員の数並びに専任教員に占める教授数は、短期大学設置基準（以下「設置基準」という）を満たしており、その内訳は以下の通りである。福祉援助学科については、2005年度は設置基準で定める教員数に不足しているため、改善を予定している。

表Ⅲ－① 白梅学園短期大学の専任教員表 2005年度

学科・専攻名 (専攻科を含む)	専任教員数				設置基準 で定める 教員数		助手	[ハ]	備考
	教授	助教授	講師	計	[イ]	[ロ]			
学長	1名			1名		—			
保育科	6名	4名	2名	12名	11名	—	1名	コンピ ュター	
心理学科	4名	1名		5名	5名	—		アシスタ ント3	
教養科		1名		1名		—			
福祉援助学科	2名		4名	6名	7名	—	1名	人が交 替配 置	
専攻科福祉専攻									
専攻科保育専攻									
(小 計)	13名	6名	6名	25名	23名	—	2	3	
[ロ]					—	4			
(合 計)	13名	6名	6名	25名	23名	4	2	3	

1. 上表の[イ]とは設置基準第22条別表第1のイに定める学科の種類に応じて定める専任教員数を指す。
2. 上表の[ロ]とは設置基準第22条別表第1のロに定める短期大学全体の入学定員に応じて定める専任教員数を指す。
3. 上表の[ハ]とは、助手以外の者で短期大学全体もしくは学科等の教育研究活動に直接従事する教職員（事務職員を除く）をいう。

（２）教員の採用、昇任について

教員の採用や昇任については教授会委員会としての人事委員会があり、各学科等の意向を受けて公募などが行われ、教授会において決定される。

昇任については、「昇格人事規定」があり、その規定にもとづいて審査が行われる。

（３）専任教員の年齢構成について

昨年度に比べて教授の平均年齢は2歳下がり、ある程度の若返りをはかることができた。一方では専任講師の平均年齢が上がっているため、引き続いて年齢構成においてバランスの取れた人事を行っていく必要がある。

表Ⅲ－② 2005 年度 専任教員の年齢構成表

教員数 (25 名)	年齢ごとの専任教員数（講師以上）							助手等の 平均年齢	備 考
	70 以上	60～69	50～59	40～49	30～39	29 以下	平均年齢		
教授 13 名	1 名	6 名	4 名	2 名			59 歳		
助教授 6 名			2 名	3 名	1 名		47 歳		
講師 6 名			1 名	3 名	1 名	1 名	41 歳		

（４）学長から見た専任教員について

定年退職者の補充を適切に行うとともに、とくに保育士・幼稚園教諭養成課程においては保育内容系のベテラン教員を採用し、また心理学科においても精神医学の専門家を新たに採用することができ充実が図られた。さらに若手教員を中心に不十分な領域の充実に努めたい。

表Ⅲ－③2005 年度保育科専任教員の担当講時数

氏 名	肩書き	担当コマ 数	前期コマ 数	後期コマ 数	含む 実 習コマ数	年間コマ 数	平均コマ 数
		前後期で 10コマ	短大	短大	短大	短大	
秋山治子		10.00	5.00	5.00		10.00	5.00
小松 歩		10.00	6.00	4.00	3.00	10.00	5.00
佐久間路子		10.00	4.00	5.00		9.00	4.50
佐々加代子		10.00	2.33	8.00		0.00	4.62
鈴木佐喜子		10.00	5.50	4.00	0.50	9.50	4.75
高田文子		10.00	4.00	4.00	3.00	8.00	4.00
中山正雄	学生部長	6.00	5.00	7.50	2.50	12.50	6.25
花原幹夫	学科長	8.00	6.00	4.00		10.00	5.00
森山千賀子		10.00	8.39	4.50	4.00	12.89	6.45
師岡 章		10.00	5.00	5.50	2.00	10.50	5.25
吉川研二	教務部長	6.00	3.00	3.60		6.60	3.30
若松美恵子		10.00	4.00	6.00		10.00	5.00
			4.63	5.08		8.92	4.46

表Ⅲ－④2005 年度福祉援助学科専任教員の担当講時数

氏 名	肩書き	担当コマ 数	前期コマ 数	後期コマ 数	含む実習 コマ数	年間コマ 数	平均コマ数
		前後期で 10コマ	短大	短大	短大	短大	
杉本豊和		10.00	6.17	4.00		10.17	5.09
関谷栄子	学科長	8.00	6.50	7.00	6.00	13.50	6.75

土川洋子	10.00	6.17	9.00	6.00	15.17	15.17	7.59
富永静枝	10.00	5.00	4.00		9.00	9.00	4.50
西方規恵	10.00	6.22	8.00	6.00	14.22	14.22	7.11
		6.01	6.40		12.41	12.41	6.21

表Ⅲ－⑤2005 年度心理学科専任教員の担当講時数

氏 名	肩書き	担当コマ数	前期コマ数	後期コマ数	含むインターンシップ	年間コマ数		平均コマ数
		前後期で10コマ	短大	短大	短大	短大	合計	
荻野七重	図書館長	8.00	5.17	5.00		10.17	10.17	5.09
金子尚弘	学科長	8.00	4.17	4.38	0.33	8.55	8.55	4.28
金 愛慶		10.00	5.17	5.33	0.33	10.50	10.50	5.25
倉沢寿之		6.00	5.67	4.00		9.67	9.67	4.84
堀江まゆみ		10.00	6.17	5.83	0.33	12.00	12.00	6.00
			5.27	4.91		10.18	10.18	5.09

表Ⅲ－⑥2005 年度教養科専任教員の担当講時数

氏 名	肩書き	担当コマ数	前期コマ数	後期コマ数	含む実習コマ数	年間コマ数		平均コマ数
		前後期で10コマ	短大	短大	短大	短大	合計	
瀧口 優		10.00	2.00	5.00		7.00	11.00	3.50

（５）学長から見た助手等について

助手については実習補助を中心に、基本的に事務的作業の支援のための人材を数名確保しているが、実習を始めとする養成課程の授業内容の豊富化、充実の必要から、教育支援の可能な人材を必要数整えるために２名を増員した。さらに次年度に向けて増強をはかりたい。

専任教員担当講時数に関しては、最低の分担を半期５コマ（１コマ 90 分）、通年 10 コマに置き、その徹底を図るとともに、一方で担当の上限を半期 6 コマ、年間 12 時間に抑えることを原則として取り組み、ほぼ達成されたが、クラス分割の必要などから完全に整えるには至らなかった。次年度の課題としたい。

【教育環境について】

（１）本学の校地面積

本学は、東京都小平市に所在し、主要施設はすべて同一キャンパス内に設置されている。さらに、隣接して幼稚園、併設の高等学校があり、これら全体で白梅学園を形成している。校地の現況は下表の通りであるが、これは学校教育法第 3 条及び短期大学設置基準第 8 章の校地設

置基準を満たしている。また、専攻科（福祉 40、保育 30）を設置していることを勘案し、10 m²/人として加算しても問題はない。

表Ⅲ－⑦2005 年度校地一覧表

平成 18 年 3 月 31 日現在

名称	所在地	使用区分	面積（㎡）	備考
小平キャンパス	東京都小平市 小川町 1－8 3 0	校舎敷地・屋外運動場	18,282.00	大学・短期大学共用
			20,532.33	高等学校
			3,523.00	幼稚園
合計			42,337.33	

基準校地面積：

短大収容定員 600 名（保育 200、心理 140、福祉 160、教養 100）×10 m²=6000 m²

典拠：短大設置基準第 30 条

（２） 本学の校舎について

本学の校舎を学校教育法第 3 条及び短期大学設置基準第 8 章に規定されている、学校を設置運営する上で必要な校舎面積（下表）と照らし合わせてみると、現有校舎面積の 15,165 m²はこの基準をクリアしている。建物に関しては、学科増設等の必要に応じて整備はされているものの、小平キャンパス開設以来の老朽化した校舎もあり、安全面および設備面でさらなる取り組みが必要である。これに関しては、学園全体の再開発に関わる中長期的なビジョンと関連させたい。

表Ⅲ－⑧2005 年度学科別必要面積

平成 18 年 3 月 31 日現在

学科	収容定員	基準面積（m ² ）	備考
保育科	200	2,350	別表2-イ、教育学・保育学関係
心理学科	140	1,300	別表2-ロ、文学関係
福祉援助学科	160	1,300	別表2-ロ、社会学・社会福祉学関係
教養科	100	1,000	別表2-ロ、文学関係
合計		5,950	

（３） 教育研究に使用する情報機器について

本学には、第一コンピュータ室と第二コンピュータ室と LL 教室とがある。第一コンピュータ室には 48 台、第二コンピュータ室には 50 台のコンピュータを学生用に設置している。どちらの教室のコンピュータとも、機種は FMV-7000FL2、OS は Windows2000Professional である。同様にいずれの教室でも、授業で教員が使用するためのコンピュータとして、FMV-7000FL2 を 2 台と FMV-6000CX2 を 1 台設置している（全て OS は Windows2000Professional）。さらに、両教室ともプリンター3 台（EPSON LP9400）とカラープリンター1 台（Canon LBP2030）とスキャナー1 台（EPSON ES6000H）も設置している。一方、LL 教室には教員用に Panasonic Master Recorder WE-6210A を 2 機、学生用に Panasonic Booth Recorder WE-6520 を 48 機設置している。それに加えて、Victor 製モニター24 台（2 人で 1 台共用）も設置している。

次に、使用状況について述べる。第一コンピュータ室及び第二コンピュータ室は、平日 9：00～18：00、土曜日 9：00～15：00 の時間帯（51 時間/週）で開室している。

表Ⅲ－⑨2005 年度コンピューター室使用状況

2005 年度	第一コンピュータ室		第二コンピュータ室		LL 教室
授業使用(時間/週)	前期 12	後期 7.5	前期 6	後期 1.5	前期 3 後期 3
一般利用(時間/週)	前期 39	後期 43.5	前期 45	後期 49.5	なし

また、当校では平日 10：00～18：00 と土曜日 10：00～15：00 にコンピュータアシスタントを配置し、学生のコンピュータ利用を支援している。

(4) 授業用の機器・備品の整備状況

当校には、4 種類の校舎がある。B 棟の講義室には、主に VHS ビデオデッキとテレビと有線マイクを設置している。加えて大講義室には、書画カメラと吊りテレビを設置している。B 棟実験室には、VHS ビデオデッキとテレビを設置している。E 棟には VHS ビデオデッキ・書画カメラ・吊りテレビ・有線マイクを設置している。F 棟講義室には VHS ビデオデッキ・吊りテレビ・有線マイクを設置し、F 棟演習室には VHS ビデオデッキとテレビを置いている。I 棟講義室には、8mm と VHS のダブルビデオデッキ・CD/LD デッキ・DVD デッキ (2 教室)・書画カメラ (3 教室)・プロジェクター (3 教室)・RGB ケーブル (3 教室)・ワイヤレスマイクを設置している。J 棟講義室では、VHS ビデオ、DVD、書画カメラ、デジタルビデオ等の A/V 機器や PC 利用に対応し、100～150 インチのスクリーンと 50 インチの吊りテレビを設置してある。

また、I 棟 J 棟では各教室の機器を一つのラックに収納し施錠している。その鍵は非常勤講師室及び教務部教務課に保管していて、教員は授業の際にいずれかの場所から鍵を持って教室へ向かっている。

表Ⅲ－⑩2005 年度 事務部で管理している移動式教育用機器備品 (教務課貸出用備品一覧表)

教育用機器備品	保管台数
AVセクター	1台
CDラジカセレコーダー	5台
Editing Controller	1台
MFトリニコン カラービデオカメラ	1台
OHP SHIMASCOPE-JN	1台
アダプター	2台
オーバーヘッド プロジェクター (OHP)	2台
カセットテープレコーダー	8台
カセットテープレコーダー ミニ	12台
カセットテープレコーダー (オートリバース)ミニ	12台
カセットテープレコーダー (小)	9台
カセットテープレコーダー (大)	4台
カセットテープレコーダー (大) 語学用に使用	3台
カラービデオプリンター	1台
三脚	3台
スーパーキャビンⅢスライド	1台

スライド・プロジェクター	1台
スライドビデオコンバーター	1台
スライドプロジェクター ツイン	1台
スライドプロジェクター	3台
製本機(小) MSバインダーⅡ	1台
製本機(大)	1台
接写用カメラ QUARTZ DATE	1台
デスクトップ	1台
テレビ(モニター)	2台
ハンディカム(8ミリカメラ)	11台
ハンディカム(ビデオカメラ)	1台
ビデオカセットレコーダー	1台
ビデオカセットレコーダー Hifi-Strreo	2台
ビデオカセットレコーダー MACLORD Hifi-Strreo GT4W	1台
ビデオカセットレコーダー U-VISION	2台
ビデオカセットレコーダー ベータマックスJ9	1台
プロジェクター	3台
ベーシックプリンター	1台
ポータブルOHP	1台
ポータブルステレオCDシステム	3台
ボラロイドカメラ	1台
マルチビデオコンバー	2台
ラジカセ	8台(うち4台CDラジカセ)
レコードプレーヤー	1台
ワイヤレスアンプ	2台

【図書館について】

(1) 本学図書館の概要について

白梅学園短期大学図書館は、1984年3月にE棟地上1階・地下1階専有延床面積883㎡の建物である。1階は4つのブース12席を持つ27㎡の視聴覚室と、利用者用資料検索等使用のパソコン6台、プリンター2台を設置し、またカウンターの両サイドにコピー機各1台(学生用・教職員用)を設置している。資料については、1階には参考図書・指定図書と一般図書の分類番号、総記・哲学・歴史の前半から中半分類と雑誌架を配置し地下には歴史の後半分類から9門文学までの図書と5500冊を超える絵本コーナーと紙芝居コーナーが配置され、集密書架には、各大学紀要や雑誌・年鑑類のバックナンバーを配架している。2005年度の集計では、図書資料139,988冊、学術専門雑誌62誌、AV資料863を収容し、閲覧座席数は1階66席、地下34席合わせて100席を設置した施設となっている。

2005年度図書予算は11,450,000円。図書選定は、主に教員及び図書館職員が行い、学生の希望も参考に選定購入受入をしている。図書等の廃棄については、破損・汚損のため製本や、

補正が不可能で使用に耐えない図書を廃棄している。職員構成は学長指名による、館長 1 名（教員）、正規職員 2 名、特別職員 1 名、アルバイト 1 名の計 4 名で、内アルバイト以外の 3 名が司書資格者である。1998 年頃から電算化に着手しオンライン・コンピューターシステムを導入し図書館資料の OPAC 公開を行って学内外から図書資料の検索をすることが可能になっている。現在図書館には学生専用利用の、インターネット環境を整備したコンピューターを 6 台設置しているが、情報化が進むにつれ台数を増やしていかなければいけないと考えている。また、2003 年度から朝日・毎日・読売の各新聞、大宅壮一文庫の雑誌データベース契約を実施し、学内から検索できるよう整備した。

2004 年度には、学内購入図書、全図書の一括管理体制に入り、学内所蔵の AV の総リストの作成をした。また 2005 年度大学設置に伴う図書資料整備と、恒常的に問題となっている、蔵書数増加にともなう配架スペース拡張のため、図書館地下北側の一部に電動集密書架を設置し図書資料の再配架を実施し、今後の図書収容増を考慮しての準備を行った。

表Ⅲ－⑪ 本学図書館での蔵書数の推移（3 ヶ年）一略

表Ⅲ－⑫ 過去 3 ヶ年の年間図書予算の推移一略

（２）図書の整備と利用状況について

図書館資料の整備についての基本としては、教育の根幹を担うべく、教員・各学科学生の教育・研究に伴う図書資料を柱に整備をしているが、本学の建学の理想である人間を愛し、人間の価値を最高度に実現しようとするヒューマニズムの精神、社会の発展と人類の福祉に寄与する人材養成、本学のめざす人間像、各学科の教育方針を踏まえた蔵書構成を念頭にしているため教科専門図書の他、一般教養書も購入している。

また図書館入口近くには、新着図書のコーナーを設け毎週各学科に関わる図書資料の一部を 1 週間展示し、読書への関心を持たせるべく工夫している。新着図書については、図書館のホームページでも一覧表示を可能としている。

年度初めには、各学科のシラバスを基に未所蔵のテキスト・参考書の購入をし学生が利用出来るようにしている。さらに洩れがないよう同時期に、専任及び非常勤教員にテキストおよび参考図書連絡票等を配布し、回答を基に学習資料の充実を図っている。

学生の図書館利用については、教科目に関連する図書資料をはじめ、各学科のゼミナール・実習・演習・卒業研究・終了研究演習等での利用はもちろんのこと、各学科教員の授業教科の中で図書館資料の利用指導がある。特徴的なものとしては、5,500 冊ほどある絵本の利用や、生物・植物・動物学関係の図書の利用があげられる。

2005 年度の集計を見ると、学生数 907 名、年間入館者数 35,563 名、年間学生貸出総数 10,730 冊、学生 1 人当貸出冊数 11.83 冊、視聴覚室利用件数 1,969 件、文献複写提供件数 51 件、複写取寄件数 150 件の利用があった。

学科によっては、例年図書館利用が少ない学科もあるが、各学科選出委員と図書館長で構成される、図書委員会と問題点を検討して改善運営して行きたい。

表Ⅲ－⑬ 入館者数及び貸し出し冊数の３年間の推移一略

（３）情報発信と連携について

図書館情報ネットワークは、学内 LAN により大学・短大の学習・教育・研究および調査に資することを目的としている。さらに学内 LAN 経由で国立情報学研究所提供のサービス等、外部のデータベースにアクセスが可能である。1997 年から図書館インターネットサーバーを開設したことにより、インターネットに接続・情報発信する環境が整えられ、白梅学園短期大学図書館蔵書目録（白梅 OPAC）を Web 上で公開し、学内外を問わず白梅 OPAC へのオープンアクセスが可能となった。1988 年以来、ローカル蓄積してきた蔵書の書誌データを図書館総合管理パッケージ製品情報館の導入により蔵書目録データベースへと変換・生成し、1994 年度より利用者 OPAC の公開を実施しデータベース提供サービスを開始した。1997 年 12 月には図書館資料全ての遡及入力を終え以後更新を続けている。さらにその対象を図書館資料から学園内の研究室図書・逐次刊行物等にも広げ、図書館蔵書目録データベースから学園蔵書目録データベースへと拡張予定である。

また図書館では、新入生ガイダンス期間に図書館の利用案内についての説明を行っている。また、授業支援のため、希望があればいくつかの教科の情報検索等の指導も図書館内で実施している。内外への情報発信としては、ホームページにおける図書館のお知らせ、利用案内、蔵書検索、資料の探し方、図書館報（花みずき）の目次掲載、リンク集（他機関へのリンク、所蔵資料検索、新聞、官公庁・政府刊行物、法律関係、その他）を整備し学内外の利用者に情報発信している。

他の図書館との連携としては、東京都私立短期大学協会コンソーシアムに加盟し、教育研究活動の活性化および利用者のサービス向上を図る目的で、都内 21 短期大学で相互利用を行っている。

表Ⅲ－⑭ 他の図書館との相互貸借一略

【特記事項について】

（１）外国人教員の採用について

本学では専任として、1999 年度より心理学科において外国人教員を採用している。また非常勤としては英語で 2 名、中国語で 1 名採用し、語学教育での動機付け並びに発音等の向上に貢献している。また心理学科でも非常勤で 1 名採用している。

《領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果》

【単位認定について】

(1) 本学の単位認定方法

本学の単位認定方法は、学則をもとに、各科目の担当教員が各学生に対してS、A、B、C、DおよびEの成績評価を行う。各担当教員による評価は、90－100点をS、80－89点をA、70－79点をB、60－69点をC、59点以下をDあるいはEで記載し、DとEを不合格と評価している。不合格であった学生のうちDと評価された場合は、再試験受験届けを提出して試験を受けることができる。再試験において一定の基準を越えることによって合格した場合には「C」と評価している。Eは再履修となる。

なお、本学に入学する以前に他の短期大学あるいは大学等で修得した単位については、短期大学設置基準の定める単位として認定している。但し資格にかかわる課程認定の場合は条件が異なる場合がある。

開講された授業科目の試験は、各期ごとあるいは通年にわたって行われる場合は年度の終わりに行われる。本学の試験には、定期試験、追試験、再試験があり、その方法は筆記だけでなく、口述、論文、実技など多様である。なお、シラバスには評価の方法が担当者ごとに書かれており、レポートや論文提出、あるいは平常点によってその科目が終了する際に評価される。

(2) 単位の認定状況

① 教養教育

状況については各学科ごとに一覧表をつけてあるのでそちらを参照いただきたい。全体としては各科目ともに多くの学生が単位を認定されており、授業への積極的な参加を評価できる。いくつかの科目において取得率が低いところもあるので、担当者を含めてその対応を考えたい。

② 保育科

保育科は保育者の養成課程ということもあり、単位の認定についてはより厳密に行うことを求められている。その結果として、評価方法も筆記試験だけでなく、レポートや総合評価なども積極的に取り入れ、より実質的な評価が行われるよう工夫している。

そうした基本を踏まえて、2005年度は概ね最終の評価において良好な結果となっている。ただし、いくつかの科目において数人が単位取得できなかったこともあり、今後の指導の課題である。

表Ⅳ―①2005年度保育科1年次科目の単位認定の状況表

科目群	授業科目名	授業形態	履修数	主な単位の認定方法	取得%	最終の評価 (%)				
						S	A	B	C	不可
教養教育科目	A 総合	ヒューマニズム論	講義	10	総合評価	100	0	1	0	0
		人間	講義	0	総合評価	－	－	－	－	－
	B 生命	生理学〔体の不思議〕	講義	11	筆記試験	82	0	0	18	64
		生物学〔生物の世界〕	講義	12	筆記試験	100	0	25	42	33
		生と死を考える	講義	18	レポート	100	28	28	33	11
		生活と健康	講義	16	総合評価	100	31	38	31	0
		自然環境と人間	講義	35	筆記試験	100	2	23	35	40

教養教育科目	C 人間	人間の生と性	講義	42	総合評価	100	38	60	0	2	0
		美術〔造形とイメージーション〕	講義	57	総合評価	98	0	86	0	12	2
		庶民の生活文化	講義	12	レポート	100	33	67	0	0	0
		言語とコミュニケーション	講義	52	レポート	100	15	54	27	4	0
		異文化コミュニケーション	講義	6	総合評価	83	33	50	0	0	17
		手話入門	講義	15	総合評価	100	74	13	0	13	0
		日本文学	講義	34	レポート	97	0	41	35	21	3
		英米文学	講義	0	総合評価	－	－	－	－	－	－
		心理学A〔心のしくみ〕	講義	43	筆記試験	100	28	42	21	9	0
		心理学B〔性格と人間関係〕	講義	49	総合評価	98	21	39	22	16	2
	D 社会	日本国憲法	講義	140	筆記試験	94	7	15	21	51	6
		男と女・ジェンダーを考える	講義	5	レポート	80	0	60	20	0	20
		現代社会と人間A〔近代国家と戦争〕	講義	17	レポート	100	6	47	47	0	0
		現代社会と人間B〔消費社会と欲望〕	講義	19	レポート	100	21	42	16	21	0
		現代社会と人権	講義	18	筆記試験	100	39	27	17	17	0
		現代社会とコミュニティ	講義	16	筆記試験	100	50	44	6	0	0
		日本とアジアの近現代史	講義	4	筆記試験	100	0	25	50	25	0
	E 外国語	外国語Ⅰ	演習	123	総合評価	100	48	30	11	11	0
		外国語Ⅱ	演習	121	総合評価	100	33	38	17	12	0
		海外語学研修	演習	0	【非開講】	－	－	－	－	－	－
		英会話（基礎）Ⅰ	演習	8	総合評価	100	13	37	37	13	0
		英会話（基礎）Ⅱ	演習	6	総合評価	100	50	33	17	0	0
	F 体育	教養体育（実技）	演習	124	総合評価	99	30	50	19	0	1
		教養体育（講義）	講義	122	総合評価	99	15	53	29	2	1
	情G 報	情報処理入門	講義	124	レポート	99	26	67	6	0	1
専門教育科目	目的の理解	社会福祉	講義	122	レポート	99	22	62	13	2	1
		児童福祉	講義	122	筆記試験	99	25	45	28	1	1
		保育原理Ⅰ	講義	123	筆記試験	99	32	51	16	0	1
		保育原理Ⅱ	講義	121	筆記試験	98	25	65	6	2	2
		保育者論	講義	123	総合評価	99	8	54	29	8	1
		教育原理	講義	122	総合評価	99	70	22	5	2	1
	対象の理解	発達心理学	講義	125	筆記試験	98	5	21	25	47	2
		教育心理学	講義	121	筆記試験	99	45	31	18	5	1
		小児保健Ⅰ	講義	123	筆記試験	99	37	55	7	0	1
		小児保健Ⅱ	講義	121	筆記試験	99	17	60	22	0	1

		小児栄養Ⅰ	演習	123	筆記試験	98	4	63	24	7	2
専門教育科目	内容・方法の理解	教育課程総論	講義	124	筆記試験	98	52	30	10	6	2
		保育内容総論	演習	123	総合評価	99	15	75	9	0	1
		保育内容 健康	演習	141	筆記試験	96	1	13	32	50	4
		保育内容 言葉	演習	128	筆記試験	99	3	9	22	65	1
		乳児保育Ⅰ	演習	123	筆記試験	97	5	25	30	37	3
	基礎技能	音楽Ⅰ	演習	123	総合評価	97	2	38	47	10	3
		図画工作	演習	120	総合評価	99	75	21	2	1	1
	演習総合	ゼミナールⅠ	演習	120	総合評価	99	59	28	12	0	1
	実習	幼稚園実習	実習	124	【2年次評価】	－	－	－	－	－	－
		実習指導	実習	123	【2年次評価】	－	－	－	－	－	－
		保育所実習Ⅰ	実習	120	総合評価	99	0	99	0	0	1

Ⅳ－②2005年度保育科2年次科目の単位認定の状況表

科目群		授業科目名	授業形態	履修数	主な単位の認定方法	取得%	最終の評価 (%)			
							A	B	C	不可
教養教育科目	D 表現とコミュニケーション	海外語学研修	演習	0	【非開講】	－	－	－	－	－
		選択外国語 英会話（応用）	演習	0	総合評価	－	－	－	－	－
		選択外国語 フランス語会話	演習	0	【非開講】	－	－	－	－	－
		選択外国語 ドイツ語会話	演習	0	総合評価	－	－	－	－	－
		選択外国語 中国語会話	演習	0	筆記試験	－	－	－	－	－
		選択外国語 英文講読	演習	0	総合評価	－	－	－	－	－
専門教育科目	目的の理解	社会福祉援助技術	演習	228	筆記試験	99	96	3	0	1
		現代保育の課題	講義	8	総合評価	38	25	13	0	62
		養護原理	講義	231	筆記試験	99	92	6	1	1
	対象の理解	家族援助論	講義	228	筆記試験	99	90	8	1	1
		小児保健実習	実習	230	筆記試験	99	43	40	16	1
		小児栄養Ⅱ	演習	230	筆記試験	99	81	14	4	1
		精神保健	講義	231	総合評価	98	97	0	1	2
	内容・方法の理解	保育内容 人間関係	演習	259	筆記試験	98	35	24	39	2
		保育内容 環境	演習	259	筆記試験	98	8	42	48	2
		保育内容 表現	演習	261	総合評価	97	86	9	2	3
		幼児の運動遊び	演習	87	筆記試験	98	13	53	32	2
		子どもの活動と自然	演習	79	総合評価	100	37	57	6	0
		お話しの世界	演習	91	総合評価	99	53	39	7	1

専門教育科目	内容・方法の理解	子どもの音楽の世界	演習	113	総合評価	99	60	27	12	1
		子どもの造形と遊び	演習	124	レポート	99	91	7	1	1
		遊びと身体表現	演習	86	総合評価	99	86	7	6	1
		乳児の遊び	演習	111	総合評価	98	93	4	1	2
		保育計画法	演習	257	レポート	98	82	11	5	2
		幼児教育の方法	講義	250	筆記試験	98	69	27	2	2
		乳児保育Ⅱ	演習	230	総合評価	99	18	75	6	1
		養護内容	演習	229	総合評価	99	83	15	1	1
		障害児保育	演習	236	総合評価	100	95	5	0	0
		保育臨床相談	講義	248	総合評価	98	67	17	14	2
	技能基礎	音楽Ⅱ	演習	254	総合評価	98	40	44	14	2
		体育	演習	242	総合評価	98	64	24	10	2
	演習総合	ゼミナールⅡ	演習	261	総合評価	99	92	6	1	1
	実習	幼稚園実習	実習	248	総合評価	98	98	－	－	2
		実習指導	実習	226	総合評価	99	99	－	－	1
		保育所実習Ⅱ	実習	201	総合評価	88	99	－	－	1
		施設実習Ⅰ	実習	227	総合評価	99	99	－	－	1
		施設実習Ⅱ	実習	25	総合評価	100	100	－	－	0

※幼稚園実習、実習指導、保育所実習Ⅱ、施設実習Ⅰ・Ⅱの評価は「取得」もしくは「未取得」と記載することになっている。

③心理学科

本学科の単位認定は、科目ごとに独立して行われている。評価方法としては、講義系の科目は筆記試験が主流であり、演習系の科目の場合は期末の試験と平常授業時の課題やレポートを合わせて評価する総合評価が主流である。しっかりした知識の定着を確認するための手法と、日常的に取り組ませることで効果を上げる手法が適切に使い分けられているといえる。単位取得の割合を見ると、「不可」の割合が高い科目が若干見られるが、これは選択科目の場合に途中で履修をあきらめたことにより単位が認定されなかったものが多いと思われ、学修効果が低いことを示しているとは解釈していない。

前提となる科目の単位を取得しなければある科目が履修できないという、いわゆる履修制限は本学科の場合、ほとんどない。唯一あるのは、1年次において「心理学実験演習」と「心理テスト・調査演習」の両方の単位を取得できなかった場合、「卒業研究」が履修できないという学科の内規である。

表Ⅳ－③2005年度心理学科1年次科目の単位認定の状況表

科目群		授業科目名	授業形態	履修数	主な単位の認定方法	取得%	最終の評価 (%)				
							S	A	B	C	不可
教養	A総合	ヒューマニズム論	講義	43	総合評価	91	0	75	7	9	9
		人間	講義	12	総合評価	100	0	75	25	0	0

教育科目	B 生命	生理学〔体の不思議〕	講義	10	筆記試験	30	0	0	30	0	70
		生物学〔生物の世界〕	講義	10	筆記試験	90	0	30	50	10	10
		生と死を考える	講義	58	レポート	64	3	17	30	14	36
		生活と健康	講義	19	総合評価	95	11	37	47	0	5
		自然環境と人間	講義	15	筆記試験	60	0	7	7	46	40
		人間の生と性	講義	63	総合評価	86	41	32	8	5	14
	C 人間	美術〔造形とイマジネーション〕	講義	51	総合評価	78	0	60	14	4	22
		庶民の生活文化	講義	75	レポート	77	17	34	19	7	23
		言語とコミュニケーション	講義	40	レポート	90	10	30	38	12	10
		異文化コミュニケーション	講義	23	総合評価	87	17	39	27	4	13
		手話入門	講義	14	総合評価	86	14	44	7	21	14
		日本文学	講義	38	レポート	82	8	29	16	19	18
		英米文学	講義	45	総合評価	87	2	76	9	0	13
	D 社会	日本国憲法	講義	45	筆記試験	46	4	2	7	33	54
		男と女・ジェンダーを考える	講義	53	レポート	89	4	42	32	11	11
		現代社会と人間 A〔近代国家と戦争〕	講義	19	レポート	74	11	11	47	5	26
		現代社会と人間 B〔消費社会と欲望〕	講義	18	レポート	89	6	39	22	22	11
		現代社会と人権	講義	25	筆記試験	64	4	12	16	32	36
		現代社会とコミュニティ	講義	7	筆記試験	86	0	14	29	43	14
		日本とアジアの近現代史	講義	45	筆記試験	71	0	13	42	16	29
	E 外国語	外国語 I	演習	89	総合評価	89	11	39	12	27	11
		外国語 II	演習	83	総合評価	85	12	22	27	24	15
		海外語学研修	演習	0	【非開講】	-	-	-	-	-	-
		英会話（基礎） I	演習	8	総合評価	100	0	13	25	62	0
		英会話（基礎） II	演習	6	総合評価	67	0	50	0	17	33
	F 体育	教養体育（実技）	演習	37	総合評価	92	8	30	43	11	8
		教養体育（講義）	講義	24	総合評価	83	0	50	25	8	17
専門教育科目	基礎心理	心理学概説	講義	90	筆記試験	93	52	14	9	18	7
		児童心理学	講義	84	筆記試験	93	11	33	32	17	7
		知覚心理学	講義	83	筆記試験	87	18	18	27	24	13
	基礎心理科	学習心理学	講義	92	筆記試験	87	7	25	25	30	13
		認知心理学	講義	53	筆記試験	72	13	21	13	25	28
		性格心理学	講義	83	筆記試験	87	6	24	20	37	13
		生理心理学	講義	80	筆記試験	87	10	20	16	41	13

専門教育科目	演習科目	プレゼンテーション技法	演習	85	筆記試験	93	41	22	12	18	7
		心理学実験演習	演習	85	総合評価	90	13	20	36	21	10
		心理テスト・調査演習	演習	81	総合評価	81	4	39	17	21	19
		論文の読み方	演習	62	総合評価	78	19	47	10	2	22
		心理統計Ⅰ	演習	89	筆記試験	88	12	19	17	40	12
		心理統計Ⅱ	演習	87	筆記試験	85	15	26	20	24	15
		コンピュータ演習Ⅰ	演習	85	総合評価	95	4	41	41	9	5
		コンピュータ演習Ⅱ	演習	67	総合評価	83	9	12	28	34	17
		インターンシップ	演習	13	総合評価	15	15	0	0	0	85
	特別選択科目	時事・社会特講	講義	47	総合評価	96	17	60	15	4	4
		労働・健康特講	講義	35	総合評価	86	6	32	37	11	14
		生きがい情報士特論	講義	13	総合評価	77	15	54	8	0	23
		家庭介護総論	講義	5	総合評価	100	0	80	20	0	0
		家庭介護演習	講演	5	総合評価	100	0	100	0	0	0
		家庭介護実習	実習	5	総合評価	100	0	100	0	0	0

表Ⅳ－④2005年度心理学科2年次科目の単位認定の状況表

科目群		授業科目名	授業形態	履修数	主な単位の認定方法	取得%	最終の評価 (%)			
							A	B	C	不可
教養教育科目	D表現とコミュニケーション	海外語学研修	演習	0	【非開講】	-	-	-	-	-
		応用英語Ⅰ	演習	67	総合評価	99	40	30	29	1
		応用英語Ⅱ	演習	65	総合評価	100	45	29	26	0
		選択外国語 英会話（応用）	演習	5	総合評価	100	20	40	40	0
		選択外国語 フランス語会話	演習	0	【非開講】	-	-	-	-	-
		選択外国語 ドイツ語会話	演習	2	総合評価	100	0	50	50	0
		選択外国語 中国語会話	演習	4	筆記試験	100	75	0	25	0
		選択外国語 英文講読	演習	7	総合評価	71	29	42	0	29
専門教育科目	基 演 習	青年心理学	講義	52	筆記試験	92	44	35	13	8
		卒業研究プレゼミ	演習	68	総合評価	100	83	16	1	0
		心理技法演習	演習	67	総合評価	99	78	20	1	1
		インターンシップ	演習	21	総合評価	33	33	0	0	67
	応用心理科目	対人心理学	講義	50	筆記試験	88	34	18	36	12
		臨床心理学	講義	53	総合評価	92	23	29	40	8
		精神生理学	講義	46	総合評価	82	41	41	0	18
		心理テスト法Ⅰ	講義	44	総合評価	94	30	23	41	6
		心理テスト法Ⅱ	講義	38	総合評価	89	55	31	3	11
		カウンセリング	講義	80	レポート	96	72	23	1	4
		行動分析	講義	39	筆記試験	90	41	21	28	10

専門教育科目		コミュニケーション心理学	講義	39	筆記試験	77	54	8	15	23
		非行・犯罪心理学	講義	51	総合評価	80	27	18	35	20
		障害児心理学	講義	68	総合評価	90	34	47	9	10
		健康心理学	講義	51	総合評価	84	36	19	29	16
		社会調査法	講義	11	レポート	91	82	9	0	9
		心理学特講	講義	52	レポート	87	8	69	10	13
		環境心理学	講義	23	総合評価	87	61	13	13	13
		ピアヘルパー	講義	45	総合評価	87	80	7	0	13
	医	精神医学	講義	44	筆記試験	84	57	9	18	16
		卒業研究	演習	66	総合評価	100	85	15	0	0
特別選択科目		家庭介護総論	講義	9	総合評価	89	56	33	0	11
		家庭介護演習	講・演	9	総合評価	89	89	0	0	11
		家庭介護実習	実習	9	総合評価	89	89	0	0	11

④教養科

教養教育科目でも単位の取得率が50%以下の科目があり、学生の学力が授業についていけない結果とみられる。また専門科目においても同様の傾向が見られる。現代教養コースは教養教育が専門科目として位置づいているため、科目の選択が幅広いメリットはあるが、単位取得においては十分に対応できていないことが数値にも表れている。

学科の専任教員としてはゼミ担当や担任として一人一人の指導を行っているが、まだまだ課題が多いと言わざるをえない。

表Ⅳ－⑤2005年度教養科現代教養コース2年次科目の単位認定の状況表

科目群		授業科目名	授業形態	履修数	主な単位の認定方法	取得%	最終の評価（％）			
							A	B	C	不可
教養教育科目	A ヒューマニズム	ヒューマニズム論	講義	4	総合評価	75	75	0	0	25
		総合科目・人間	講義	1	総合評価	100	0	100	0	0
		現代とヒューマニズムⅠ〔近代国家と戦争〕	講義	2	レポート	50	0	50	0	50
		現代とヒューマニズムⅡ〔消費社会と欲望〕	講義	3	レポート	67	33	0	34	33
	B 人間と環境	心理学入門Ⅰ〔心のしくみ〕	講義	0	筆記試験	－	－	－	－	－
		心理学入門Ⅱ〔性格と人間関係〕	講義	1	総合評価	100	100	0	0	0
		体の不思議	講義	1	筆記試験	100	0	0	100	0
		生物の世界と人間	講義	0	筆記試験	－	－	－	－	－
		人間と環境	講義	0	筆記試験	－	－	－	－	－

教養教育科目	C 生死と健康	生と死を考える	講義	0	レポート	-	-	-	-	-
		人間の生と性	講義	3	総合評価	100	33	34	33	0
		生活と健康	講義	0	総合評価	-	-	-	-	-
		教養体育（実技）	演習	0	総合評価	-	-	-	-	-
		教養体育（講義）	講義	1	総合評価	100	0	0	100	0
	D 表現とコミュニケーション	外国語Ⅰ	演習	1	総合評価	100	0	0	100	0
		外国語Ⅱ	演習	1	総合評価	100	0	0	100	0
		海外語学研修	演習	0	【非開講】	-	-	-	-	-
		選択外国語 英会話（基礎）	演習	0	総合評価	-	-	-	-	-
		選択外国語 英会話（応用）	演習	3	総合評価	100	100	0	0	0
		選択外国語 フランス語会話	演習	0	【非開講】	-	-	-	-	-
		選択外国語 ドイツ語会話	演習	0	総合評価	-	-	-	-	-
		選択外国語 中国語会話	演習	0	筆記試験	-	-	-	-	-
		選択外国語 英文購読	演習	0	総合評価	-	-	-	-	-
		選択外国語 異文化コミュニケーション	講義	5	総合評価	100	0	100	0	0
		言語とコミュニケーション	講義	0	レポート	-	-	-	-	-
		手話入門	講義	0	総合評価	-	-	-	-	-
		造形美術とイメージ	講義	3	総合評価	100	100	0	0	0
	E 日本と世界	近現代の日本文学	講義	4	レポート	50	0	25	25	50
		庶民の生活文化	講義	0	レポート	-	-	-	-	-
		現代英米の文学	講義	2	総合評価	100	50	0	50	0
		現代社会と人権	講義	1	筆記試験	100	0	100	0	0
	F 現代社会と人間	憲法と私たち（日本国憲法）	講義	12	筆記試験	100	0	0	100	0
		日本とアジアの近現代史	講義	1	筆記試験	100	0	0	100	0
		男と女・ジェンダーを考える	講義	11	レポート	91	27	55	9	9
		地域生活と家族	講義	0	筆記試験	-	-	-	-	-
現代保育教養専門科目	基礎理論と保育教	メディア社会と子ども	講義	27	総合評価	100	96	0	4	0
		子どもの歴史	講義	12	総合評価	100	50	50	0	0
		子どもの育ちと文化	講義	0	【非開講】	-	-	-	-	-
		子育て支援論	講義	10	総合評価	100	100	0	0	0
		子どもと人権	講義	6	総合評価	83	33	33	17	17
		多文化社会と子ども	講義	27	レポート	96	70	26	0	4

現代保育教養専門	基礎理論と保育教養	児童文学の世界	講義	12	レポート	100	100	0	0	0
		女性労働と子育て	講義	25	レポート	100	64	32	4	0
		うた・おとの世界	演習	18	総合評価	94	61	22	11	6
	保育内容と指導法	幼児の身体表現	演習	6	総合評価	100	83	17	0	0
		運動遊びの指導	演習	5	総合評価	100	60	40	0	0
		伝承遊び入門	演習	9	筆記試験	100	33	45	22	0
		幼児の絵画指導	演習	20	総合評価	100	70	25	5	0
		遊びの造形	演習	17	総合評価	100	82	12	6	0
		児童文化演習	演習	13	総合評価	100	24	38	38	0
		児童文学演習	演習	10	総合評価	100	70	30	0	0
		保育内容・指導法演習	演習	26	総合評価	94	23	42	31	4
	実									

表Ⅳ－⑥2005年度教養科現代保育教養コース2年次科目の単位認定の状況表

科目群		授業科目名	授業形態	履修数	主な単位の認定方法	取得%	最終の評価 (%)			
							A	B	C	不可
現代教養専門科目	aゼミ	ゼミナールⅡ	演習	22	総合評価	100	72	23	5	0
		卒業研究	演習	22	総合評価	100	59	23	18	0
	b入門	博物館の現場（博物館実習）	実習	4	総合評価	100	50	50	0	0
		ビジネスの現場	演習	17	総合評価	100	24	47	29	0
	cヒューマニズムと人間	ヒューマニズム論	講義	8	総合評価	75	50	0	25	25
		総合科目・人間	講義	11	総合評価	91	36	36	19	9
		現代とヒューマニズムⅠ（近代国家と戦争）	講義	5	レポート	100	0	80	20	0
		現代とヒューマニズムⅡ（消費社会と欲望）	講義	9	レポート	89	11	11	67	11
		人物研究Ⅰ〔和泉式部〕	講義	2	総合評価	100	50	50	0	0
		人物研究Ⅱ〔柳田国男〕	講義	14	筆記試験	100	14	64	22	0
		人物研究Ⅲ〔有島武郎〕	講義	7	レポート	100	86	14	0	0
	d情報とコミュニケーション	情報ネットワーク論	講義	20	レポート	100	90	10	0	0
		視聴覚教育メディア論	講義	3	総合評価	100	33	34	33	0
		言語とコミュニケーション	講義	4	レポート	75	0	25	50	25
		海外語学研修	演習	0	【非開講】	－	－	－	－	－
		応用英語Ⅰ	演習	22	総合評価	100	14	9	77	0
		応用英語Ⅱ	演習	22	総合評価	100	27	5	68	0
		選択外国語 英会話（応用）	演習	0	総合評価	－	－	－	－	－
		選択外国語 フランス語会話	演習	0	【非開講】	－	－	－	－	－
		選択外国語 ドイツ語会話	演習	0	総合評価	－	－	－	－	－

現代教養専門科目

d 情報とコミュニケーション	選択外国語 中国語会話	演習	0	筆記試験	-	-	-	-	-
	選択外国語 英文購読	演習	0	総合評価	-	-	-	-	-
	ビジネス英語	講義	2	総合評価	0	0	0	0	100
	選択外国語 異文化コミュニケーション	講義	9	総合評価	88	44	44	0	12
	造形美術とイメージ	講義	3	総合評価	100	0	67	33	0
	手話入門	講義	0	総合評価	-	-	-	-	-
e 文学表現と歴史	話し言葉の伝承	講義	17	筆記試験	94	12	29	53	6
	絵本・絵巻と物語表現	講義	14	レポート	93	71	22	0	7
	源氏物語の世界	講義	7	レポート	86	43	14	29	14
	児童文学の世界	講義	12	レポート	67	59	8	0	33
	比較文化論・近代文明と日本人	講義	4	レポート	100	75	25	0	0
	近現代の日本文学	講義	15	レポート	53	20	7	26	47
	現代英米の文学	講義	10	総合評価	80	30	40	10	20
	世界の児童文学	講義	7	総合評価	100	29	71	0	0
	国境を越える民俗学	講義	14	筆記試験	100	28	36	36	0
	日本とアジアの近現代史	講義	6	筆記試験	83	0	33	50	17
	社会福祉の考え方	講義	9	総合評価	89	22	56	11	11
	地域生活と家族	講義	2	筆記試験	1	0	0	0	100
f 現代社会と福祉	男と女・ジェンダーを考える	講義	5	レポート	80	40	40	0	20
	現代社会と人権	講義	4	筆記試験	0	0	0	0	100
	憲法と私たち（日本国憲法）	講義	4	筆記試験	0	0	0	0	100
	ビジネス実務を知る	講義	20	筆記試験	100	70	20	10	0
	家庭介護総論	講義	3	総合評価	100	33	67	0	0
	家庭介護演習	講・演	3	総合評価	100	100	0	0	0
	家庭介護実習	実習	3	総合評価	100	100	0	0	0
g 現代の子ども	子どもの育ちと文化	講義	0	【非開講】	-	-	-	-	-
	子育て支援論	講義	5	総合評価	80	80	0	0	20
	多文化社会と子ども	講義	21	総合評価	100	48	52	0	0
	生涯学習概論	講義	14	総合評価	100	1	0	0	0
	庶民の生活文化	講義	3	レポート	100	33	34	33	0
h 現代の環境と健康	心理学入門Ⅰ（心のしくみ）	講義	5	筆記試験	80	0	0	80	20
	心理学入門Ⅱ（性格と人間関係）	講義	5	総合評価	80	20	0	60	20

現代教養専門科目	h 現代の環境と健康	体の不思議	講義	4	筆記試験	25	0	0	25	75
		生物の世界と人間	講義	2	筆記試験	50	0	50	0	50
		人間と環境	講義	1	筆記試験	0	0	0	0	100
		生活と健康	講義	1	総合評価	0	0	0	0	100
		生と死を考える	講義	11	レポート	64	9	19	36	36
		人間の生と性	講義	9	総合評価	89	56	22	11	11

⑤福祉援助学科

本学科の単位認定状況は別表の通りである。評価の方法は専門科目を中心に、総合評価されるものが多い。筆記試験、レポート、出席状況、授業態度などで総合的に評価される。これは教科の性質から適切と思われる。

評価の内容は、特に専門科目では厳密に行われている。これは、卒業時に介護福祉士養成施設協会の試験（卒業時共通試験という）があり、一定のレベルが必要とされていることが関係していると思われる。

評価の結果については、クラス担任を通して学科の教員に知らされて、特別な対応が必要な学生の情報は共有されている。

また、非常勤の教員と連絡を取り合い、欠席がちで受験資格を欠くことになりそうな学生を把握し、学科の会議で情報を共有し、クラス担任、ゼミ担を中心に対応している。

表Ⅳ－⑦2005年度福祉援助学科1年次科目の単位認定の状況表

		授業科目名	授業形態	履修数	主な単位の認定方法	取得%	最終の評価 (%)				
							S	A	B	C	不可
教養教育科目	E 外国語	外国語Ⅰ	演習	87	総合評価	95	24	20	20	31	5
		外国語Ⅱ	演習	82	総合評価	96	16	33	24	23	4
		海外語学研修	演習	0	【非開講】	—	—	—	—	—	—
	F 体育	教養体育（実技）	演習	36	総合評価	94	22	42	19	11	6
		教養体育（講義）	講義	2	総合評価	100	0	0	100	0	0
専門教育科目	専門必修科目	社会福祉概論Ⅰ	講義	87	レポート	96	16	54	18	8	4
		社会福祉概論Ⅱ	講義	83	筆記試験	97	17	37	30	13	3
		老人福祉論Ⅰ	講義	87	筆記試験	95	18	48	20	9	5
		老人福祉論Ⅱ	講義	85	総合評価	97	0	91	5	1	3
		リハビリテーション論	講義	82	総合評価	96	6	24	44	22	4
		レクリエーション活動援助法	演習	82	総合評価	98	0	60	30	8	2
		老人の心理	講義	87	筆記試験	95	32	46	15	2	5
		障害者の心理	講義	82	筆記試験	98	4	60	27	7	2
		家政学概論Ⅰ	講義	87	レポート	96	69	20	7	0	4
		家政学概論Ⅱ	講義	82	筆記試験	94	6	28	38	22	6
		医学一般Ⅰ	講義	87	筆記試験	95	17	53	25	0	5
		医学一般Ⅱ	講義	83	総合評価	97	12	30	47	8	3

		精神保健	講義	82	総合評価	97	27	15	21	34	3
		介護概論Ⅰ	講義	87	筆記試験	96	10	46	26	14	4
		介護概論Ⅱ	講義	83	筆記試験	98	35	30	16	17	2
		介護技術Ⅰ	演習	87	総合評価	94	0	71	18	5	6
		介護技術Ⅱ	演習	81	総合評価	97	0	14	60	23	3
		介護技術Ⅲ	演習	82	総合評価	95	0	29	49	17	5
		形態別介護技術Ⅰ（老人）	演習	87	総合評価	97	0	28	52	17	3
		形態別介護技術Ⅱ（内部障害・肢体障害）	演習	82	筆記試験	95	34	34	21	6	5
		形態別介護技術Ⅴ（聴覚障害）	演習	87	筆記試験	96	3	6	13	74	4
		介護実習Ⅰ	実習	81	総合評価	95	9	77	5	4	5
		介護実習Ⅱ	実習	80	総合評価	90	11	74	4	1	10
		実習指導Ⅰ	演習	81	総合評価	98	2	84	6	6	2
		福祉研究入門	演習	87	総合評価	98	3	88	6	1	2
	福祉	家族福祉論	講義	79	総合評価	94	9	34	51	0	6
		発達心理学	講義	68	筆記試験	94	4	32	39	19	6
	福祉	遊びの造形	演習	80	総合評価	95	20	71	3	1	5
		シニアの音楽とダンス	演習	74	総合評価	97	34	54	9	0	3

表Ⅳ－⑧2005年度福祉援助学科2年次科目の単位認定の状況表

科目群		授業科目名	授業形態	履修数	主な単位の認定方法	取得%	最終の評価（%）			
							A	B	C	不可
教養教育科目	Aヒューマンリズム	ヒューマンリズム論	講義	12	総合評価	92	67	17	8	8
		総合科目・人間	講義	14	総合評価	93	72	21	0	7
		現代とヒューマンリズムⅠ〔近代国家と戦争〕	講義	28	レポート	100	18	68	14	0
		現代とヒューマンリズムⅡ〔消費社会と欲望〕	講義	18	レポート	94	44	22	28	6
	B人間と環境	心理学入門Ⅰ〔心のしくみ〕	講義	22	筆記試験	96	23	41	32	4
		心理学入門Ⅱ性格と人間関係	講義	41	総合評価	97	49	24	24	3
		体の不思議	講義	0	筆記試験	－	－	－	－	－
		生物の世界と人間	講義	6	筆記試験	100	83	17	0	0
		人間と環境	講義	4	筆記試験	50	0	25	25	50

教養教育科目	C 生死	生と死を考える	講義	25	レポート	96	48	36	12	4
		人間の生と性	講義	10	総合評価	100	70	10	20	0
		生活と健康	講義	6	総合評価	100	66	17	17	0
	D 表現とコミュニケーション	海外語学研修	演習	0	【非開講】	-	-	-	-	-
		情報処理演習	演習	74	レポート	100	0	97	3	0
		選択外国語英会話(基礎)	演習	0	総合評価	-	-	-	-	-
		選択外国語 英会話 (応用)	演習	0	総合評価	-	-	-	-	-
		選択外国語 フランス語会話	演習	0	【非開講】	-	-	-	-	-
		選択外国語 ドイツ語会話	演習	6	総合評価	100	50	17	33	0
		選択外国語 中国語会話	演習	2	筆記試験	100	100	0	0	0
		選択外国語 英文講読	演習	0	総合評価	-	-	-	-	-
		選択外国語 異文化コミュニケーション	講義	10	総合評価	100	50	40	10	0
		言語とコミュニケーション	講義	2	レポート	100	100	0	0	0
		造形美術とイメージ	講義	10	総合評価	80	70	10	0	20
	E 日本	近現代の日本文学	講義	35	レポート	91	37	31	23	9
		庶民の生活文化	講義	18	レポート	89	67	11	11	11
		現代英米の文学	講義	13	総合評価	70	54	8	8	30
	F 現代社会と人間	現代社会と人権	講義	3	筆記試験	0	0	0	0	100
		憲法と私たち (日本国憲法)	講義	2	筆記試験	0	0	0	0	100
		日本とアジアの近現代史	講義	3	筆記試験	33	0	0	33	67
		男と女・ジェンダーを考える	講義	32	レポート	91	75	13	3	9
		地域生活と家族	講義	1	筆記試験	100	0	0	100	0
専門教育科目	専門必修科目	障害児・者福祉論	講義	73	筆記試験	100	27	37	36	0
		社会福祉援助技術	講義	74	筆記試験	100	39	36	25	0
		社会福祉援助技術演習	演習	75	総合評価	100	97	3	0	0
		家政学実習Ⅰ(栄養・調理)	実習	74	総合評価	100	73	12	15	0
		家政学実習Ⅱ(被服・住居)	実習	75	総合評価	100	37	55	8	0
		医学一般Ⅲ	講義	73	筆記試験	96	26	45	25	4
		形態別介護技術Ⅲ(知的障害・精神障害)	演習	73	総合評価	100	53	33	14	0
		形態別介護技術Ⅳ(視覚障害)	演習	76	筆記試験	100	55	12	33	0
		介護実習Ⅲ	実習	75	総合評価	94	89	4	1	6

専門教育科目	専門必修科目	実習指導Ⅱ	演習	70	総合評価	99	76	20	3	1
		実習指導Ⅲ	演習	68	総合評価	100	90	10	0	0
		卒業研究ゼミナール	演習	74	総合評価	100	97	3	0	0
	福祉と処遇	地域福祉論	講義	11	筆記試験	100	18	18	64	0
		ホスピスケア概論	講義	12	総合評価	83	17	49	17	17
	文福祉	視聴覚メディア活用法	演習	12	総合評価	83	75	8	0	17

⑥専攻科保育専攻

当学科の 2005 年度の単位認定状況を表 5 に示す。授業科目を履修し試験あるいはレポートに合格した学生には、所定の単位が与えられた。単位の認定は原則として科目ごとに独立して行われた。それぞれの単位認定の方法を見ると、レポートと総合評価に分かれるが、どちらも授業に出席して討論や演習に参加することを基本として認定されている。この方法は学生に提示した単位認定方法に適切に準拠しており、各科目の担当教員の単位認定方法は適切であったと判断される。

単位の取得状況を見ると全員が良い成績で取得しており、教員のきめ細かい指導と学生の努力がうかがえる。

表Ⅳ－⑨2005年度専攻科保育専攻2年生の単位認定の状況表

科目群	授業形態	履修数	主な単位の認定方法	取得%	最終の評価 (%)			
					A	B	C	不可
生活保育論	講義	9	総合演習	100	100	0	0	0
保育実践研究	講義	9	総合演習	100	100	0	0	0
保育内容研究Ⅲ	講義	0	【非開講】	－	－	－	－	－
現代保育特論Ⅱ	講義	9	レポート	100	78	22	0	0
保育・教育相談研究	講義	9	総合演習	100	100	0	0	0
家族福祉論	講義	9	レポート	100	22	78	0	0
保育問題研究Ⅱ	講義	9	レポート	100	45	33	22	0
保育問題研究Ⅳ	講義	9	総合演習	100	100	0	0	0
専攻科実習特演Ⅱ	演習	9	総合演習	100	100	0	0	0
専攻科実習Ⅱ	実習	9	総合演習	100	100	0	0	0
総合演習研究Ⅱ	演習	9	総合演習	100	100	0	0	0
修了研究演習	演習	9	総合演習	100	89	11	0	0

⑦専攻科福祉専攻

当専攻の平成 16 年度の単位認定状況を表 6 に示す。当専攻の取得単位数は 37 単位であり、選択科目の 7 単位を合わせると 44 単位までの取得が可能である。また修了に必要な 37 単位は、独自必修科目の修了研究演習と医学一般の 4 単位を除けば介護福祉士養成に必要な科目であるため、37 単位以上の取得がなければ養成課程の修了とはならず、介護福祉士の資格が与えられない。

また当専攻で開講された授業科目の単位認定の状況表を参考に、それぞれの授業の単位認定の方法をみると、総合評価の科目が圧倒的に多い。これは、介護福祉士養成に必要な指定科目

の多くが、例えば家政学概論においては被服・栄養・住居の3分野、形態別介護技術では老人・肢体障害・視覚障害・聴覚障害・内部障害・精神障害等に専門分化をしているため、まずは各々の分野ごとに筆記試験やレポートならびに出席状況などで評価をし、それらの全体を通して総合評価を行うという認定方法をとっているからである。

表Ⅳ－⑩2005年度福祉専攻の単位認定の状況表

		授業科目名	授業 形態	履 修 数	主な単位 の 認定方法	取得 %	最終の評価（％）				
							S	A	B	C	不 可
介護福祉専門科目	専門科目	老人福祉論	講義	30	総合評価	100	0	100	0	0	0
		リハビリテーション論	講義	30	総合評価	100	100	0	0	0	0
		老人・障害者の心理	講義	30	総合評価	100	0	83	13	4	0
		家政学概論	講義	30	総合評価	100	10	73	17	0	0
		家政学実習	実習	30	総合評価	100	10	87	3	0	0
		介護概論	講義	30	総合評価	100	20	63	17	0	0
		介護技術	演習	30	総合評価	100	23	34	43	0	0
		形態別介護技術	演習	30	総合評価	100	20	63	17	0	0
		医学一般	講義	30	筆記試験	100	3	24	43	30	0
		レクリエーション活動援助法	演習	18	総合評価	95	17	67	11	0	5
	実習	実習指導	演習	30	総合評価	100	33	17	33	17	0
		介護実習	実習	30	総合評価	100	3	60	34	3	0
修了研究演習			演習	30	総合評価	100	3	90	4	3	0
社 関 係	社会福祉	社会福祉制度政策論	講義	20	筆記試験	100	15	15	30	40	0
		障害福祉論	講義	28	筆記試験	97	29	43	25	0	3
		社会福祉援助方法論	講義	7	総合評価	86	0	72	14	0	14

(3) 学長としての評価の現状に対する受け止め方

今年度入学生から5段階評価に切り替えたことにより、きめの細かな評価が可能となった。全体的には、評価方法としての試験、レポートと平常点を含めた総合評価のあり方はバランスがとれており、また講義と演習、実習系科目でのそれらの使い分けもおおむね良好だと考える。評価結果の分布においても、多くは適切なバランスの中で、基礎学力の定着度や理論的内容の理解度がはかられていると評価できるが、依然として一部科目で、不合格人数が突出していたり、評価の分布に不正常な場合が見られ、今後の改善の余地がある。学生の学力低下を授業内容や展開の工夫によってどのように補っていくか、その点での教員側のさらなる努力を促すような方策を考えて行きたい。

【授業に対する学生の満足度について】

(1) 授業評価について

本学では2002年度後期より学生による授業評価を行ってきた。2002年度から2004年度までは前期

及び後期ともに2回ずつ、2005年度からは前期後期それぞれ1回ずつ学生よりアンケートをとり、授業改善の資料としてきた。各年度ともに「授業アンケート結果報告書」をまとめ、学生にもその結果を示している。

2005年度は今まで任意としていたアンケートを全ての授業で実施し、学生が回答しやすいように、回収を事務方が引き受けることになった。また選択肢だけでなく、授業についての意見や感想を記述式に書く欄を用意した。更にアンケート結果を全ての授業担当者に返して、担当者としてのコメントを求め、それを踏まえて学生へ結果を報告し、その中で今後の方向についても明らかにしてきた。

2004年度と方法や調査項目が異なったこともあって直接の比較はできないが、担当者として学生の評価は概ね良好であると判断している。

(2) 学生の満足度の現状の受け止め方

①保育科

2005年度の授業評価は1年の専門科目が前期の1回目(4.36)から後期の2回目(4.56)まで評価が上昇しており、保育科の授業に関わる教員の努力が数字となって現れている。2年生も前期に比べて後期が高くなっており、学生の要求にある程度応えていると確信できる。年間の平均としても1年2年を合わせて5段階で4.40を超えており、全体的に要求に応えていると言える。ただし各教科単位では課題もあり、今後とも改善の努力を行う必要があると考えている。

②心理学科

10項目にわたる学生の授業アンケートの結果によると、本学科の専門教育科目への評価を他学科と比べた場合、前期科目に関してはやや低めであるが、後期科目に関しては逆にやや高めとなっている。一方、1年生と2年生の評価の差に着目すると、前期は全体に2年生の満足度のほうが高い傾向があるのに対して、後期は1年生の満足度のほうが高い項目も増えてきている。こうした差異はにわかに原因を突き止めることが難しいが、授業の内容・方法の改善については、引き続き努力していきたい。

③教養科

2005年度に実施された学生の授業評価は、各学科ごとの平均値をまとめて学生に報告されている。その中で教養科においては対象は2年生だけであるが前期に比べて後期は満足度が高くなっており、教員の指導の改善が認められる。同様に「授業内容全体を理解できたか」や「教員は授業内容に熱心さを持っていましたか」においても同様の傾向が見られている。なお「授業の雰囲気はよかったか」では他の学科よりも数値が高く、学生が授業に満足を感じていることが読み取れる。

④福祉援助学科

2005年の授業評価は、他の学科に比べて低く、前期、後期とも1年生に比べて2年生の評価が低くなっている。「教員は熱心に教えているが、学生の理解度に配慮できないまま授業し、学生もわからないまま質問もできず、調べもせず、満足度も高くない。」と読み取れる。後期は幾分改善されているが、その傾向は変わらない。1年生も後期は前期に比べて評価が下がっている。

これらの結果は、介護福祉士の卒業時共通試験が行われることがあり、教育のレベルを一定

に保つ必要があることが、影響していると思われる。しかし、アンケート結果を受け止め、学生の現状を理解した上で、教育方法を検討し、授業に対して創意、工夫していくことが求められる。

⑤専攻科保育専攻

授業アンケート結果のまとめによれば、保育専攻は1学年も2学年も年1回の調査である。したがってその数値だけでもものを言いきることは出来ないが、質問項目9つすべてにおいて、1学年は4.5前後と他科よりも比較的高く、満足度が高いといえよう。しかし、2学年は3.5前後から4.0の範囲に位置し1学年より低下している。その原因は明確ではないが、多くの授業を受け、実習も重ね、学部で言う4年生としての厳しく、客観的な目で評価しているといえよう。

⑥専攻科福祉専攻

学生による授業アンケートの集計をみると、科目によって多少のばらつきがあるものの、おおむね満足が得られていると判断できる。しかし「板書の字が見にくい、視聴覚機材が整っていない」などの指摘があり、特に環境面においては学生が満足できる状況には至っていない。また、教員の授業に対する熱心度はかなり高く評価されているが、学生自身の授業に対する理解度は必ずしも高いとは言えない。この点においては教員の教授方法の工夫や授業案の検討などを図っていく必要がある。

さらに複数で行う演習科目においては、教員同士の意思疎通が図れていない等の指摘があった。教員同士の連携を密にして学生の混乱を招かないような体制がのぞまれるところである。

<授業アンケート結果のまとめ(2005年度調査)>

1. 毎回の授業の目的が明確で、それに沿って行われていましたか
2. 今までの授業全体の内容を理解できましたか
3. 教員は、授業内容に熱意を持っていましたか
4. 教員は、学生の理解度に配慮していましたか
5. 授業での教員の声の大きさや言葉づかいは適切でしたか
6. 板書や教材などは、見やすかったですか
7. 教室の広さや視聴覚設備は、適切でしたか
8. あなたは、この授業に熱心に参加しましたか
9. 分からないことは、質問したり調べたりしましたか
10. この授業について、総合的に満足していますか

表Ⅳ－⑪2005年度授業アンケートのまとめ

前期	履修 者数	回答 者数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	平均
教養教育	1844	1486	4.14	3.62	4.28	3.77	4.08	3.77	4.11	3.95	3.47	3.79	3.90
保育1年	1295	1212	4.28	3.82	4.43	3.90	4.21	3.92	4.08	4.05	3.35	3.85	3.99
保育2年	3366	2743	4.57	4.14	4.72	4.23	4.48	4.18	4.34	4.36	3.69	4.20	4.29
福援1年	1013	905	4.31	3.75	4.37	3.94	4.26	3.89	4.20	3.86	3.35	3.90	3.98
福援2年	456	351	3.95	3.45	4.15	3.53	3.95	3.39	3.97	3.65	3.01	3.55	3.66

心理1年	610	520	4.03	3.42	4.05	3.52	3.99	3.63	4.09	3.74	3.28	3.49	3.72
心理2年	495	380	4.24	3.52	4.46	3.79	4.28	3.72	4.22	3.70	2.84	3.71	3.85
教養2年	208	158	4.62	4.34	4.63	4.48	4.57	4.37	4.45	4.40	4.13	4.46	4.44
保専攻2年	45	42	4.67	4.45	4.74	4.52	4.65	4.41	4.60	4.56	4.65	4.58	4.58
福専攻	396	360	4.42	3.92	4.65	4.18	4.48	4.18	4.48	4.25	3.92	4.11	4.29

後期	履修 者数	回答 者数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	平均
教養教育	1428	1039	4.32	3.75	4.42	4.01	4.21	3.99	4.13	3.89	3.46	3.98	4.02
保育1年	1513	1323	4.10	3.58	4.26	3.63	4.00	3.71	3.95	3.77	3.13	3.62	3.78
保育2年	2760	1820	4.53	4.15	4.66	4.21	4.43	4.21	4.36	4.26	3.71	4.19	4.27
福援1年	1260	1084	4.10	3.57	4.11	3.67	4.03	3.70	3.98	3.67	3.13	3.65	3.76
福援2年	316	214	4.00	3.57	4.08	3.70	3.97	3.70	3.78	3.59	3.17	3.57	3.71
心理1年	707	549	4.31	3.55	4.33	3.83	4.26	3.96	4.26	3.81	3.33	3.83	3.95
心理2年	330	244	4.39	3.73	4.41	3.82	4.17	3.63	3.89	3.88	2.97	3.85	3.87
教養2年	163	125	4.72	4.44	4.66	4.55	4.59	4.54	4.57	4.41	4.11	4.46	4.50
保専攻2年	27	18	4.83	4.77	4.79	4.52	4.57	4.36	4.53	4.71	4.54	4.75	4.64
福専攻	217	190	4.71	4.40	4.78	4.63	4.74	4.60	4.56	4.60	4.29	4.54	4.59

(3) 学長は学生の授業評価についてどのように受け止めているか

全体的に比較的良好な授業評価と受け止めることができると考えるが、さまざまな点で授業改善が求められていることも読み取れるので、それらについて尚一層の努力が必要であり、そのための環境整備に力を尽くしたい。総じて、半期2回の調査結果で、2回目の方が学生の満足度が高まっている点は、教員個々の評価の真摯な受け止めと授業改善への努力の反映として評価できる。授業展開や授業方法に対する教員の取り組みについては、この調査結果をベースにさらに細かい検討を加え、F Dの強化などにより、さらに学生の理解を進め満足を与えることができるような授業の工夫を進めていくこととしたい。個々の授業に対して、自由記述による学生からの要望に対しても教員が誠実に対応していることも評価できる。授業環境については、教室の改修などを実施した部分もあるが、まだ十分ではないので継続して取り組みたい。

【退学、休学、留年などについて】

(1) 本学の退学、休学、留年等について

① 保育科

2004年度入学生のうち、2006年3月までに退学した学生は10名であった。退学の理由は8名が進路変更、1名が病気、1名が経済的事情である。休学者6名の休学理由は、病気療養・体調不良3名、妊娠・出産2名、進路の検討1名、このうち4名が2006年3月までに退学し、2名が復学している。除籍者2名はいずれも学業継続の意志を無くし授業料未納のために除籍となった。留年者は8名、このうち1名は1年次に長期欠席及び休学をし、取得単位不足のため原級留置となりその後退学している。他の7名は在学中である。

246名の入学者のうち、修業年限の2年間で卒業した学生は227名(93%)であった。

②心理学科

2004年度入学生のうち、2006年3月までに退学した学生は9名であった。退学の理由は進路変更6名、経済的事情3名である。休学者は1名、休学理由は進路の検討であり、この学生は後に退学している。除籍者は4名、いずれも欠席がちとなり継続意志を無くし授業料未納のため除籍となった。留年者は3名、このうち2名は1年次に取得単位不足のため原級留置となり、その後1名は除籍(授業料未納による)となった。2名は在学中である。

79名の入学者のうち、2年間で卒業した学生は64名(81%)であった。

③教養科

2004年度入学生のうち、退学した学生は6名であった。退学の理由は進路変更が5名、一身上の理由が1名である。除籍者は1名、欠席がちとなり継続意志を無くし授業料未納のため除籍となった。57名の入学者のうち、50名(88%)が卒業した。経済的な状況でやむなく退学した学生も含まれるが、課題として残る。

④福祉援助学科

2004年度入学生のうち、退学した学生は4名である。個別の退学理由は3名が進路変更である。他の1名は健康上の理由である。他に2名が授業料未納のため除籍となっている。これらの1名は進路変更、もう1名は経済的理由である。

2006年3月に卒業した学生のうち、2年間で卒業できた学生は約90%であった。

⑤専攻科保育専攻

2004年度入学生は9名。全員が2年間で卒業している。

⑥専攻科福祉専攻

2005年度の入学生は30名。退学・休学者はなく30名全員が1年間で修了している。

表Ⅳ－⑫ 4学科における退学者等の一覧

2006年3月現在

	保育科	心理学科	教養科	福祉援助	保専	福専
入学者数	246	79	57	78	9	32
うち退学者数	10	9	6	3	0	0
うち休学者数	6	1	0	1	0	0
休学者の内の復学者数	2	0	0	0	0	0
除籍者数	2	4	1	2	0	1
留年者数	8	3	0	3	0	0
卒業生数	227	64	50	70	9	31

注) この人数の中には、休学後に退学、および留年の後に退学・除籍となったものを含む。

(2) 学生の状況及び指導の現状について

この数年退学者数が増えつつあり、担任やゼミ担当、あるいは保健センターが一体となってその防止に努めてきた。本学の特徴である少人数指導を活かし、まずは10人から15人で行われるゼミ活動の中で学生の動向をつかみながら指導し、退学や休学を未然に防いでいるところもある。

しかしながら、退学者数と休学者数をあわせると入学者数の5%を超えることになり、大学全体としても新たな取り組みが必要と思われる。

また退学者や除籍者の中には、入学はしたものの経済的な理由で学習を止めざるを得ない学生もあり、社会的な状況が反映していることも確かである。白梅独自の奨学金や授業料の延納や分納なども取り組んでおり、今後もその点での配慮を継続していかなければならない。

(3) 学科長はどのように受け止めているか

① 保育科

これらの学生に対しては、担任及びゼミ担当者が学生と丁寧に向き合いながら、時には保護者も交えて話し合いを重ね、相談・助言に努めた。また、病気や精神的な原因も伴うと判断される場合は、保健センターの担当者とも密に情報交換をして学生のプライバシーを尊重しつつサポートする体制で取り組んできた。さらに、各種資格に関わる実習が多いなかで、場合によっては実習担当者も交えて、可能な限り学生の希望を受け入れながら対応策を模索した。

保育者になりたいという希望をもって入学したものの、実習を通して自己の適性を再考したり、保育者に向かって邁進する同級生のなかで挫折感を味わい、前に進めなくなる学生がいることも確かである。その場合は学科内の学生情報を教員が共有するなかで、精神的な支援を強化すると同時に本人の将来について長い目で見守るサポートを行っている。

② 心理学科

本学科の場合、退学者・休学者の合計の割合が入学者数の12%に達しており、他学科と比較してもその割合は高いと判断せざるを得ない。本学科は他学科と異なり、特定の職業に就く資格を得るための教育課程ではないため、学修目標の定まっていない学生が入学してくる割合が高いと考えられ、そのことがこうした数字の一端を担っていると考えられる。そうした学生のために、ゼミ担当者や担任による個別面接などを行ったり、就職支援や資格取得のための科目を教育課程に取り入れたりといった努力を行っているところであるが、今後一層の取り組みを行っていききたい。

除籍者の割合も他学科に比べて多いといえるが、これらのケースはほとんどが経済的な事情での就学困難によるものである。学科としての取り組みというよりは、学校全体での経済的支援の取り組みに期待したい。

③ 教養科

2005年度の入学生は57名でそのうち6名が退学し、1名が除籍となっている。卒業率は88%となり、過去の教養科の卒業率に比べると低くなっている。数年前より教養科としての募集が厳しくなり、定員を割りこんでしまう事態が続いた。3年前より教養科を従来の教養的な学問を深める現代教養コースと幼稚園二種免許が取れる現代保育教養コースを立ち上げ、その3年目としての結果であり、現代教養コースだけでなく、ゼミの担任やコースの担任が少人数で丁寧な対応をしているにも関わらず現代保育教養コースにおいても退学者が出ているので、更に一人一人を大切にしたい対応が求められていると考えている。とりわけ学力などの問題で授業についていけないことが理由で退学する学生に対して特別の配慮が求められている。

④ 福祉援助学科

退学に至る学生の多くが1年のうちに退学している。個別の理由では、介護福祉士になりたいと入学してきたものの、学び始めてそれまで自分で描いたイメージと異なることがわかり、介護への興味が薄れてしまったため進路変更した例がある。また、実習に行ったら対人関係の難

しさに自分の適性を考え、別の進路に変更した例がある。また、短大で介護を学ぶという環境の変化に適応しきれずに改めて進路を検討し、変更した例もある。

健康上の問題を理由に挙げたものは、入学以前からのものが入学後悪化したことにより、学習の継続ができなくなったものである。

個別の指導を行ってきているが、様々な学生が入学してくることから、早期に、身体的な状態だけでなく、精神的、心理的な状況などを把握し、一人一人の状況に合わせた対応が求められている。今後も、クラス、ゼミ、実習担当が連携し、きめ細かな指導が求められる。

⑤専攻科保育専攻

表 12 によると 2005 年度の退学者、休学者はいなかった。

⑥専攻科福祉専攻

当専攻の学生は、1 年課程ということもあり、また介護福祉士の資格取得という目的がはっきりしている学生が多いため、退学者は少ない。

2005 年度においては、退学・休学者は 1 名もいなかった。前期課程の第 1 段階の実習時に 3 週間の入院加療を要する学生がいたが、実習を夏休み期間に移動し実施することにより、無事終了することができた。

(4)学長はどのように受け止めているか

退学者、休学者の増加の背景にはさまざま要素があるが、近年の社会経済状況を反映して就学継続が困難な場合が増えている。これに対して、法人とも協力し、授業料免除や延納、分納措置などの適切な対応を十分進めることができなかった。緊急の課題として取り組みを強化したい。その一方、学内での友達関係や勉学に悩み、正常な学生生活を継続できない学生も増えており、これらに対しては、保健センターを中心としたフィジカルケアと学生相談室を軸としたメンタルケアに加え、少人数教育のシステムを生かしたゼミ教員、担任などによるスタディケアを充実し、三位一体となって悩みを抱える学生のサポートができるような体制を整えた。しかし、まだ発足して間もなく手探りの活動状況なので、さらに機能の充実に早急に取り組みたい。

【資格取得の取り組みについて】

(1)取得可能な資格と取り組み及び取得状況

本学では保育士や幼稚園免許および介護福祉士の養成を中心として、可能な限りの資格取得を目指して教育課程を組んできた。ただし必修科目の縛りが多く、カリキュラムの中に資格取得可能な科目を配置することは容易ではない。それをふまえて表 10 のような資格取得者を今年度は送り出している。

①保育科

2005 年度の卒業生については保育士登録者 218 名、幼稚園教諭二種免許状取得者 212 名となっている。入学者数から退学者等を差し引いた数として、複数の学生が保育科に入学しながら保育士の資格も幼稚園教諭二種の免許もとらないで卒業していくことについては課題として残されている。高校の進路指導との連携をとることも重要である。

②心理学科

本学科では学科の教育課程全体が資格取得を目指すものとしては構成されておらず、資格取

得はあくまで学生個人の意志に基づく選択的な学修活動という位置づけにある。本学科開設の科目で取得可能な資格は、ホームヘルパー(訪問介護員)2級、ピアヘルパー、生きがい情報士の3種である。このうち、ピアヘルパーは心理学の領域に最も密接に結びついているため、資格取得者が最も多い。また学科としても取得を推奨している資格であり、認定試験合格率も高い。ホームヘルパーは、具体的な就職に結びつきやすいため、学科としても取得を推奨しているが、実習を中心にかなりの時間をかけた研修が必要であり、費用もかかるため、多くの学生が講座を受講するには至っていない。さらには、介護実習は実際の介護現場で行われるため、責任の意識が確認できた学生を優先していることも、資格取得者数が大幅に増加しない一因であろう。生きがい情報士については、まだ世の中にあまり知られていない資格であることや、資格取得のためにはホームヘルパー関連の科目すべての単位を取得した上で、さらにいくつかの科目の単位を取得する必要があるため、これまでの取得者数はごくわずかに留まっている。

③教養科

2005年度の卒業生については学芸員資格単位修得証明書取得者が2名、ビジネス実務士称号認定証取得者13名、情報処理士称号認定証取得者12名（以上は現代教養コース）及び幼稚園教諭二種免許状取得者24名（以上は現代保育教養コース）となっている。現代教養コースが29名、現代保育教養コースが22名の中での数字であり、多いとは言えないが学生の総人数からすれば努力の結果であり、指導する側としてはそれなりの成果として評価できる。もちろん幼稚園教諭二種免許状取得に関しては、全員でないという問題点もあるが、本人の入学前の希望と実習などを踏まえた後での本人の適性との関係で、一定数が免許状の取得を望まないということもあり、やむをえないと考えている。なお卒業単位には含まれないが、大学の実施するホームヘルパー資格（二級）について取得している学生も数名いる。

④福祉援助学科

介護福祉士資格の他に生きがい情報士の受験資格がある。要件を満たせば幾つかの教科目の選択で、受験資格が得られる。本年度は2名が生きがい情報士の資格を得ることができた。

⑤専攻科保育専攻

教育学士を取得し、幼稚園教諭1種免許状に必要な単位を取得すれば、個人で申請することで、幼稚園教諭1種免許状を取得できる。全員が取得した。

⑥専攻科福祉専攻

専攻科福祉専攻は、保育士資格取得者を対象とする介護福祉士養成課程であり、所定の単位を取得し修了することにより、国家試験免除により介護福祉士資格を取得することができる教育課程である。

しかし数年前から、全国の養成校が加盟する介護福祉士養成施設協会により、国家試験に代わる筆記試験として「卒業時共通試験」の導入が図られ、毎年同じ日に全国一斉で筆記試験が行われるようになった。この試験は現段階では合格基準を定めてはいないが、国家試験による筆記試験の合格基準率が60%程度であることから、その基準点に届くための指導が現状では必要になってきている。

特に保育士資格を基盤とする1年制の養成課程の場合は、指定科目の13教科のうち保育士課程の中で既に取得したと見なされている教科もあるため、復習も兼ねて一斉試験の前に、2回の模擬試験と補習授業を実施している。

結果としては大方の学生が、基準点を取得し修了することができている。

表Ⅳ－⑬資格の取得状況(2006年3月)

資 格							
学科 (卒業者数)	保育 (228)	福援 (74)	心理 (66)	教養 (51)	保専 (9)	福専 (30)	合計
保育士登録者数	218						218
学芸員資格単位修得証明書取得者数				2			2
介護福祉士登録者数		71				30	101
ホームヘルパー養成研修2級課程修了 証明書取得者数			9	3			12
幼稚園教諭二種免許状取得者数	212			24			236
ビジネス実務士称号認定証取得者数				13			13
情報処理士称号認定証取得者数				12			12
生きがい情報士認定証取得者数		2					2
ピアヘルパー認定試験合格者数			27				27

(2) 今後導入予定の資格

とくに具体的な計画はないが、介護福祉士やホームヘルパー養成等において資格のあり方そのものの見直しが図られる動きがあるので、それらについて常に新しい情報を摂取し、教育課程の見直し等を含め機敏な対応を心がける。また、学科編成のあり方などについても将来的な構想を立てる際、とくに心理学系統の資格取得の可能性を追求したい。

また、地域子育て支援に資する人材養成の成果を示す本学独自の資格についても考慮していきたい。

【学生による卒業後の評価、卒業生に対する評価について】

(1) 学科等ごとの専門就職(当該学科等で学習した分野に関連する就職)の状況(専門就職数及び割合等について)

心理学科及び教養科の現代教養コースを除くと、基本的には資格を伴った専門就職であり、数人の例外を除くと関連方面に就職している。詳細の数字については領域Ⅴ(進路支援)を参照して欲しい。

(2) 卒業生に対する就職先からの評価について

保育科や福祉援助学科は保育園や幼稚園、福祉施設などへの就職が多いため、その後の実習や訪問などの機会に卒業生への評価などを聞きながらその後の学内指導に生かしてきているが、その他一般企業などについては特に評価を聞く機会を持っていないので、その点ではどのように行うかも含めて今後の課題となっている。

①保育科

数値としてのデータは存在しないが、学科の性格上、保育園や幼稚園、あるいは児童養護施設などの実習訪問において卒業生の評価を聞く機会が多い。大学における養成の内容は理論的な原則から技術的なものまで幅広い。白梅学園短期大学保育科は保育者としての子ども観の確

立を重視し、技術の基礎となる理論を身につけ、それを前提にして技術を高めることが特徴の一つで、保育の現場では就職して年数がたつにしたがって評価が高くなっている。

また教養教育も規程より多く学ぶ機会を設けているので、広い教養とヒューマンイズムの精神に基づく豊かな人間性を身につける一助となっていると考えている。

②心理学科

本学科の卒業後の進路は、一般企業への就職と四年制大学への編入に大別できる。就職先は銀行など金融業、流通・販売業、製造業、サービス業、病院、福祉施設など極めて多岐にわたるが、どの分野からも良好な評価を得ていると受け止めている。心理学を学修したことで、人に対する理解が深く、人間関係にも配慮できる社会人であること、報告書作成について十分に訓練されていること、パソコンなどの扱いにも慣れていること、などがその要因と思われる。

一方、編入先の四年制大学(多くは心理学関連の専攻)からの評価も良好である。心理学の全分野を一通り学修する本学科の教育課程を経た学生は、既に心理学についてのしっかりした知識体系を持っており、編入先での学修も容易に進んでいると推察される。

③教養科

卒業生の就職先に対して組織的に調査を行ったというデータがないので、一概に評価をまとめることはできないが、教養科は広い教養とヒューマンイズムの精神に基づく豊かな人間性を身につけることを目的として学科の運営をすすめており、卒業していく学生には2年間のゼミ活動等を通してその精神を伝えてきている。

卒業生を通して、就職先において広い教養や豊かな人間性を土台に大きく活躍している様子が伝わってきており、同窓会報や年一回開催される総会などでも常にそうした活躍が紹介されている。

④福祉援助学科

就職先に正式な調査はしていないが、実習巡回等で評判は良い。「優しい。」「利用者から信頼されている。」「人気がある。」「介護対象者の心理的なケアができる。」「レクリエーションができる。」等の評価を受けている。

卒業生に対してはアンケート調査を実施している。

また卒業生に対しては実習センターが中心となって、悩みの相談を受け、情報交換を行う等、卒後ケアを行っている。他に、白梅介護福祉学会が1年に1度セミナーを開き研修活動を行っている。

⑤専攻科保育専攻

2004年度の卒業生だけに限って言うならば、(1)の卒業生に対する就職先からの口頭での評価によるしかないが概ね良いと受けとめている。また保育界の中堅およびリーダーとして高い評価を受けている。

⑥専攻科福祉専攻

本専攻は、保育士等と介護福祉士の資格をもって卒業するため、就職先は保育分野、介護福祉分野に二分されている。保育実習を経て介護福祉実習を体験することにより対象の理解を深めることができているため、援助過程の基礎がつかめているとの評価を得ている。

また本専攻は学生の年齢層が広く、学校生活からも社会性が養える環境にあり、同年代以外の職員とも協調性をもって仕事に取り組む姿勢を持っている。

●学長

学生による卒業後の評価及び卒業生に対する指導等を通じて幼稚園、保育所などの卒業生の就職現場とは、実習指導などを通じて接する機会が多く、卒業生の声や卒業生に対する評価を情報として受け取ることができるが、一般企業などとの接点は必ずしも日常的ではなく、そういった方面で活躍する卒業生の動向を把握するためにも悉皆的な調査に取り組みたい。

(3) 卒業生による当短大に対するアンケート等について

卒業生に対してアンケート等を実施する機会はなく、したがって数字として示せるようなものはない。
2006 年度実施の方向で準備している。

(4) 卒業生に対する社会からの評価についてどう受け止めるか

前項の「就職先からの評価」でも触れたように、特別に地域からの評価を問うような資料は存在していない。また地域をどこまでの範囲で見ることについても定まったものがないので、一般的な評価として触れる程度になる。

本学は古くから保育の養成校として、1 万人を超える卒業生を送り出している。地域の保育園や幼稚園にはほとんど卒業生が存在し、その卒業生を通じて社会的な評価が行われている。その点から地域の評価はしっかりとしたものとして学園全体で受け止めている。

また、介護福祉士養成施設として 10 年を経過し、地域の福祉ニーズに応じて多くの現場に卒業生を送り出すことで一定の評価を受けていると考える。

【特記事項について】

(1) 教育目標の達成度と教育の効果について特に努力していること

授業評価アンケートを中心に、教育目標の達成度と教育効果の点検を行っており、それが授業改善等に一定の役割を果たしている実情から、さらに精度をあげるために実施方法や調査結果の検討についてより工夫を凝らす努力を続けたい。また、それらのデータを下に、学科会議等の機会に教員集団として教育方法や教育効果についての検討を深め、よりよい授業展開のための環境整備に努めているが、FDの強化が十分に果たせなかったので、今後の課題とし経験交流や実践事例報告を積むことにより、授業内容の改善、授業展開の工夫をさらに進め、教育効果の向上をめざしたい。

(2) 評価項目が達成できない事由

＜卒業生による短大評価、卒業生への社会からの評価が調査できていない＞

保育科、福祉援助学科の場合は卒業後の進路が比較的定まっているが、教養科、心理学科は相当なヴァリエーションがあり、また、昨今の社会情勢を反映して、一つの職場に定着しない傾向もあり、卒業生に対する社会的評価を集約的に収集することが難しい状況があるが、未だ不十分なので、改善を加え、卒業後の学生の評価についてさらに調査を進めたい。

《領域Ⅴ 学生支援》

本項目は、入学支援及び学習支援、学生生活支援、進路支援等、学生の生活全般に関わる支援についての項目であり、本学としても独自の取り組みを行っている部分がある。詳細については資料などによって補足させていただくことになるが、以下項目に沿って報告する。

【入学に関する支援について】

(1) 入学志願者への本学の説明・対応について

入学志願者に対する本学の建学の精神・教育理念、設置学科等の教育目的・教育目標、求める学生像に関する説明は、本学の学校案内である『入学ガイドブック(要覧)』に明示しているほか、本学のホームページにおいても紹介している。また、本学主催のオープンキャンパス(学校説明会・体験入学)、学園祭時に実施する学校説明会、学校訪問、学外で実施される説明会、あるいは個人・団体に個別に本学に訪問する入学志願者等対応時に『入学ガイドブック(要覧)』を配布して説明・明示している。

(2) 入学者選抜の方針・方法に関する説明について

入学者選抜の方針に関しては、前記の通り『入学ガイドブック(要覧)』、本学のホームページ、学内外で実施される各種説明会にて説明・明示している。

選抜方法については概要を『入学ガイドブック(要覧)』やホームページに明示するほか、毎年作成する『入学試験要項』に記載している。

(3) 広報および入試事務の体制について

学生募集全般に関する企画・立案は『学生募集対策本部』が行っている。

メンバーは本部長(学長)、副本部長(教員)、各学科より選出された教員、さらに広報課の事務職員で構成されている。そこで企画・立案した事項について、教授会の各種委員会の一つである教務委員会で諮られた後、教授会のもとで実施が決定される。また、学生募集対策本部は毎年、学生募集に関する見直し・総括も実施している。

学生募集の方針に基づき、広報活動は広報課が担当している。学校案内と付随する印刷物の作成・配布、入学試験要項の作成・配布、オープンキャンパスの運営、学内外の進学相談会対応、学校訪問、受験生からの各種問い合わせ、入学志願者の個別訪問時対応、他の教職員への広報活動協力依頼と準備・手配、そのほか各種委員会・他部署からの要請により学内外の入試情報の調査・集計活動を行っている。

入試業務は入学願書の受付までを広報課が担当し、入試の実施・運営は教務課が担当している。入学志願者・受験生等からの問い合わせは、前述の通り広報課が窓口となり担当しているが、入学試験(受験)時の対応や入学後の教学面に関する問い合わせは、正確かつ迅速な対応が求められるため、広報課以外の教職員が対応することがある。

また、広報課が他の教職員に広報活動を協力依頼する際には、実施マニュアル・概要等を適宜配布して対応するほか、協力体制の規模に応じて教職員合同説明会が行われ、広報活動の目的、方法、広報活動上の知識・情報の共有化を図っている。

表V―①オープンキャンパス学科別参加人数〔2005年度〕

	子ども学部	保育科	福祉援助学科	心理学科	計
6月	120	147	28	25	320
7月	300	340	70	58	768
8月	250	260	48	60	618
9月	80	50	20	20	170
10月					80
11月	130		7	4	141
計					2097

(4)入学試験の流れと多様な選抜方法の公正・正確な実施について

願書受付から合否通知に至る入学試験の流れを表1に示す。

教務委員会で当該入試の募集定員の確認と合格者枠を確認し、学科会議にて合否判定および(一般入試に関して)繰り上げ合格させてよい補欠連絡候補者の原案を作成、その後、判定教授会に上程する。なお、補欠連絡対象者には合格発表と同時に郵便でその旨を伝えている。

一般入試においては、合格者の入学手続きは本学の定めた期限までに行うことになっているが、期限までに入学手続きを行わない合格者や入学手続き後に辞退届を提出する者が発生することがある。定員割れの事態を避けるため、入学予定者数に欠員が生じた場合には、直ちに決められた順番に従って補欠連絡対象者に繰り上げ合格の連絡を実施している。また、入学手続き後、本学が定めた期限までに入学辞退届を提出した者には入学金を含み、納入金を全額返還している。

表V―②願書受付から合否通知に至る入学試験の流れ

(本科・専攻科共通)

推薦入学	社会人入試	一般入試
願書受付	願書受付	願書受付
↓	↓	↓
推薦入学試験	社会人入学試験	一般入学試験
↓	↓	↓
教務委員会	教務委員会	教務委員会
↓	↓	↓
学科会議	学科会議	学科会議
↓	↓	↓
判定教授会	判定教授会	判定教授会
↓	↓	↓
合格発表	合格発表	合格発表
補欠合格制度なし		↓
		補欠合格者決定

①入学試験を公正に実施する対応について

・入学試験を公正に実施し、漏洩等の問題等を防ぐため、本学では学長のもとに入試出題委員、入試内容検討委員が構成され、それに基づいて入試問題の出題、内容検討をおこない印刷等の

依頼を実施している。

・大学教育に関わる入学試験問題の作題は、すべて本学専任教員と非常勤教員が各教科に複数で担当しており外部委託はしていない。作題のあと、複数の内容検討委員が点検して、出題者との数回のやりとりのあと完成させている。入試当日、試験開始と同時に出題のミス等をチェックするために試験問題の点検を複数でおこなっている。

・出題の間違いが試験後に判明した場合は、対策本部を発足させて厳正な対応にあたっている。

②合否判定に関する内容について

・合否判定を公正実施し、漏洩等を防ぐため、入試委員による合格基準を決定している。入試後、合格基準による学科判定会議・入試判定教授会と公正に合否判定をおこなっている。

・入試作業については、関係者以外の立ち入り等を禁止し、漏洩を防いでいる。

このような本学での方法・手段のもとに行われた平成16～18年度の各種入学試験の志願者数を表2に示す。短期大学本科全体の志願倍率(定員比)は平成16年度1.6倍、平成17年度2.4倍、平成18年度2.7倍と、年々上昇傾向にあり良好な数字を示している。特に平成17年度以降、入学定員を四年制大学設置に伴い縮小した経緯もあり、その事が志願倍率を高めているという見方もできるが、志願者数が毎年着実に上昇していることが、入学定員縮小との関連性を薄めている。同時に、現段階で入学志願者が本学に抱くニーズを確認できる。また、学科単位で数字を見ると入学志願者が隔年減少化している学科がある。全ての学科が等しく安定的な入学志願者を確保できるよう、広報活動をより一層工夫し、実践していくことが求められる。

専攻科の志願者は過去3カ年で減少傾向にあり、いずれも定員を下回る志願者数である。保育士資格取得者を対象とした1年制課程の専攻科であり、教育内容の充実や効率的な資格取得にとどまらず、現代社会が求める人材養成を可能にしているだけに、より一層の広報活動を行い、本学で学び現代社会に貢献したいとする入学志願者を求めていく必要性を感じている。

表V－③平成16～18年度の各種入学試験志願者数

(単位:人)

	年度	定員 (A)	一般入試	推薦入試	社会人入試	志願者計 (B)	志願倍率 (B/A)
保育科	平18	100	267	171	3	441	4.4
	平17	100	152	219	17	388	3.9
	平16	180	46	294	13	353	2.0
心理学科	平18	70	88	65	1	154	2.2
	平17	70	32	68	0	100	1.4
	平16	70	39	62	1	102	1.5
福祉援助学科	平18	80	10	58	1	69	0.9
	平17	80	13	98	0	111	1.4
	平16	80	15	69	2	86	1.1
本科合計	平18	250	365	294	5	664	2.7
	平17	250	197	385	17	599	2.4
	平16	330	100	425	16	541	1.6
福祉専攻	平18	40	7	12	3	22	0.6

	平 17	40	10	22	未実施	32	0.8
	平 16	40	9	29	未実施	38	1.0
専攻科合計	平 18	40	7	12	3	22	0.6
	平 17	40	10	22	未実施	32	0.8
	平 16	40	9	29	未実施	38	1.0

(5)入学手続き者に対する情報の提供について

入学手続き者に対し、授業や学生生活についての情報提供は特に行っていない。基本的には、志願決定時まで具体的に提供しておくべき事項と考えるからである。

推薦入試の合格者に対して、入学までの数ヶ月間、学習のブランクを補うため、学科別に課題を課している(専攻科を除く)。合格者は課題に対してレポートを作成し、3月中旬までに提出。その後、教員がレポートの内容を確認して返却している。

(6)入学者に対するオリエンテーションについて

入学式を含めて3日間にわたってオリエンテーションが行われる。なお、オリエンテーションは各学科、専攻科別に同時進行で行われる。

入学式の午後にクラス担任のオリエンテーションがあり、学園の建学の精神や考え方などの学園生活の基本が説明される。

第2日目は、学科長のオリエンテーションにはじまり、学生人権擁護委員会より、学園内外での人権問題にどのように対処したらよいか説明する。続いて教養教育のオリエンテーション、カリキュラムのオリエンテーション、保健センターや学生相談室のオリエンテーションを行う。

第3日目は、図書館や学生会のオリエンテーション、更には奨学金や習熟度別授業のためのクラス分けなども行う。

なお、4月から5月にかけて、各学科ごとにオリエンテーションゼミナールを宿泊を基本として行い、学生と教員、及び学生同士の親睦を深める効果を上げている。学科によっては、このオリエンテーションゼミにおいて、所属するゼミを選ぶ準備を行う。

【学習支援について】

(1)ガイダンスの概要について

入学時にはオリエンテーションを行うことは「入学に関する支援」のところで述べたが、この期間に学習や科目選択のためのガイダンスを行っている。基本的には各学科ごとに行い、きめ細かい指導が可能のように配慮している。

まずカリキュラム全体について学科長などが履修について説明する。高校までの生活では自ら選択科目を選ぶような機会が少なく、多くの学生が初めての体験であり、丁寧な指導が必要である。それにこたえるように細分化してオリエンテーションを組んでいる。教養教育、専門教育をはじめ、実習、ピアノ等の実技科目なども個別に行っている。

科目履修登録では教務課で一人ひとりの選択をチェックし、必要に応じて個別の指導を行う。卒業や免許取得の細部についても担任やオリエンテーション担当者が相談にのっている。

(2) 学力補充のための補習授業の取り組みについて

資格を出す学科を抱えている関係もあり、それにふさわしい学力を形成することを目指して、様々な形で補習が行われている。学科によって違いがあるので、以下学科ごとに記述する。

①保育科

養成校として必修科目をはじめ、様々な教科において学生を一定の水準に到達させなければならない。したがって各教科において課題を課すところが多い。それらの課題を含めて学科として取り組むことはしていないが、担当の教員が学力補充のための補習等を必要に応じて取り組んでいる。

②心理学科

心理学の学習に特有な研究レポートの作成や統計処理については、身につけるべき事項が多く「消化不良」となりやすい部分なので、常に援助できるようにしている。具体的には、授業の中で何らかの課題が出されたとき、学生は授業担当教員だけでなくどの専任教員に相談しても適切なアドバイスが得られるようにしている。

③教養科

現代教養コースは、教養教育全体が専門科目として位置付き、自然科学や社会科学、人文科学などあらゆる分野が学習の対象であり、個々の補習を行うことはむずかしい。ただし語学については少人数で行うということもあり、必要に応じて補習授業を行ってきている。現代保育教養コースにおいては専門科目が保育科の科目を聴講するという関係から補習の主体が保育科になっている。コース独自の専門科目については資格に関わる科目ということで、教養科の担当教員が必要に応じて補習を行っている。なお、現代教養コースでは学力的に厳しい学生も入学しており、個別に指導する例もある。

④福祉援助学科

授業を欠席した学生に対して、演習系の授業は補習を組んで、個別に対応している。学力に課題がありそうな学生に対しては、個別の補習を組むことがある。また、介護技術のように自習などで修得がむずかしい教科は、実習室を開放するなどし、個別に練習ができる体制を組んでいる。

一方、進学希望者には、ゼミナール担当が中心になり、論文指導を行なっている。また、語学のように、他学科の先生に指導を依頼し、補習することがある。

⑤専攻科

特別の補習授業はないが、修了研究演習では、学生の演習の内容、進み具合に合わせて授業時間外でも指導をしている（保育専攻）。

講義科目については、社会福祉分野の専任教員の主導のもと、授業テープの貸し出しや授業アンケートを受けた形での学習内容のフィードバックを、毎授業ごとに行っている。また介護技術等の演習科目については、授業時間以外にも介護実習室を開放し、加えて各期の実習前等には教員も入って実技演習ができるように工夫し日程調整を行っている。さらに、通常の試験等で補習が必要と認められた学生には、講義・演習ともに時間外の補習を専任教員の責任において実施し、学力補充に努めている（福祉専攻）。

(3)学習上の問題や悩み等への指導・助言体制について

授業を通して学習上の問題や悩みに答えることが基本であるが、それでは対応しきれない場合は、各学科ごとに検討の場を設けている。ほぼ毎週開催される学科会において、専任の担当者から「学生について」という形で状況を出してもらい、指導の方向を検討する。

特に資格取得を目指す学生の場合は、自分の将来に大きな影響を与えるものとなり、それがプレッシャーとなって学習が継続できないというケースも見られる。本学は全ての学科が少人数のゼミや研究グループを形成し、そこに必ず教員が配置されるので、多くの場合はその中で指導や助言が行われている。

福祉援助学科では、1年生の相談窓口はクラス担任である。担任は内容によって、学科内で対応できない場合など、学生相談室、保健センターに繋げるなど、対応している。また、学科の会議で相談し、情報、認識を共有している。2年生は、ゼミナール担当が対応している。その他に、実習を担当した教員が個別に相談に当たることがある。また、実習指導センターの先生方の役割が大きい。実習センターは実習についての窓口だが、実習だけでなく、学生生活から就職のことまで相談にのっている。就職についての相談では、先輩介護福祉士としてのアドバイスも含め、履歴書の書き方から見学時のマナー、見学後の礼状の書き方まで指導を行っている。

他の学科においても同様に、クラス担任やゼミ担当者が学生の学習上の問題や悩み等への助言が日常的に行えるようになっている。

(4)進度の早い学生等に対する学習上の配慮や学習支援について

本学では語学の授業において「習熟度別授業」を実施している。入学直後に診断テストを行い、特に結果が思わしくない学生を少人数で指導し、その他の学生をやや高度な内容の授業ができるようにしている。2年次には他の四年制大学への編入も視野に入れて、診断テストの上位者と編入を目指す学生を中心に1クラスを編成している。更に、外国語としての英語は、あらゆる分野において必要とされるため、選択科目として英文購読を設置し、より高い目標への取り組みができるようにしている。

なお四年制大学への編入については、論文や英語において個人指導を行えるように担当教員を決め進路指導課として対応している。

【学生生活支援について】

(1)学生生活を支援するための組織や体制の現状

各学年、各クラスにクラス担任を配置している。また各学科とも少人数のゼミがあり（教養科は1年前期より、保育科は1年後期より・心理学科と福祉援助学科は2年次）、ゼミ担当の教員に勉学上の相談、進路についての相談だけでなく、学生生活他さまざまな問題について相談することが出来る。

学生の心と体の健康に関する支援には、保健センターと学生相談室があたっている。保健センターでは専任の保健師と看護師が救急処置・健康相談の他、栄養指導・性教育等の健康教育を実施し、学生相談室では専任のカウンセラーが学生生活のあらゆる相談に応じている。

なお、学生部長を中心とした学生委員会において、進路指導を含めた学生生活のあらゆる事柄について協議している。事務組織では学生課が、学生会、クラブ・同好会、学園祭等について の支援を行い、進路指導については進路指導課があたっている。

2005 年 4 月、4 年制大学が開学し 1 4 9 名の大学生が入学してきた。同じ敷地内にあるため、大学と短大の学生は一つの学生会のもとに、課外活動を行うこととした。（2005 年 7 月 1 3 日の学生総会にて決定）

（２）クラブ活動の現状、学生会の現状、学園祭実施の状況

①クラブ・同好会の現状（２００５年度）

＜体育系クラブ・同好会＞

バレーボール部・バスケットボール部・バドミントン同好会・テニス同好会・体操同好会・フットサル部・卓球同好会・アンフィニ(テニス系)・＊ダブルダッチ同好会
以上 9 団体

＜文化系クラブ・同好会＞

軽音部・茶道部・児童文化クラブ・フォークダンス部・できるかなクラブ(造形、人形劇)・白梅ボランティアクラブ・自然同好会・白梅 B R A S S ・びんぼけクラブ(写真)・囲碁サークル・＊演劇部・＊手話点字部・＊ダンスサークル

以上 1 3 団体

＊＝今年度新設の団体

上記団体のうち、ダブルダッチ同好会・演劇部・ダンスサークルには、短大生の加入者はいない。

2005 年度クラブ・同好会への短期大学学生の参加者は 2 1 3 名。これは学生総数の 28%にあたる。各団体には顧問(教員 1 名)を置き、学生の課外活動が有意義なものとなるように指導している。学生の半数が保育科の学生である本学ではゼミ活動が活発であり、放課後も活動することが多い。クラブ・同好会活動は、それに比べて全体的には活発とは言えないが、学科を越えて活動している。

2005 年度は、8 月に行われた全国私立短期大学体育大会に、バスケットボール男子と女子、バレーボール女子、バドミントン同好会女子ダブルスが出場した。戦績は、バスケットボール男子が 1 回戦勝利、女子が 1・2 回戦に勝利した。

1 0 月に行われた東京都私立短期大学体育大会には、バレーボール男子と女子(2 チーム)、バスケットボール女子が出場した。戦績はバレーボール女子(1 年生チーム)が 1 回戦勝利、バスケット女子は 1・2 回戦に勝利し参加 11 チーム中 3 位となった。

文化系のクラブ・同好会は、その殆どの団体が学園祭に参加し、活動の成果を発表した。

また、今年度より 4 大生が多く加入し活発になった児童文化クラブでは、近隣の小学校等に向いて人形劇を行うという活動も積極的に行えるようになった。

学生会は今年 4 大生を迎え、7 月の学生総会後は 4 大の学生と一緒に活動している。学生会は短大・大学の学生をもって構成し、中央委員会(執行委員・クラス委員・クラブ委員)、執行部役員会、白梅祭実行委員会、選挙管理委員会・会計監査の各機関を置いている。

②その指導体制及び学生の指導状況

学生会の活動は、学生部長を含めた学生委員会が指導助言を行っている。しかし、学生会役員に立候補する学生が少なく、毎年候補者選別に苦慮している。

学園祭は今年度 1 0 月 2 9 日・3 0 日の 2 日間行った。2 年生の白梅祭委員を中心に、1 年

生の各クラスから選出された白梅祭委員とでなる実行委員会が企画・運営をし、学生委員会の主に白梅祭担当教員が助言を行った。

2005年度はゼミ、クラブ・同好会、仲良しグループ等36団体が参加した。参加した学生数は延べ580名であり、これは短大学生の76%にあたる（他に学生以外の参加団体4）。各参加団体には顧問教員を置き、指導助言を行っている。

(3) 学生の休息のための施設、空間、保健室、売店の設置の概要について

225席ある学生食堂と売店は白梅学園生協が営業している。学生食堂は、カフェテリア方式でメニューも豊富にあり、大勢の学生が利用している。なお、学生食堂は食事提供時間以外の時間にも学生の休息の場として開放している。2005年3月に完成した創立60周年記念館(J棟)の1階に学生ホールを作った。このホールは、学生が空き時間にグループでも、又一人でもくつろげるように設計している。その他には、学生会館の中に、和室が1室ある。流しやガス台も設置しており、ゼミやクラブ・同好会等の懇親会に貸し出している。

校庭は広いとはいえないが、校舎に囲まれた中庭は休憩時間の憩いの場となっている。

保健センターは学生が行きやすい場所にあり、保健師と看護師が9:00～17:00(土曜日は13:00)までの間、いつでも利用しやすい環境を整え対応している。

(4) 学生寮の状況、下宿・アパート等の宿舍の斡旋体制、通学のための便宜

キャンパスに隣接する4階建ての女子寮(54室の個室)を用意している。本学学生のうち、近年1都4県以外から入学してくる学生は約5%程である。遠距離からの入学者の減少にともない入寮希望者も減少しており、希望する学生は全員入寮可能な状況である。2005年度の入寮者は1年生13名、2年生14名であった。寮には寄宿舍指導員(寮母)が常駐しており、学生部長の指導のもと、寮生の生活指導、緊急時の対応、寮舎の管理事務を行っている。

遠距離からの入学生で、本学周辺のアパートを希望する学生にはアパートを紹介している。

紹介するアパートは、不動産屋を介さず、主に学生を対象としたアパートの家主の方に空き状況を伺い斡旋している。なおアパートの紹介は白梅学園生活協同組合でも行っている。

本学は、最寄り駅から12分程度のため、電車通学者が多い。また、2割以上の学生が自転車で通学している。自動二輪車及び原付での通学も許可しているが、学生課に届け出をさせ、事故のないように注意を与えている。

(5) 2005年度の奨学金取得状況

本学が扱っている奨学金は、日本学生支援機構奨学金、東京都介護福祉士等修学資金、生命保険協会介護福祉士養成奨学金、ニヤクコーポレーション介護福祉士奨学基金、および本学独自の奨学金である白梅学園短期大学奨学金である。

本年度の奨学金取得状況は、白梅学園短期大学奨学金の取得者が17名、日本学生支援機構奨学金が138名、東京都介護福祉士修学資金が4名、生命保険協会介護福祉士奨学金が2名、(ニヤクコーポレーション介護福祉士奨学基金は今年度募集なし)他の奨学金が1名で合計162名が取得している。2005年度の本学学生の奨学生率は21%であった。

本学独自の奨学金である白梅学園短期大学奨学金は、本学学生で学習意欲が高く経済的事由

により修学困難な者に対して必要な学資の一部を貸与し、修学を援助することを目的としている。奨学金は無利子貸与で、貸与金額は月額3万6千円である。募集は毎年5月に行われ、全学科より15名(白梅学園大学奨学金を含み)募集している。奨学生の選考は奨学生選考委員会が行い学長に具申し、学長が決定する。

(6) 学生の健康管理、メンタルケアやカウンセリングの体制の概要

本学は、学生の健康管理ならびに、心と体のケアを行うために「保健センター」と「学生相談室」を置いている。

保健センターの構成員はセンター長を本学教員が担当し、専属の専任保健師と特別職員の看護師の2名で保健管理業務全般(学生の健康診断の実施及び事後処理、救急処置、健康相談、健康教育、健康診断票の発行等)を行っている。

救急処置に関しては、医師が常駐していないため、診断・治療行為は行っていないが、特別に診断・治療を必要としない程度の疾病に対しては、保健センターにて校医(内科医)の指導の下に救急処置を行っている。また、提携病院として精神科、眼科に医療機関を確保している。医療機関受診の必要性がある場合は、校医及び提携病院、近隣の医療機関への受診勧奨を行っている。

健康相談は、内科医師による健康相談を月1回、婦人科医師による健康相談を半期に1度実施している。日常的には、専任の保健師が毎日学生の健康上の相談に応じることができる体制をとっている。

なお、保育や教育、福祉関係の学科では実習に備え、秋にもの臨時に内科検診を行っている。

*保健センターの主な活動は以下の通りである。

○新入生オリエンテーション：4月

○定期健康診断(検尿、胸部X線、血液検査(貧血検査)、内科検診で必要と認められた者のみ心電図)：4月

○臨時内科検診：9月

○内科医師による健康相談：月に1回

○婦人科医師による健康相談：半年に1回

○健康教育・相談(新入生全員に手作り健康パンフレット配布、個別および集団での運動教室、栄養相談、禁煙支援、性教育等)

学生相談室の構成員は相談室長(本学教員)と専任のカウンセラーの2名である。学生の相談にはカウンセラーが週4回10:00から17:00まで応じている。

相談内容は学生の生活・学習上の問題や進路、健康についての相談および家庭的問題・経済的問題・心理的・精神的問題等あらゆる相談に応じている。

各方面の専門機関への連絡も取れる体制になっている。

保健センターおよび学生相談室の利用状況は年に2回教授会にて報告している。

(7) 学生情報の保管・保護

奨学金関係の台帳は整備し、学生の異動に直ちに対応できるようにしている。なお、取得中の学生の個人台帳や申込み時の資料は、卒業生については卒業後も返還が終了するまでの間、

台帳は担当者が保管管理をしている。また、保健センターの学生健康診断票(健康状況・健康相談記録等を含む)、学生相談室の相談記録等は担当者が保管庫にて保管している。

教務課・学生課では成績表、学籍簿等の個人情報事を事務室内の金庫にて保管している。(卒業後は地下室の耐火庫にて保管)

学生の成績表についてはクラス担任が各自に配布している。試験結果の発表については、昨年度までは掲示板にて行っていた(不合格者の学籍番号を発表)。しかし、個人情報保護の観点から今年度から掲示板での発表を止め、成績表により担任が直接渡すこととした。

なお、成績票は今年度より、保証人にも郵送しているが、その際、郵送することに同意しない学生の場合は送らないこととしている。

【進路支援について】

(1) 学生の就職を支援するための組織や体制(教員組織、事務組織)の現状

教員組織では教授会に「学生委員会」を設け学生の進路全般を担当している。事務組織では学生部長(教員)のもと「進路指導課」を設け、専任職員3名が直接学生の相談に応じている。進路指導課では進路指導の資料室を設け学生の活動を支援している。

(2) 進路指導課・就職資料室などの現状について

進路指導課には、課長1名、職員2名、アルバイト1名を配置し、進路(就職・進学)情報の提供進路ガイダンスおよび相談業務を行っている。資料室は、第1就職資料室(企業系)、第2就職資料室(保育・福祉系)、進学資料室の3室に別れている。

就職資料室は求人票を閲覧できるように、業種別受付順の就職先の掲示及び個別ファイルをおいてある。そのファイルには、求人票、求人先のパンフレット、受験した学生の試験内容届等が入っている。その他就職関連書籍及び雑誌をそろえ閲覧できるようになっている。コンピュータは5台設置し、インターネットと接続している。

(3) 過去3ヵ年の就職状況

保育科及び福祉援助学科については求人件数も安定し、就職率は非常に高い状態である。幼稚園教諭、保育士及び介護福祉士の専門職就職については学生の望む就職先に就職できるようにさらに努力したい。

反面一般企業向け就職はよい状態とはいえないが、社会では徐々ではあるが景気の好転が見られ、希望がみえて来ている。学生時代に勤労意欲を高める教育を行い、学生には積極的に就職活動を行なってもらいたいと考えている。

(4) 過去3ヶ年の進学(4年制大学、専門学校等)及び海外留学の実績

進学系の資料室には4年制大学指定校の資料を中心にガイドブック、指定校の出願要綱等設置し、指定校情報を提供している。また、他の大学、専門学校案内を設置し情報の提供を行っている。

表V－④学科別過去3カ年就職状況

(平成18年5月1日現在)

	保 育 科			心 理 学 科		
	17年度	16年度	15年度	17年度	16年度	15年度
①卒業生数	228	241	243	66	75	79
②就職希望者数(割合 ②÷①)	185 81.1%	185 76.8%	193 79.4%	35 53.0%	35 46.7%	36 45.6%
③学校斡旋就職者数	145	149	147	6	3	10
④自己開拓就職者数	35	29	37	17	14	16
⑤不明・無業者数	5	7	9	12	18	10
⑥就職率A (③÷②)	78.4%	80.5%	76.2%	17.1%	8.6%	27.8%
就職率B (④÷②)	18.9%	15.7%	19.2%	48.6%	40.0%	44.4%
就職率C (⑤÷②)	2.7%	3.8%	4.7%	34.3%	51.4%	27.8%
	福 祉 援 助 科			教 養 科		
	17年度	16年度	15年度	17年度	16年度	15年度
①卒業生	74	79	86	51	53	40
②就職希望者(割合 ②÷①)	60 81.1%	59 74.7%	70 81.4%	31 60.8%	33 62.3%	20 50.0%
③学校斡旋就職者数	41	50	54	13	19	15
④自己開拓就職者数	19	9	16	10	6	5
⑤不明・無業者数	0	0	0	8	8	0
⑥就職率A (③÷②)	68.3%	84.7%	77.1%	41.9%	57.6%	75.0%
就職率B (④÷②)	31.7%	15.3%	22.9%	32.2%	18.2%	25.0%
就職率C (⑤÷②)	0%	0%	0%	25.8%	24.2%	0%

	専攻科福祉専攻			専攻科保育専攻		
	17年度	16年度	15年度	17年度	16年度	15年度
①卒業生	30	31	34	9	9	8
②就職希望者数（割合②÷①）	25 83.3%	29 93.5%	30 88.2%	9 100%	7 77.8%	8 100%
③学校幹旋就職者数	18	20	20	8	5	7
④自己開拓就職者数	7	9	7	1	3	1
⑤不明数	0	0	3	0	0	0
⑥就職率A（③÷②）	72.0%	69.0%	66.7%	88.9%	71.4%	87.5%
就職率B（④÷②）	28.0%	31.0%	23.3%	11.1%	42.9%	12.5%
就職率C（⑤÷②）	0%	0%	10.0%	0%	0%	0%

表 V－⑤学科別過去3カ年進学状況

（平成18年5月1日現在）

	保 育 科			心 理 学 科		
	17年度	16年度	15年度	17年度	16年度	15年度
四大編入数	4	1	1	7	11	16
本学専攻科	14	19	31	0	0	0
他専門学校等	5	6	1	3	9	4
	福 祉 援 助 学 科			教 養 科		
	17年度	16年度	15年度	17年度	16年度	15年度
四大編入数	2	8	2	2	3	2
本学専攻科	0	0	0	0	0	2
他専門学校等	6	3	1	2	2	2

【多様な学生に対する支援】

（１）過去３ヵ年の留学生の受け入れと学習支援・生活支援

本学では、留学生の受け入れ体制がないため、この項目については記載できない。しかし今後の状況をふまえば、保育や福祉においても国際的な人材養成が求められており、改善点として検討している。

（２）過去３ヵ年の社会人学生の受け入れと学習支援

本学では、高校卒業後２年以上経過したものは、全て社会人入学の対象者とみなしている。

過去３ヵ年の受け入れ状況について以下の表にまとめた。

とりわけ保育科については、いったん社会に出て民間企業などに就職し、様々な体験を経て入学してくる学生が多い。それらの学生は学習意欲も高く、本学としては積極的に受け入れてきている。

表Ⅴ－⑥社会人学生の受け入れ

	保育科			心理学科		
	17年度	16年度	15年度	17年度	16年度	15年度
合格者数	2	13		0	0	0

	福祉援助学科			教養科		
	17年度	16年度	15年度	17年度	16年度	15年度
合格者数	0	1	0	募集停止	募集停止	0

	保育専攻			福祉専攻		
	17年度	16年度	15年度	17年度	16年度	15年度
合格者数	募集停止	募集停止	未実施	未実施	未実施	未実施

（３）過去３ヵ年の障害者の受け入れと学習支援

本学はヒューマンイズムの立場から、入学を希望する学生で障害を持っていても原則的に受け入れてきた。また卒業の可能性がある場合は取り立てて障害者という扱いはせず、一般の学生と同じように対応することを原則としている。そうした中で、この３月には教養科においても卒業生を送り出している。

ただし保育科や福祉援助学科については、入学にあたって資格が取れる状況であるかどうかの判断をできるだけ正確に行い、可否を決めるにあたって十分な配慮をしてきた。

（４）過去３ヵ年の長期履修生の受け入れ状況について

本学は長期の履修生を受け入れる制度を実施していない。

【特記事項について】

（１）長期欠席者への援助、学生に対する表彰制度等、学生支援についての努力

長期欠席者へは、ゼミ担当教員・クラス担任が連絡を入れて、相談にのっている。必要に応じて家庭訪問なども行い、保護者などとの連携をとって対応をすすめている。

表彰制度は学則に設けてはいるが、どういう場合（成績優秀者等）に表彰するか等、具体的事項は決めていない。ここ数年表彰制度での表彰はないが、スポーツで良い成績を収めた学生、書道展にて優秀賞を受賞した学生に対して、学長室にて学長がお祝いの言葉をかけている。なお、福祉援助学科では介護福祉士養成施設協会の会長賞を卒業時に渡している。

その他には、情報処理センター主催により「白梅コンピュータアートコンテスト」を実施し、応募者の中から選ばれた大賞・優秀賞・佳作の受賞者に賞状と副賞を授与している。

学園祭にて、学生の参加団体のうち、もっとも学園祭の催し物として良いと評価された団

体に対して、白梅大賞（1団体）、白梅賞（5団体）を教職員の投票の結果を参考に学生委員会を選び、後夜祭にて発表。学長が表彰状と副賞を授与している。

（２）人権擁護にあたっての学内体制の整備

本学では学長をトップに人権擁護委員会を設置し、各学科及び部署から1名ずつ選ばれている。また学生からの相談を受ける相談員も各学科ごとに配置され、パンフレットによってすべての学生に認知されるよう努力している。セクシャルハラスメントに限らず、学生の人権侵害については学園をあげて阻止することを基本としている。

《領域Ⅵ 研究》

【教員の研究活動全般について】

（１）過去３ヵ年（平成１５～１７年度）に在籍した教員の研究実績について

２００３年から２００５年にかけて在籍した教員は２３名おり、３年間のトータルで業績がないものはいない。最も業績数が多かったのは２０にのぼり、１０を超える者は７名になる。

著作や論文に比べて学会等の発表が少ないが、数字にでていなくても実際にはもっと数多くの発表の機会を持っていることは確かである。

また、ほとんどすべての教員が何らかの形で社会的な活動に関わっており、中には複数の活動に関係している教員も少なくない。国際的な活動についてはまだまだこれからの課題と考えなければならない。

表Ⅵ―①教員研究業績一覧 過去３ヵ年

（保育科）

教員名	役職	研究業績 2003. 4～2006. 3				国際的 活動の 有無	社会的活 動の有無	備考
		著作数	論文数	学会等 発表数	その他			
秋山治子	教授	5	0	0	3		有	
佐々加代子	教授	3	0	0	1		有	
鈴木佐喜子	教授	4	7	0	0	有	有	
吉川研二	教授	1	0	0	0		有	
中山正雄	教授	10	2	0	2	有	有	
若松美恵子	教授	1	1	1	0		有	
小松歩	助教授	3	1	0	0		有	
高田文子	助教授	1	0	0	0		有	
花原幹夫	助教授	1	0	0	6		有	
師岡章	助教授	4	3	6	3		有	
佐久間路子	専任講師	4	2	2	1		有	
森山千賀子	専任講師	0	6	2	12		有	

（心理学科）

教員名	役職	研究業績 2003. 4～2006. 3				国際的 活動の 有無	社会的活 動の有無	備考
		著作数	論文数	学会等 発表数	その他			
荻野七重	教授	1	5	4	0		有	
金子尚弘	教授	0	3	2	0	有	有	
堀江まゆみ	教授	0	8	6	0		有	
倉澤寿之	教授	0	3	0	0		有	
金愛慶	助教授	0	3	2	2	有	有	

(福祉援助学科)

教員名		研究業績2003.4～2006.3				国際的 活動の 有無	社会的活 動の有無	備考
	役職	著作数	論文数	学会等 発表数	その他			
関谷栄子	教授	2	6	2	0		有	
富永静枝	教授	1	0	0	2		有	
杉本豊和	専任講師	2	2	0	1		有	
土川洋子	専任講師	1	0	0	1		有	
西方規恵	専任講師	0	3	2	0		有	

(教養科)

教員名		研究業績2003.4～2006.3				国際的 活動の 有無	社会的活 動の有無	備考
	役職	著作数	論文数	学会等 発表数	その他			
瀧口優	助教授	1	5	0	1	有	有	

(2) 教員個人の研究活動の公開について

H P において研究を公開している教員もいるが、数が限られている。紀要や研究センター年報によって自らの研究を公刊している場合もあるが、情報処理の対応が遅れている事実がある。この点については早急に対応しなければならない。

(3) 過去3ヵ年の科研費の申請及び採択状況について

2005年度は下記のとおり8件申請したが、新規として2件の採択を得た。前年度までの積み上げを踏まえて、内容的にも採択に値するものが準備された結果であろう。今後ともこの成果を積み上げたい。

表VI―②2005年度科研費申請一覧

	氏 名	種類	年数	研 究 課 題
1	金田利子 無藤 隆 佐々加代子 佐久間路子 他海外1名	基盤B	4年	文学的絵本を媒介に「心(s p i r i t)」でつなぐ幼保・小連携の比較教育学的研究
2	佐々加代子 無藤 隆 金田 利子 山路 憲夫 堀江まゆみ	基盤B	3年	保育者養成における子育て支援力をめざした実験的実践の効果

	小松 歩 佐久間路子			
3	明渡陽子 山路 憲夫	基盤C	3年	高齢者ケアでの医療と福祉の統合における介護福祉 専門職養成教育の検討
4	師岡 章 金田 利子 無藤 隆 他学外1名	基盤C	3年	幼稚園における組織文化のあり方の検討
5	瀧口 優 中島 好伸 他学外1名	萌芽	3年	ベトナム・フエ市内の小学校における英語教育と日 本の小学校における英語教育の比較
6	秋山治子	萌芽	3年	日本人の音楽観の考察－明治期、音楽をどう捉え、 音楽教育で何を育てようとしたか－
7	金愛慶	若手	2年	小・中・高の性教育プログラムに関する基礎的研究
8	佐久間路子	若手	2年	横断的・縦断的インタビューによる小学校への移行 期における自己概念の発達

	申請者	研究課題		研究年度	採択額
新 規	師岡 章 金田利子 無藤 隆 他学外1名	幼稚園における組織文 化のあり方の検討	基盤研究 (C)	平成17年度 平成18年度 平成19年度	1,100,000円 1,600,000円 800,000円
新 規	佐久間路子	横断的・縦断的インタ ビューによる小学校へ の移行期における自己 概念の発達	若手研究	平成17年度 平成18年度	2,200,000円 1,400,000円
継 続	無藤 隆	乳幼児および学童にお ける子育て支援の実態 と有効性に関する研究	基盤研究 (B)	平成17年度 平成18年度	3,900,000円 1,800,000円
他	佐久間路子	幼児期から青年期にか けての关系的自己の発 達	学術図書	平成17年度	1,900,000円

(4) 学科等ごとのグループ研究や共同研究、大学単位の研究等について

研究センターとして 2005 年度は、以下のように個人及びグループへの特別研究助成金として 350 万円を予算化し、研究内容によって助成を行った。額としては必ずしも十分とは言えないが、研究の深化及び発展のために少なからず寄与していると思われる。

－特別研究助成交付一覧－

＜2005年度教育・福祉研究センターの活動＞

白梅学園大学の開学に伴って教育・福祉研究センターは、更なる研究の推進及び地域サービスをめざして、次の事業を実施した。

a. 共同研究(研究助成)

2年計画の特定課題「社会とヒューマニズム」を含め、昨年度より行っていた「子育て広場」も加わり以下の9件、350万円で行った。

○決定者(申請代表者名)及び[助成額]

(1)佐々 加代子

(「社会とヒューマニズム」 地域の子育て支援－みんなで育て合う活動の広がり－)[15万円]

(2)佐野 英司

(「社会とヒューマニズム」－誰もが住み続けられる社会をどう築くか、先進自治体の取り組みの普遍化を模索する－)[15万円]

(3)金田 利子

(「社会とヒューマニズム」 子育て支援と次世代育成における異世代交流の相互発達の意義と効果に関する研究)[15万円]

(4)中山 正雄

(乳児院・児童養護施設における家族再統合への取り組みと家族支援専門相談員の役割の確立についての調査及び事例研究)[40万円]

(5)鈴木 佐喜子

(ニュージーランドにおける保育の計画、実践とアセスメントに関する研究)[25万円]

(6)民秋 言

(保育内容の歴史的研究(1)－とくに「保育要領」に注目して－)[10万円]

(7)金 愛慶

(思春期・青年期における自傷行為の実態及びそのリスクファクターに関する研究)[30万円]

(8)佐々 加代子

(子育て広場)[100万円]

(9)金子 尚弘

(子育て支援ネットワークづくりに関する研究－東京都小平市の事例をもとに－)[100万円]

【研究のための条件について】

(1) 研究費についての支給規程等について

規程により、教員は年間個人研究費として34万円が支給されることになっている。この研究費については、研究目的を明確化するために領収書を添付することが義務付けられている。更に個人研究費の他に、学会の会費について上限3万円の保障があり、年1回だけであるが、13万円以内での学会出張の交通費と宿泊費等が保証されている。

海外での学会も多く、それらに参加することを視野に入れば、決して多いとはいえないが、研究の土台としては保障されているといえる。

（２）教員の発表機会の確保について

学内における教員の発表機会としては、まず第一に研究紀要がある。２００５年度は第４２号が発行され、７人の論文が載せられている。また研究センターの研究年報も発行され、実践を主体とした研究や調査などの報告が載せられている。

教員としては年に２回の発表の機会があり、それぞれの研究内容に応じて投稿し、成果をまとめることができる。

（３）研究に係る機器、備品、図書等の整備状況について

各研究室にはパソコンが配置され、図書館だけでなく研究室に配置される図書も一定数保証されている。学科によって多少の違いはあるが、教養科のように主として図書を研究や教育の対象とする学科ではそれらは多くなっている。なお研究室の図書も図書館に登録され、大学の財産として位置づけられる。

（４）教員室、研究室または研修室、実験室等の状況

各教員に個人研究室を確実に保証することを原則としており、現在のところこの条件を充足しているが、学生のゼミ活動の場とも共有している関係から、研究室本来の機能が損なわれる場合もあり、今後の検討課題である。今後も教員数の増加にともなって研究室に不足を来すことのないよう、年次計画をたて対応していく必要がある。実験系あるいは演習、実習系の授業対応に必要な部屋の確保も行われているが、広さや備品の充足度等でまだ不十分な点もあり、整備が十分進まなかったもので、順次改善を図っていきたい。

（５）教員の研修日、研究時間の確保について

教員は、原則として４日を勤務日とし、研修日を確保している。授業や会議の時間及び週１回のオフィスアワーを除けば原則的には研究時間として保証され、研修場所については特に拘束されない。

ただし昨今の学生の状況からより丁寧な時間をかけた対応や、授業におけるわかりやすさなどを追求することによって、研究の中味も変わってきている。保育科や福祉援助学科においては実習の指導にかかわる時間も多く、実習訪問や実習ノートの点検、実習反省会なども加わっている。学生の教育や指導に時間がかかるようになり、その点では研究時間が少なくなっていることも確かである。

【特記事項について】

（１）その他に教員の研究について努力していること等

前述のように教育・福祉研究センターの活動の一環として、研究助成および出版助成制度を設け、研究の促進を図っている。研究助成については、年間総額３５０万円を計上している。今年度申請数は１０件で、１０件を採択した。特定の研究に重点配分をした結果、他の研究への助成は微々たるものになっている。その成果報告は、『研究年報』ＮＯ．１０（２００５年７月刊）に掲載されている。一方、出版助成は年間１５０万円を限度とするが、本年度申請数は３者の共同執筆による１件で、これに対し約１００万円の助成を行った。

2005年度の四大開設をひかえ、研究助成の充実は焦眉の急である。予算総額の増額を計るとともに、個別研究を重視しつつ特定課題研究にも相応の助成を果たすために、助成金の適切な配分についてさらに検討を重ねる必要がある。

（２）評価項目や評価の観点が実現できない自由等について

基本的に要求された評価項目については実現できているので、あえて理由を書くことはないが、研究と教育、それに学務に関わる業務などを総合的にこなしていくことが求められている中で、とりわけ大学の改編などによる膨大な労力が、研究の時間を十分に保証しえていないという問題はある。

《領域Ⅶ 社会的活動》

【社会的活動への取り組みについて】

（１）社会的活動への取り組みについて

本学では、地域と連携した社会的な活動に教職員が積極的に関わるようになっている。保育や福祉の養成校であるという特別な状況もあるが、その他の分野においても地域との結びつきがある。

また地域に限らず、各自治体の審議会や様々な学会、あるいは研究会等において中心的な役割りを果たし、様々な形で社会的な活動に関わっている。

①保育科

保育科の教員は、学科の特性もありさまざまな地域や場所で社会的な活動に取り組んでいる。保育に関わる講座や研修会、講演会、あるいは保育の臨床相談活動、特別支援に関わる活動、そして創作や音楽に関わる活動などにも関わっているケースもある。

なお 2004 年度より「白梅子育て広場」がはじまり、2005 年度は地域にも認知された社会活動になっている。その中心として保育科の教員が活動を行っているが、「白梅子育て広場」の学生の指導にあたっても、それぞれの専門の立場からアドバイスを行い、より充実した取り組みに貢献している。

②心理学科

本学学生を対象に心理学を教えるだけでなく、社会に対しても心理学の知見を伝える活動を随時行っている。第一に、高校生対象のオープンキャンパスや体験セミナーを開き、大学で学ぶ心理学がどんなものか実際に体験できる場を提供した。特に本学の心理学科に限った内容でなく、一般的な心理学科で行われる実験や実習を題材にしたので、本学以外の心理学関係への進学を希望する高校生にも、進路選択に資する情報提供ができたと思われる。第二に、主に近隣の高等学校の依頼に応じて心理学科の教員を派遣し、心理学に関する出張講義を行った。出張講義についての高等学校側の位置づけは様々で、進路指導の一環である場合や外部講師による特別授業である場合などがあるが、いずれの場合も好評であった。

③福祉援助学科

地域に開かれた大学を目指し、教育福祉研究センターの企画に協力し、介護福祉セミナーを年に 1 回開催している。時宜にかなったテーマによる後援会やシンポジウムを開催している。介護の現場職員、市民などの関心も高く、多摩地域の福祉系大学としての社会的役割を果たしている。介護保険事情や障害者自立支援制度に関する社会的関心を高めるために毎年引き続き積極的に参画を行う。

また地域の行政機関や福祉施設からの協力要請に対してはできる限り対応している。介護保険審査会の委員に協力したり、高齢者訪問介護事業所などの職員研修への協力などを行っている。

- ・介護技術講習会の開催、介護福祉士国家試験の実地試験委員の協力。
- ・小平市、東村山市のホームヘルパー講習会への協力。
- ・特別養護老人ホーム、NPO 法人などの相談役や学術的な理事としての協力。

また共同研究を通して地域のホームヘルパーなどの技術研鑽に協力している。

卒業生のためには、年に一回学園祭の機会にホームカミングデーを設けて、交流を図るとともに、時宜にかなうテーマで講演会や学習会を企画し白梅介護福祉学会という名称で企画運営している。卒業教育の企画として充実させたい。

④教養科

大学全体が小さい規模であり、社会的活動も学科としてよりは大学として行うことが多い。教養科は募集停止に伴い、各教員は別の学科所属となった。「大学の先生が教える」として開催される教養講座において積極的に中学生に対応したり、地域の教養講座などで講師をつとめるなど行っている。自治体の委員や歴史の編修に関わっている教員もあり、教養科ならではの関わり方もある。外国語としての英語に関しては、地域の小学校英語や教育委員会主催の研修会に講師として参加する機会もあり、専門を生かした社会活動となっている。

（２）社会人の受け入れについての今後の方向

社会人入学に関しては基本的に受け入れ体制を整えているが、特に保育科では、推薦入試、一般入試いずれの場合も、常に受験者が多数にのぼり、相当高い競争倍率になってしまいうために、コンスタントに社会人枠を設定できない事情がある。しかし、とくに保育、幼児教育、介護福祉等の領域では、あらためて最新の知識に触れ、研究蓄積を果たしたいとの現職者の社会人入試に対する要望は強い。また、他の社会人経験を持ちながら、新たに保育士等の資格取得をめざす社会人入学者も相当数にのぼる。本学としてもそのような要請に応えるべく、出来る限り枠を設定し、多くの人材を受け入れたい方針を持っている。さらに、これまで受け入れた社会人は、ゼミ活動や学生会活動などで率先して重要な役割を果たす場合が多く、学内の雰囲気づくりにとっても重要な存在であった。そういう点でも、今後積極的に社会人の受け入れに取り組んでいきたい。

（３）過去３ヵ年の地域社会に向けた公開講座などについて

a. 公開講座等

公開講座やセミナーについては以下の通りである。

表Ⅶ－①2005年度公開講座、セミナー、シンポジウムの開催

開催日	講座名	募集人員	参加人数
6月4日(土) 午前9時～午後5時	◇第5回 保育フォーラム 講師 無藤隆、民秋言 ほか 会場:財) 津田塾会 主催:明治安田こころの健康財団・白梅学園 大学 短期大学	200名	162名

7月17日(日) 午後12時30分～4時30分	◇第2回 白梅NPOセミナー 共催:特定非営利活動法人 小平市民活動 ネットワーク 白梅学園大学 白梅学園短期大学 小平市社会福祉協議会ボランティアセン ター 協力:武蔵野美術大学 小平よさこいの会 嘉悦大学地域・国際交流センター 会場: 白梅学園大学	150名	98名
6月25日(土) 10時～17時 7月23日(土) 10時～17時 8月13日(土) 10時～17時	◇第7回 保育実践講座「村田&八木講座」 村田講座(1日集中)ワークショップ 子どもと親 の問題について (1日集中)ワークショップ (1日集中)ワークショップ (1日集中)ワークショップ	50名 50名 50名	45名 45名 45名
5月28日(土)14時～17時 6月18日(土)14時～17時 7月16日(土)14時～17時 8月27日(土)10時～16時	八木講座 (午後)保育文化のコーディネートとスキルアップ (午後)保育メディアと保育室の環境コーディネート (午後)組織的遊び～ごっこのコーディネート 八木講座(1日集中) (1日集中)アートフルな表現遊びのアイデアとスキル アップ 講師: 村田保太郎(教育・福祉研究センター 顧問) 講師: 八木紘一郎(本学子ども学部教授) 会場: 中野サンプラザ	30名 30名 30名 50名 290名	36名 36名 36名 29名 272名
10月8日(土) 午後1時30分～午後5時	◇第2回家庭科の保育と保育者養成の保育を つなぐシンポジウム 講師:鎌野育代(千葉市立椿森中学校) 講師:望月一枝(私立茗溪学園中・高等学校) 講師:竹谷廣子(小平市こぶし保育園園長) 講師:河野富江(江戸川区新小岩幼稚園前園 長) 講師:伊藤葉子(千葉大学教育学部助教授) コーディネーター:金田利子(本学子ども学部教授) 会場: 白梅学園大学	100名	28名

10月～11月(土)もしくは (日)	◇第7回生活の中のカウンセリング 一日常生活におけるカウンセリングについて考える カウンセリングの基本的態度といくつかの技法について紹介する。		
10月1日(土)	「カウンセリングの心」 講師:平木典子(跡見学園女子大学文学部教授)		54名
10月16日(日)	「認知行動療法について」 講師:林 潔(白梅学園短期大学名誉教授、センター顧問)		55名
10月22日(土)	「保育現場におけるカウンセリングマインド」 講師:無藤 隆(白梅学園大学・短期大学学長)		66名
11月12日(土)	「私のカウンセリング」 講師:岸田 博(岸田カウンセリング研究所所長)		49名
11月19日(土)	「『支持的精神療法』に学ぶ生活の中のカウンセリング技法」 講師:金 愛慶(白梅学園短期大学 心理学科助教授)		52名
午後2時～午後4時	会場: 白梅学園大学	各回 150名	276名
11月5日(土) 11月6日(日)(2日間)	◇保育ソーシャルワーク講座 主催:(財)明治安田こころの健康財団 会場:津田塾会	200名	協力
全16回(10月～翌年2月) 全日金曜日開講	◇保育リーダー専門講座		
10月7日(金)	①講師:無藤隆(本学学長)		29名
10月14日(金)	②講師:民秋言(本学子ども学部教授)		32名
10月21日(金)	③講師:村田保太郎(子どもと教育研究所所長、センター顧問)		30名
10月28日(金)	④講師:柏女霊峰(淑徳大学総合福祉学部教授)		31名
11月4日(金)	⑤講師:永瀬哲朗(厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課保育指導専門官)		34名
11月11日(金)	⑥講師:金田利子(本学子ども学部教授)		35名
11月18日(金)	⑦講師:石井哲夫(本学名誉教授)		29名
11月25日(金)	⑧講師:高野陽(東洋英和女学院大学人間科学部人間福祉学科教授)		29名
12月2日(金)	⑨講師:汐見稔幸(東京大学大学院教育学部研究科教授)		37名

12月9日(金)	⑩講師:森上史朗(子どもと保育総合研究所所長、沖縄女子短期大学客員教授)		41名
12月16日(金)	⑪講師:網野武博(上智大学総合人間科学部福祉学科教授)		31名
2005年1月13日(金)	⑫講師:佐々加代子(本学保育科教授)		35名
1月27日(金)	⑬講師:増田まゆみ(目白大学人間社会学部福祉学科教授)		31名
2月3日(金)	⑭講師:秋山治子(本学保育科教授)		32名
2月10日(金)	⑮講師:小田豊(独立行政法人国立特殊教育総合研究所理事長)		34名
2月17日(金)	⑯講師:八木紘一郎(本学子ども学部教授)		31名
18時30分～20時30分	会場:津田塾会(千駄ヶ谷)	各80名	521名
全5回(10月～翌年2月) 全日水曜日開講	◇白梅保育実践交流セミナー ☆佐久間講座(10/1・11/30・12/21・1/25・2/15) 講師:佐久間路子(本学保育科講師) ☆村田講座(10/26・11/9・12/7・1/11・2/8) 講師:村田保太郎(子どもと教育研究所所長、センター顧問) ☆諸岡講座(10/19・11/16・12/14・1/18・2/22) 講師:師岡章(本学保育科助教授)		9名*5 10名*5 7名*5
18時30分～20時30分	会場:ニューシティホール国立(JR国立駅南口前)	各15名	130名
12月4日(日)	◇第11回白梅セミナー いま保育に問われていること 子育て支援が求められる中で「現代の親をどう理解するか」 講演講師:汐見稔幸(東京大学大学院教育学部研究科教授) 第1分科会「リズムにのって身体表現」 講師:若松美恵子(本学保育科教授) 第2分科会「子どもと遊ぶ造形」 講師:杉山貴洋(子ども学部専任講師) 第3分科会「困難を抱える親への援助」 講師:藤後悦子(臨床心理士、臨床発達心理士) 講師:中山正雄(本学保育科教授)		
午前 講演 午後 分科会	会場:白梅学園大学	150名	153名
10時～17時30分			

2月5日(日) 午前 1. 基調講演	◇第4回 白梅介護福祉セミナー 介護予防のここが知りたい 「介護予防のねらい」 講演講師:太田貞司(神奈川県立保健福祉大学教授)		
2. 領域ごとの介護予防	①口腔ケア コメンテーター:原智子(歯科衛生士)		37
	②パワー・リハビリテーション コメンテーター:石井孝弘(作業療法士)		35
午後	③生活機能改善・QOL向上 コメンテーター:森永伊紀(ホームヘルパー全国連絡会事務局長)		45
分科会	④地域包括支援センターの役割とケアマネジメントの実際 コメンテーター:鈴木博之(白十字在宅介護支援センター施設長)		35
10時～16時	会場:白梅学園大学	講演他 150名	13 165名

☆2004年度からの継続講座

2005年7月20日で終了	◇保育士受験対策講座 会場:白梅学園大学		28名
2005年10月21日で終了	◇ホームヘルパー1級養成講習 会場:白梅学園大学		18名

b. 発達・教育相談室

保育科及び心理学科教員が相談員となり、白梅幼稚園や実習園の園児、近隣の乳幼児、あるいは短大卒業生からの紹介による幼児などと、その保護者を対象として教育相談と発達援助を随時実施した。

c. 「研究年報」第9号発行(2005年7月14日)

2004年度公開講座ほか、研究センター活動についてまとめた。

d. 子育て広場委員会

「特色ある教育プロジェクトの一環」としての子育て広場を設立した。白梅学園短期大学が大学をあげて、地域に貢献することと伝統のある短期大学におけるゼミ教育を、保育の研究・教育機関としての集団的な力量を活かして、結合する。その際、既存のNPO的子育て支援グループおよび附属幼稚園・同一法人保育園とも提携していくことを重視していくことをねらいとして子育て広場設立委員会を2004年度立ち上げ、2005年度も継続して取り組んでいる。

(4) 大学と地域社会の交流、連携について

下記の「地域連携・他団体との協力」に見られるように、2005年度も地域や他団体との協力をすすめてきた。とりわけ白梅子育て広場が多様に展開されるようになり、保育者

養成校としての期待がよりいっそう高まっている。

表Ⅶ－②2005年度 地域連携・他団体との協力

	事業内容	時期	担当
2005	ホームヘルパー2級講習(実技委託) 国分寺市、小平市、東村山市	9月、1月、2月	関谷ほか
2005	白梅子育て広場(白梅幼稚園・NPO法人きらら・大学・短期大学)	6月～	佐々ほか
2005	東京都教育委員会現任研修「心理学」担当 (学術・文化・産業ネットワーク多摩依頼)	8, 9月	堀江
2005	介護技術講習会(介護協委託事業)	5, 7, 9月	関谷ほか
2005	白梅NPOセミナー(小平社協・小平市民ネットワーク・白梅・武蔵野美・嘉悦大・学芸大)	7月	山路
2005	第5回保育フォーラム (明治安田こころの健康財団共催)	6月(6/4)	無藤ほか

表Ⅶ－③高大連携

	事業内容	時期
2005	多摩地区高校生対象チャレンジキャンパスプログラム (学術・文化・産業ネットワーク多摩)	後期2名

【学生の社会的活動について】

(1) 学生による地域活動、地域貢献等について

①学生による地域活動、地域貢献或いはボランティア活動等社会的活動の状況

○各市町村や施設他、依頼を受けたものはボランティア掲示板にて掲示して学生に紹介している。

○実習先の保育園・幼稚園・施設等より実習生に対して行事等のボランティアを依頼される場合も多い。

○小平市の教育委員会で募集している小平市立学校の「教育ボランティア」の募集を掲示板にて紹介し、登録を勧めている。

＊2005年度の登録は18名(保育科2名、心理学科(含卒業生)6名、福祉援助学科4名、教養科6名)で提携している小平6小にて行事支援を行っている。

○ボランティアクラブの2005年度部員数は16名。部の目的および主な活動は下記の通りであった。

目的：ボランティア活動を通し、障害を持った方の生活上の不自由を軽減し、障害を持った方の立場に立ち物事を考えていく心を育む。

活動内容：1) 毎週水曜日、脳に障害がある幼児の体操補助

2) 毎週木曜日と金曜日に身体障害児の体操補助

3) 8月に、重度の身体障害をもった女性の家族旅行に付き添った。

○ゼミ担当教員の紹介による地域活動、ボランティアには次のようなものがある。

保育科堀江ゼミ

- 1) 2005年2月より月1回、西国分寺障害者センターにて、障害を持つ子どもの親が情報交換の話し合いをしているときに障害児の保育をしている。
- 2) 2005年2月より、アスペルガー症候群の子どもたちと親の会に参加し、子どもたちが月に1度集まり、遊びを通して仲間との関わりを持つ場にてその支援をしている。
- 3) 長野県での地元のつばさ会の人たちのキャンプに参加、バーベキューや、キャンプファイヤーをしたりという活動を通して、互いに協力しあい、楽しんだりする人たちの手助けをしてその人たちとの交流を通して、自身も楽しみながら学ぶ。

○サークル活動としての地域活動、ボランティアには次のようなものがある。

児童文化クラブ

- 1) 地域の保育園に行き人形劇や手遊び歌、パネルシアターなどを演じて乳幼児たちを楽しませる。
- 2) 地域の小学校において開かれる保護者会などの際に子どもの相手をする。
- 3) 地域の中学校に行き保育をめざす中学生に手遊び歌などを教える。
- 4) 学園が実施する子育て広場にサークルとして準備段階から参加し、地域の乳幼児や保護者との交流をはかる。

(2) 学生の地域活動や地域貢献についての大学の評価

それぞれの学習テーマに即しながら、地域との関わりを深め、社会的活動に積極的に取り組む学生が増えていることを評価し、本学としてもその方向を推進する方針である。そのため、市教育委員会とも正式な協定を結び、恒常的に各種事業支援に学生が参加できるような環境づくりに取り組んでいる。また、本学の教育課程の特徴を生かして、子育て支援事業の拠点として機能できる活動を進め、そこに学生が関われるようなシステムを整備した。その際学生個々の、あるいは有志による参加だけでなく、ゼミ活動など教育課程の中に位置付けながら、それらへの取り組みをバックアップする環境整備を進めたかったが、十分実現できなかった。今後の重要課題としていきたい。

【国際交流・協力への取り組みについて】

(1) 過去3ヶ年の学生の海外教育機関への派遣状況について

2005年度、海外語学研修としてイギリスのリーズにあるリーズメトロポリタン大学の語学研修センターに、夏季4週間の日程で学生を派遣した。過去10年以上にわたって続いているプログラムであり、相手大学との連携も着実に前進している。

(2) 過去3ヶ年の大学と海外教育機関との交流について

① 教育機関名：ネパール教育省より３名

期 間：２００４年１２月１６日

目 的：日本の教員養成課程の授業見学およびシステムの説明。
附属幼稚園等の見学、保育者との懇談。

内 容：１．白梅学園短期大学学長、教務部長等と白梅学園短期大学の保育士、幼稚園教諭養成課程の説明、質疑応答。
２．白梅学園短期大学授業見学「幼児の絵画指導」（教養科現代保育教養専門科目 保育内容と指導法）
３．白梅学園高等学校教頭と懇談
４．白梅幼稚園見学及び園長、主任との懇談

② 教育機関名：モンゴル国立教育大学就学前教育カレッジ学長来訪

学長 Dr. Jamsrandorj Batdelger

期 間：２００５年１１月９日（９：００～１３：００）

目 的：保育士養成施設、授業の見学、課程の説明、質疑応答。
附属幼稚園の見学、保育者との懇談。

交 流 内 容：１．白梅学園短期大学学長、副学長、教員と保育士養成に関する質疑応答。
２．白梅学園短期大学授業見学（保育科１年）
科目「保育原理Ⅱ」
３．白梅幼稚園見学（園長が案内）

③ 教育機関名：ベトナム教育訓練省幼児教育局より２名

幼児教育局長 Le Thi Anh Tuyei

幼児教育専門官 Nguyen Thi Thanh Gang

期 間：２００６年１月１１日（９：００～１４：００）

目 的：日本の教員養成課程（保育士、幼稚園教諭）の授業見学、カリキュラム説明、質疑応答。附属幼稚園見学。

交 流 内 容：１．白梅学園大学・短期大学 学長、副学長、教員と保育士、幼稚園教諭養成に関する説明及び質疑応答。
２．白梅学園短期大学授業見学（保育科１年、２年）
科目「保育原理Ⅱ」「幼児教育の方法」
３．白梅幼稚園見学（園長案内）

（３）過去３ヶ年の教職員の留学、海外派遣、国際会議出席等の状況

表Ⅶ－④ ２００５年度教員国際会議出席状況

氏 名	学 会 名	開 催 地	期 間
金 愛慶	国際ロールシャッハ学会（第１８回大会）	スペイン	2005.7.24～7.31
中山正雄	児童福祉施設職員海外研修	カナダ トロント	2005.9.24～10.8
鈴木佐喜子	幼児教育・保育施設養成校調査	ニュージーランド オークランド・ウェリントン	2005.8.22～9.3
金子尚弘	老人研究所（N I A） 研究打ち合わせ	米国 ボルティモア	2005.9.4～9.12

【特記事項について】

（１）社会的活動において評価項目で実現できない事由

社会的活動を積極的に支援する方向を持ちながらも、それを全面的に展開できない事情もある。短期大学であることの時間的制約の中で、幼稚園教諭、保育士、介護福祉士等の資格取得を果たしていくことは学生にとっては大きな負担であり、とくに実習期間に多くの時間をとられる関係上、社会的活動に取り組む時間を捻出することが難しい場合が多い。教育課程との連携を密にするなどの抜本的な改善を加えることにより、これらの問題に当たっていきたい。また、同様に、時間的制約の中で、国際交流的な活動についても十分に取組めない限界がある。春、夏などの比較的長期の休業期間を実習などに当てる必要があるため、これらについても時間割上の工夫などを行う中で、少しでも障害を取り除いて行きたい。

領域Ⅷ．管理運営について

【法人組織の管理運営体制について】

（１）理事長自身のリーダーシップと関与について

理事長は、法人を代表するものとして、経営・管理・財政のみか、研究・教育を含む全体にわたる理念・方針を示し、責任を負う。研究・教育の実際は、基本的には大学、短期大学、高等学校、幼稚園、またそれらを代表する学長、校長、園長にその運営、責任を委ねている。

ただし、大学、短期大学、高等学校、幼稚園の研究・教育は、あくまでも法人の建学の理念、方針、規則の下で運営される。また理事長は、学長、校長、園長とはつねに連絡を密にとり、協力・連携することを旨としている。特に重要事項については、大学、短期大学、高等学校、幼稚園で決定する際には、理事長は必ず事前に説明を受け、了承するように相談・懇談を行っている。

具体的には、法人として、理事会の他、学内理事全員で構成する常勤理事会を月１回行なっている。さらに、理事長は学長、校長、園長、また事務局長と定期的に懇談・交流を行っている。

（２）理事会の開催状況

理事会は寄付行為第 16 条に規定されている。理事会開催状況は下記のとおりである。なお、寄付行為・理事、監事、評議員名簿を添付する。

表Ⅷ－① [2004 年度] 理事会開催

開 催 年月日	出席者数			主 要 議 案
	現 員	出 席 者 数	意 思 表 示	
2004. 5. 25	13	12	1	平成15年度事業報告及び決算審議の件、短大学則変更の件、白梅幼稚園園長の件、寄付行為変更修正の件、平成17年度短大入試検定料の件、理事長代理及び代行の件
7. 6	13	8	5	中学校開学の件、平成17年度学費の件、四年制大学の進捗状況の件、四大人事の件
9. 18	13	7	6	短大学則変更の件
11. 16	13	9	2	寄付行為変更の件、寄付行為施行細則変更の件、中学校設置の件、園則変更の件、諸規程の件
12. 7	13	10	1	寄付行為変更の件、寄付行為施行細則の件、理事・評議員補充の件、短大学長の件、中学校設置の件、高校学則変更の件
2005. 1. 15	12	11	0	4 号評議員選任の件
1. 25	12	8	3	幼稚園園長の件、高等学校校長の件、2 号理事選任の件

3.8	13	10	2	平成16年度補正予算の件、平成17年度事業計画及び予算の件、2号評議員及び4号評議員選任の件、私立学校法の改正に伴う代表権者の登記の件、中学・高校新校舎建築資金借入の件、短大学則変更の件、諸規程の件、平成17年度理事会開催日程の件
-----	----	----	---	---

表Ⅷ－② [2005 年度] 理事会開催

開 催 年月日	出席者数			主 要 議 案
	現 員	出 席 者 数	意 思 表 示	
2005. 5. 17	14	11	2	平成16年度事業報告及び決算審議の件、個人情報保護規程の件、理事・監事の名簿扱いの件、学園ロゴマークの件
7. 5	14	11	2	平成18年度学費の件、平成18年度検定料及び受験料の件、高校学則変更の件、寄付行為変更の件
9. 27 (15時～)	13	10	3	2号評議員選任の件
9. 27 (16時～)	14	12	2	2号理事選任の件、寄付行為変更の件、平成18年度幼稚園保育料の件、短大学則変更の件、高校学則の件、3号理事退任の件、中学校開学の件
11. 15	13	12	1	平成17年度短大学則変更の件、平成19年度短大学則変更の件 日本私立大学協会加盟による評議員選出の件
2006. 3. 7	13/ 14	11/ 12	1	3号理事及び4号評議員選任の件、平成17年度補正予算の件、平成18年度事業計画及び予算の件、白梅学園大学編入学学納金等の件、教養科廃科に伴う寄付行為変更の件、教養科及び保育専攻廃科に伴う学則変更の件、平成18年度理事会開催日程の件

(3) 常勤理事会の名称及び構成メンバーについて

理事会の業務を一部委任する常勤理事会を設けている。常勤理事会規程を添付資料として示す。常勤理事会構成員は次のとおりである。

表Ⅷ－③常任理事会構成員

役 職	氏 名	役 職	氏 名
理事長	小松隆二	白梅学園高等学校校長	秋田中子
白梅学園大学学長 白梅学園短期大学学長	無藤 隆	白梅学園高等学校教頭	上木光夫
白梅学園大学学部長	平賀明彦	白梅学園幼稚園園長	金田利子
		事務局長	田村敦彦

（４）監事の業務執行状況について

監事の職務は寄付行為第 8 条第 2 項に定められている。2005 年度の監事の業務執行状況は下記のとおりである。

- ・業務の監査

内 容：年度内に開催される理事会・評議員会にその都度出席し、業務が適正に実施されているか確認する。

監査結果：適正

- ・2005 年度の決算にかかる財政状況の監査

実施日：2006 年 5 月 12 日

内 容：計算書類の適正を確認した。

監査結果：適正

（５）評議員会の開催状況

評議員会は寄付行為第 22 条、第 23 条、第 25 条に規定されている。2005 年度の評議員会の開催状況は次のとおりである。

表Ⅷ－④〔2005 年度〕評議員会

開催 年月日	出席者数等			議 事 内 容
	現 員	出 席 者 数	意 思 表 示	
2005. 5. 17	29	23	4	平成16年度事業報告及び決算審議の件議員の名簿扱いの件
9. 27	29	21	7	2 号理事選任の件、寄付行為変更の件、中学校開学の件
2006. 3. 7	28	21	4	平成17年度補正予算の件、平成18年度事業計画及び予算の件、教養科廃科に伴う寄付行為変更の件、平成18年度評議員会開催日程の件

（６）管理運営についての改善点及び課題

法人事務局では、2003 年 10 月に公表された「学校法人制度の改善について」に基づき寄付行為を点検し、法人運営の実態と照らし合せ、改定を済ませていたが、2006 年度の開学をめざして中学校の新設を前提として改正私立学校法に準拠して再度改訂した。

また、就業規則は 1976 年に制定以来、大きな改正をしておらず実態にそぐわない点や矛盾点もあり、改定案を作り教職員組合に提示し検討を進めたが、2006 年 3 月意見書を受けて関係機関に提出した。

それ以外の学内の規程については、2005 年 4 月の「白梅学園大学」の開学に合わせて整備を進めた。

【教授会などの運営体制について】

（１）学長のリーダーシップについて

学長は原則毎月開催する定例教授会及び入試・卒業判定などのために適宜開会する臨時教授会において、重要議事の提案、そのスムーズな審議及び採決について適切な役割を果たしている。また、本学各学科及び図書館・情報処理センター、教育・福祉研究センター、実習指導センター、教務部、学生部のそれぞれの長を構成員とする部科長会議を隔週開き、教授会提案事項の整理や各学科をはじめとする教育の最前線の状況を具に把握するための情報交換にも意を用い、また、学長を中心とする執行部からの伝達事項が各部署に行き渡るよう配慮している。さらに、企画調整室、教務、学生などの事務部門の各課長との連絡協議会も毎月１回定例で開いており、教学と事務の連携をはかるための組織的な取り組みも行っている。また、私立短期大学学長として法人理事、評議員も兼ね、教学部門の長として法人経営に関わるとともに、より良い教育・研究環境の整備のために法人に財政的支援の要請を行うなどの役割を果たしている。

教育・研究上の各種事項の決定過程は、各学科及び関係部署の代表者で構成される教授会委員会が必要事項の発議、審議・検討を行い教授会に提案するルートがある。その一方、学長を中心に、副学長、教務、学生部長などで構成された執行部が、執行部案として教授会に提案、審議・検討を経て決定するルートもある。そのようなルートで発議された案件が、定例教授会乃至は臨時教授会の審議事項として提起され、そこでの議決を経て決定事項となる。

表Ⅷ－⑤ [2005 年度] 年度教授会の開催状況

教授会	開催日	出席状況	主要議題
4 月定例教授会	H17. 4. 21	全員出席	学籍異動の件、出版助成の件、名誉教授推薦の件、2006年度指定校入試指定校の件、2006年度入試科目及び入試日程の件、2005年度カリキュラム変更及び非常勤講師人事の件
5 月定例教授会	H17. 5. 12	全員出席（委任状 1 名含）	学籍異動の件、2005年度カリキュラム変更の件
6 月定例教授会	H17. 6. 9	全員出席	2005年度カリキュラム変更及び非常勤講師人事の件、実習規程の件、専任教員研修休暇制度運用規則の件、専任教員公募の件
7 月定例教授会	H17. 7. 14	出席 24 名（委任状 1 名含） 欠席 1 名	学籍異動の件、2005年度カリキュラム変更及び非常勤講師人事の件、2005年度入学生カリキュラムの件、実習規程の件、専任教員公募の件、2006年度専攻科指定校の件
7 月臨時教授会	H17. 7. 28	出席 22 名 欠席 3 名	2005年度カリキュラム変更の件、教務日程の件、非常勤講師査定に関する申し合わせ（案）の件

9月定例教授会	H17.9.22	出席24名 欠席1名	学籍異動の件、2005年度カリキュラム変更の件、専任教員人事の件、資格審査委員会規程の件、学則変更の件、評議員選出の件
9月臨時教授会	H17.9.27	出席20名 欠席5名	卒業判定の件、専任教員資格の件、科目等履修による保育士養成課程修了証明書取得者の件、特別推薦入試日変更の件
10月定例教授会	H17.10.13	出席22名 欠席3名	入試判定の件、学籍異動の件、2006年度専任教員の件
10月臨時教授会	H17.10.20	出席23名（委任状2名含） 欠席2名	入試判定の件、実習指導センター実習講師人事の件、2006年度専任教員公募の件
10月臨時教授会	H17.10.27	出席24名（委任状1名含） 欠席1名	入試判定の件、実習講師人事の件、センター入試参入の件
11月臨時教授会	H17.11.3	出席22名（委任状1名含） 欠席3名	入試判定の件
11月定例教授会	H17.11.10	出席23名（委任状4名含） 欠席2名	自己点検評価実施の件、2005年度カリキュラム変更の件、短期大学士学位授与の件、保育科定員増の件
11月臨時教授会	H17.11.24	出席23名（委任状1名含） 欠席2名	入試判定の件
12月定例教授会	H17.12.8	出席23名（委任状1名含） 欠席2名	学籍異動の件、2006年度教務日程変更の件、2006年度カリキュラム変更の件、一般入試Ⅲ期実施の件、規程の件
12月臨時教授会	H17.12.15	出席24名（委任状1名含） 欠席1名	入試判定の件、規程の件、2006年度専任教員公募の件
1月定例教授会	H18.1.12	出席22名 欠席3名	学籍異動の件、2006年度カリキュラム変更及び非常勤講師人事の件、客員教授の件、2006年度学事日程の件
1月臨時教授会	H18.1.31	出席23名（委任状4名含） 欠席2名	入試判定の件、2006年度非常勤講師人事の件、2006年度カリキュラム変更の件、2005年度授業アンケート結果の件、専任教員公募の件、専任教員人事の件、専攻科福祉専攻追加入試の件
2月定例教授会	H18.2.9	出席23名 欠席2名	学籍異動の件、2006年度非常勤講師人事の件、2006年度カリキュラム変更の件

2月臨時教授会	H18.2.11	出席22名（委任状2名含） 欠席3名	入試判定の件、2006年度非常勤講師人事の件、 2006年度担当者変更の件
3月臨時教授会	H18.3.2	出席者24名 （委任状1名含） 欠席1名	卒業判定の件、科目等履修による修了証明書取得者の件、2006年度非常勤講師人事及び担当者変更の件
3月臨時教授会	H18.3.6	出席者23名 欠席者2名	入試判定の件、教養科、専攻科保育専攻廃止の件、
3月定例教授会	H18.3.9	出席者23名 （委任状2名含） 欠席者2名	学籍異動の件、2005年度、2006年度入学生カリキュラムの件、教員人事に関する規程の件、 学則変更の件、昇格人事の件
3月臨時教授会	H18.3.13	出席者23名 （委任状2名含） 欠席者2名	入試判定の件、学籍異動の件、2006年度専任教員の件、2007年度入試概要の件、人事規程の件、子ども学部編入試験要領の件

（２）各種委員会の開催状況等

2004年度中に委員会の再編成を行い、2005年度から新しい委員会体制でスタートし、委員会開催日の固定などの工夫をしながら有機的な委員会活動をすすめてきた。以下各委員会と開催規程、業務等である。

表Ⅷ－⑥2005年度開催各種委員会

委員会名称	関係規程	任期	主な業務	構成員	開催日
人事委員会	人事委員会規程	2年	教員の採用、昇格に関する事項、教員の資格審査に関する事項、教員の資格審査基準に関する事項、名誉教授称号授与に関する事項、その他教員人事に関する事項	副学長、教務部長、学生部長、教授会より選出された教授3名、及び委員長	月2回
教務委員会	教務委員会規程	2年	教育課程、履修方法に関する事項、学生募集、選抜試験に関する事項、卒業、学位に関する事項、資格、免許取得に関する事項、再入学、編入学、転入学に関する事項	学長、副学長、教務部長、募集対策副本部長、教授会から選出した者3名	月2回

学生委員会	学生委員会規程	2年	奨学金、学生の賞罰に関する事項、学生の課外教育活動、自治組織に関する事項、就職に関する事項、健康・保健衛生に関する事項、学園祭、学生寮に関する事項	学長、副学長、学生部長、教授会から選出した者3名	月2回
予算委員会	予算委員会規程	2年	教育研究費の予算・決算、教育設備及び備品に関わる経費の予算・決算、研究・教育関係助成金に関する事項	副学長、図書館長、教務部長、学生部長、実習センター予算担当者、教授会より選出された者3名	月2回
学術情報委員会	学術情報委員会規程	2年	図書・学術報告・学術情報環境の整備、図書館の運営に関する事項、紀要・教員の研究成果発表に関する事項、情報ネットワークシステムの運営に関する事項	学長、副学長、図書館長、教授会から選出された者3名	月2回
自己点検・評価委員会	自己点検評価教学部会規程	2年	教育研究活動等の自己点検・評価	各学科にわたり4名程度の委員	月2回
学生人権擁護委員会	学生人権擁護委員会規程	2年	セクシュアル・ハラスメント等人権侵害に関する相談対応、防止に関する事項。人権侵害の相談調査、事後処理の指揮。人権侵害にかかわる情報の収集、研修、啓発活動。人権擁護にかかわる委員会組織、運営。教育諸活動における学生の権利に関する事項。	学長、学長が教授会の議を経て任命した者。	随時

*開催日が規程によって定められていないものは空白、実際は月1回ペースで開催されている。

(3) 短期大学全般の課題について

教授会を最高意志決定機関として、前項のような過程を経て重要事項が決められていく流れに基本的に大きな問題はなく、そこにおける各種教授会委員会、学長を中心とした執行部の関わり及び役割も適切であると考えられる。問題点としては、教授会委員会の担当する内容が多岐にわたり、教授会構成員が幾つかの委員会を兼務することも多く、かつ検討事項が多数あるため委員会活動が煩瑣を極め、また開催回数も多くなり検討すべき案件を処理しきれず、教員の教育・研究時間の確保にも大きな影響を及ぼしている事がある。また短大の将来構想などを検討する必要から正規の委員会とは別に、ワーキンググループ

などを組織する場合があります、これらの全体調整が大きな課題である。

また、執行部の活動においても、学長、理事長が激務で且つ多忙であるため、相互の意思疎通の機会を十分確保できず、法人と教学部門の木目の細かい連絡調整作業がスムーズに進められない点が問題としてあった。その点を改善するために、理事長、事務局長と学長、副学長が毎月1回定期的に協議する場を設け、法人と教学の連携を密にすることができた。

【事務組織について】

（１）事務分掌について

本学の事務部門は法人事務分掌規程の第3章に規定されている。

企画調整部（企画調整室・広報課）、教務部（教務課）、学生部（学生課・進路指導課）、図書館課がある。主たる業務は、企画調整室は、大学運営に関する企画立案、予算に関する事項、学長の秘書に関する事項、教育・福祉研究センターに関する事項である。広報課は学生募集全般に関する事項である。教務課は教育課程、学事日程、授業、試験、単位認定に関する事項、入学試験に関する事項である。学生課は、学籍及び学生の身上異動に関する事項、奨学金に関する事項、学生寮に関する事項である。保健センターは学生課の管轄のもと学生の健康管理全般に関する事項である。進路指導課は、就職・進学全般に関する事項である。図書館課は、図書、学術情報及び学術情報環境整備に関する事項である。

また、法人事務局総務課・財務課とは施設の管理・学費等の納入について本学事務部門と連携をとり行っている。

（２）事務職員の任免について

法人全体の配置・異動計画の中で、後述するような適材適所の原則で任用している。個別的には以下のとおりである。

①新卒者

採用計画がある場合、大学・短大の就職関連窓口に求人願いを出す。採用手続きは、就職を希望する者の中から書類審査、面接等による選考を行い、資格証の確認等の手続きを経て最終判断は理事長の決裁で行う。

②既卒者

原則としては業務のニーズに応じた経験者の求人をしている。

③役職者の任免

年功ではなく能力的に一定基準が求められるのはもちろんであり、客観的基準の考課による任用を心がけている。また、適材適所を原則とするが、属人化を防止する観点から一定期間で法人事務を含めジョブ・ローテーションを実施している。スペシャリストであると同時にゼネラリストであるべく多能化をめざしたい。

④その他

育児休業取得者の代替に派遣社員の受け入れ、また繁忙期の補助にアルバイトを活用している。

（３）事務組織についての諸規定について

規程集において「事務組織規程」及び「事務分掌規程」が定められている。

（４）決済処理の概要と流れ、公印の管理等について

①決済処理の概要と流れ

案件に対して各部門の権限外、分掌に属さない事項について、各部門長が起案者となつて、重要なものについては稟議、供覧を要するものには伺いを提出し、それぞれ理事長、事務局長が決済を行っている。なお、これら一連の処理については、「事務分掌規定」、「稟議・決済規定」に依っていることは云うまでもない。

②公印や重要書類については、管理職の管理下で取扱を行っている。物理的には保管を耐火収納にするなど万が一に備えた対応をしている。また、公印については、「公印取扱規程」がある。

③情報システムの安全対策に関しては【施設設備の管理について】の（２）、④と重複しているので参照されたい。なお、補助的なものではあるが、バックアップ電源装置の設置やサーバーラックの耐震化対応などを図っている。

（５）事務職員の教員や学生からの信頼について

学生と直接的な対応が頻繁である教務課及び学生課、進路指導課では、教員兼務の教務部長、学生部長が掌握しており、学生の状況の的確な情報のもとに必要な対応を行っている。「約束を守らない」等の学生に対しては厳しい対応を行っているが、学生の相談等に対しては親切であり、信頼されている。特に保健センターの対応や就職課の細かく配慮した対応は、学生のみならず教員からも大きく信頼されている。渉外課、総務課は学生と直接かわかることは少ないが、適切な処理がなされ教員の信頼は厚い。学内の様々な教育プログラムにおいては、事務職員の準備・調整の力によるものが大きく、それらの業務について教員からの信頼は大きいものがある。

（６）事務組織のSD活動について

毎年事務局長による全職員の個別面接を行っている。面接のために必要な職務調査表を提出し、担当業務の従事割合など現状把握の確認を行っている。また、各課長は面接のための資料として課の組織目標、取り組み方針・課題・改善提案など作成し、業務見直しの機会を設けている。研修については、大学関係の全国組織及び地方組織の研修会などに積極的に参加している。

（７）事務組織が抱えている問題・課題について

訪問調査時に報告

【人事管理について】

（１）教職員の就業について

職員の就業は、一般企業と同様、出勤日、勤務時間、残業、休暇取得等就業規則どおり

に行われており、特に問題はない。各職場で、異常と思われる残業もなく、要員数も過不足はない。

教員については、就業規則上は週4日の出校義務と、最低5コマの持ちコマ数が規定されている。運用上、火曜日と木曜日を「コア・デイ」として、全員が出校することとしている。教員の本務である研究時間の確保のために出勤時間や退校時間等は各自の判断にゆだねられているが、自宅における研究活動についてどのように取り扱うかについては学内の意見は一致していない。

（２）法人と短期大学教職員の関係について

理事会と教職員との関係は、良好である。教職員は直接理事長室に行き、理事長と話をすることができるし、学園の重要案件については教授会終了後職員も加えた「教職員懇談会」を開催し、理事長自ら出席し法人の考え方を説明するとともに、教職員の意見を吸収してきている。

学長と副学長は「常勤理事会」で理事長や事務局長と打ち合わせる他、さらに1ヶ月に一度四者で打ち合わせの場を設け、相互に意思疎通を図っている。学長は教授会や部科長会等で、その場で得られた法人の考えやその他の情報を伝達してきている。

（３）教員と事務職員の関係について

教員と事務職員の関係は、現状は職務分担がはっきりしている。企画立案は教授会委員会等で行われ、職員の意見が反映されることは少ない。一方、企画の実施は職員中心で行われ、教員の参画は少ない。今後この職務分担を見直す必要があるかどうか検討をすすめていく。

（４）教職員の健康管理、就業環境の改善について

教職員の健康管理は、法定の健康診断（受診科目は法定より多い）、産業医による相談等を実施している。受診率は短大は他場所に比しやや低く、再受診の履行状況もやや低い。

就業環境は、一部の建物が老朽化していることもあり必ずしも最良とは言えないが、研究室は行き渡っており、新しい校舎の建設もあり改善中である。

就業時間の遵守状況は上記（１）のとおりである。

〈添付資料〉

寄付行為及び学則

〈参考資料〉

1. 現在の理事・監事・評議員名簿、前年度分の理事会議事録、
学長選考規程、委員会規程
2. 事務組織についての諸規程
3. 教職員の就業についての規程

領域Ⅸ．財務について

【財務運営について】

（１）「中・長期の財務計画策定」について

短大としての「財務計画」自体は作成していない。学園の「長期計画」として四年制大学の新設を掲げ、昨年度認可を取得したが、その中で完成年度までの収支計画を立てた。また、今年度は中高一貫教育を目指し「白梅学園清修中学校」の認可を取得すべく、この申請書の中で完成年度までの収支計画を立てた。大学は初年度の今年、定員を上回る学生を確保できたが、完成年度まで定員を確保し、中学校も同様に認可を取得し、定員を確保することが学園全体の収支の健全化につながる。短大も学生定員の確保が重要であり、そのための施策に鋭意取り組んできている。

一方、予算の策定や執行上の経費節減運動を進めるとともに、老朽化した校舎の建替え等の計画を検討中である。

（２）事業計画と予算の決定過程

法人の予算編成は、学校法人の基本方針に基づき、例年理事長及び事務局長より予算編成、執行について指示がある。本学の事業計画及び予算編成は、各部署で11月下旬より検討を開始、翌年1月下旬を目途に各々策定している。策定手順は、各部署より、必要性、重要性、緊急度を十分吟味したゼパベ-スの「積上げ方式」により事業計画を提出させている。特に「備品」購入予算については、毀損したものの補充程度に絞っている。

本学の予算は法人の予算編成方針に基づき、教学部門と事務部門で事業計画とともに編成される。教授会委員会の予算委員会が本学全体の予算について各学科・部門ごとに要求をまとめている。企画調整部が法人と折衝を進め、最終調整は理事長と学長の間で行い決定となる。また機器備品についても予算と同じ手順で並行して進められる。

（３）予算の各部門への伝達、及び執行に関わる経理など

決定した予算は教授会で報告することにより、大学全体に通知することになる。予算執行にあたっては、請求金額に基づき伝票へ起票し、教学関係は予算委員、事務関係は各部長及び課長の承認を経て、財務課へ請求している。執行するにあたり「学校法人白梅学園会計規程」に基づき行っている。

（４）監査状況

表Ⅸ－①公認会計士の監査状況及び監査内容

監 査 人	年 月 日	監査内容	備 考
新日本監査法人	2004年4月9日	現預金監査、有価証券実査	総勘定元帳他
	4月23日	学納金・前受金等収入	総勘定元帳他
	4月27日	退職給与引当金等	引当金計算書他
	5月14日	貸付金他勘定科目	内訳表明細他
	6月2日	財産目録	総勘定元帳
	6月9日	財産目録	総勘定元帳他

	9月21日	教研費・管理経費支払伝票他	総勘定元帳・伝票他
	10月12日	教研費・管理経費支払伝票他	総勘定元帳・伝票他
	11月24日	教研費・管理経費支払伝票他	総勘定元帳・伝票他
	12月14日	教研費・管理経費支払伝票他	総勘定元帳・伝票他
	12月21日	教研費・管理経費支払伝票他	総勘定元帳・伝票他
	2005年1月31日	教研費・管理経費支払伝票他	総勘定元帳・伝票他
	2月14日	教研費・管理経費支払伝票他	総勘定元帳・伝票他
	3月2日	教研費・管理経費支払伝票他	総勘定元帳・伝票他
	4月7日	現預金監査、有価証券実査	総勘定元帳他
	5月9日	学納金・前受金等収入他	総勘定元帳他
	5月13日	施設・設備関係支出	見積書・請求書・領収書他
	5月16日	人件費支出他	個人別給与台帳他
	5月20日	基本金他	基本金台帳他
	9月2日	財産目録	総勘定元帳他
	9月5日	財産目録	総勘定元帳他
	10月7日	教研費・管理経費支払伝票他	総勘定元帳・伝票他
	11月16日	教研費・管理経費支払伝票他	総勘定元帳・伝票他
	12月19日	教研費・管理経費支払伝票他	総勘定元帳・伝票他
	2006年1月30日	教研費・管理経費支払伝票他	総勘定元帳・伝票他
	2月16日	教研費・管理経費支払伝票他	総勘定元帳・伝票他
	3月15日	教研費・管理経費支払伝票他	総勘定元帳・伝票他
	5月9日	現預金監査、有価証券実査	総勘定元帳他
	5月10日	学納金・前受金等収入	総勘定元帳他
	5月11日	退職給与引当金等	引当金計算書他
	5月12日	貸付金他勘定科目	内訳表明細他

・監事の監査状況及び監査内容

年 月 日	監査内容	備 考
2005年5月13日	16年度決算書類	計算書類他
2006年5月12日	17年度決算書類	計算書類他

- ・独立監査法人の監査報告書（添付資料）
- ・監査報告書（添付資料）

（５）財務の公開について

私立学校法第47条に基づき毎会計年度終了後2月以内に財産目録、貸借対照表、収支計算書を作成し、監査報告書とともに備え付けてある。「財産目録等の閲覧に関する規則」の定めに基づき、請求があった場合は閲覧することができる。また、学園報「地域と教育」に当該年度の決算概要を掲載している。

（６）資金等の保有と運用の基本方針について

当学園の運用資産は、諸引当資産を除くと極めて少なく、中学校の創設費等の支払も控え手元現金も必要で、特に当年度は資産運用を大々的に行える状況ではなかった。諸引当資産も含めた有価証券の保有額は 343 百万円であり、その内訳は下記のとおりである。

株式・・・・・・・・・・47.8%

公社債等・・・・・・・・14.6%

投資信託等・・・・・・37.6%

（７）寄付金や学校債の状況について

本学では入学試験要項等に「入学後に任意の寄付金を募集する」旨を掲載している。学校債はない。４月に入ってから学長名で入学生の実保護者宛に「寄付金（任意）のお願い」を文書で行っている。なお、入金後はお礼状を送付している。

【財務体質の健全性と教育研究経費について】

（１）資金収支計算書・消費収支計算書の概要

2005 年度の資金収支計算書・消費収支計算書を別紙添付する。

（２）前年度末の貸借対照表の概要

貸借対照表は、資産の部で 239 百万円減少し、負債の部では 103 百万円減少した。この結果、「総負債比率」は 28.7%で昨年より 0.6 ポイント改善し、20%台となった。

（３）財産目録及び計算書類について

過去 3 ヶ年を訪問調査時に参考資料として準備する。

（４）短期大学における教育研究経費比率

教育研究経費は、帰属収入に対する割合で、2005 年度は 20.2%であった。

【施設設備の管理について】

（１）固定資産管理規程など財務諸規定について

「白梅学園事務分掌規程」

（２）火災などの災害対策について

①火災等の災害対策

ハード面では火災報知器を各棟各階に設置しているほか、消火栓、消火器、避難はしご、非常誘導灯を設置している。消火栓は非常時に作動するように、バックアップの電源装置が付いている。これらの点検は法に従い専門業者に委託して実施されている。また、ソフト面においては、非常時マニュアル「地震防災計画」が策定され、教職員による防災組織である地震対策委員会により啓蒙活動及び訓練実施などを行っている。

②防犯対策

本学は、同一敷地内に幼稚園、中学校、高校を設置していることもあり、キャンパス・セキュリティへの関心は高い。対策としては警備保障会社に委託して、常駐の専門スタッフによる校門の立哨及び入退場管理、構内巡回などの24時間有人警備を実施しているほか、センサーによる侵入防止対策、鍵の収受システムなど機械警備を設置している。また、ピアノ練習室等の個室には防犯ブザーによる通報システムが設置してある。

③コンピュータのセキュリティ対策

本学では、ネットワークを大きく教員用と職員・学生用のものとに分離しており、さらに職員と学生の間にはパケットフィルターを用いて分離管理している。また、サーバー、クライアントにはウィルス対策ソフトを組み込んでいる。

データの保存・保管に関しては、原則として情報をクライアントには保管せず、ファイルサーバーに保管している。このことにより端末からのデータ漏洩を回避するとともに、ファイルサーバーを毎日バックアップすることにより、万一のデータ消滅に対応できるようにしている。

④省エネ及び地球環境保全対策

OA機器や電気器具の導入に際しては省エネタイプを採用する、照明器具のスイッチをこまめにオン・オフする、教室の空調コントロールを一括管理し効率的運用を図るなど、ささやかな取り組みであるが、全学でスケール・メリットが想定できることは積極的に推奨している。また、地球環境保全対策としては、封筒などに再生紙を使用するかゴミ分別などに取り組んでいるのをはじめ、あらたな建造物にリサイクル可能な建材を用いるなどしている。

《領域Ⅹ 改革・改善》

【自己点検・評価について】

（１）本学における自己点検・評価の位置づけ

本学では自己点検評価委員会として設置され、各学科から１名及び企画調整室がメンバーとして参加し、２年の任期で学長から指名される。自己点検評価委員会の任務は委員会規程によって決められ、自己点検評価報告書の作成や相互評価への対応などに取り組んでいる。この数年は学生の授業アンケートに取り組んできた。

（２）自己点検・評価報告書の発行状況

表Ⅹ－①自己点検・評価委員会報告書発行一覧

年度	報告書名	発行年月
1995	白梅学園短期大学自己点検評価	1999年2月
1997－98	白梅学園短期大学自己点検評価	2001年3月
2002－03	白梅学園短期大学自己点検評価 授業アンケート結果報告書	2004年3月
2004	白梅学園短期大学自己点検評価授業アンケート結果報告書 白梅学園短期大学自己点検評価(2004年度)	2006年2月 2005年6月
2005	白梅学園短期大学自己点検評価(2005年度)	2006年6月

2002, 2003年度に実施した学生による授業アンケート結果を報告書として発行をした。また2004年度に実施した授業アンケート結果についても報告書として発行をした。報告書は学内教職員、非常勤講師ほか関係者に配布し、学生には掲示等で閲覧できるよう学内に配置している。学外へは短期大学協会等関係機関、近隣大学・短大へ配布をしている。短期大学全体の自己点検・評価報告書は2001年3月の2冊目以降発行していないが、2004年度については「白梅学園短期大学自己点検評価報告書(2004年度)」として作成し、配布は学内関係者のみに留めた。本報告書は「白梅学園短期大学自己点検評価報告書(2005年度)」として位置づいている。点検・評価結果の報告の公開については今後ウェブページの活用などが検討される。

【自己点検・評価の教職員の関与と活用について】

（１）自己点検・評価に関わった教職員について

2005年度の自己点検・評価に関しては、従来の各学科からなる自己点検評価委員会がまとめ役になりつつも、2004年度と同様に報告書の作成にあたっては、関係するすべての部署から文書を出してもらってそれをまとめたものである。したがって全教職員の半数以上が何らかの形で作成に関与している。

とりわけ各学科長は、それぞれの学科の学生だけでなく、教職員の動向についても把握してまとめた。また大学の執行部としてあらゆるところのまとめを書くことを通して、学内に存在する様々な課題を把握できたと思われる。

なお、一昨年度より ALO（第三者評価連絡調整委員）が指定され、その ALO を通じて自己点検・評価のまとめを行ったので、委員会としても全体が見えるようになった。

（２）自己点検・評価結果の活用について

今回作成の「白梅学園短期大学自己点検評価」については、教職員一人一人が読むだけでなく、これを材料にして第三者評価が予定される 2007 年度に向けて、より正確な学園評価を目指さなければならない。

適当な時期に教職員懇談会などを開催して、積極面をどのように発展させ、不十分な点をどのように克服していくのか大学全体で議論する予定である。

【相互評価・外部評価について】

（１）過去に行った相互評価等の概要について

表 X－②外部評価相手校

相互評価		実施日
2000	愛知江南短期大学との相互評価	
	（愛知江南短期大学）	2001.1.20
	（白梅学園短期大学）	2001.3.19

上記のように愛知県の愛知江南短期大学との相互評価を 2001 年に行い、相互の交流をすすめた。2 回の合同会議には、白梅学園短期大学からは学長や自己点検評価委員長などが参加して、本学の特長について報告し、相手校の先進的なところを学ばせてもらった。

（２）相互評価や外部評価を行うための組織・規程の整備状況について

現在は第三者評価の実施に向けて、各学科からの自己点検評価委員の他に、事務方の課長及び教務部長や学生部長、学長などを含めた第三者評価委員会を設置している。責任者は学長であり、A L O が事務的な作業を行うことになっている。

第三者評価を受けるにあたって、特別な規程は準備されていないが、現在の規程の運用で対応できるものと考えている。

【第三者評価（認証評価）について】

（１）第三者評価を実施するための学内組織の概要について

上記でも触れたように、学長を責任者として「第三者評価委員会」を立ち上げ、部科長会メンバーと自己点検評価委員、更には事務的な情報とノウハウを持っている事務方の課長の参加を求め、2007 年度の実施を待つまでも無く、2004 年度から報告書の作成を行っている。本 2005 年度報告書は 2006 年度の自己点検評価をまとめた報告書を前倒しで準備している。

（２）第三者評価を迎えるにあたっての決意

2007 年度に外部評価を受けることを申請し、学長、A L O を中心に各部門の代表者によって構成される自己点検・評価委員会を中核組織として、本格的準備を開始した。これまでの愛知江南短期大学との相互評価の経験を含め、教学部門に関しては、従来授業評価を中心に着実に自己点検・評価を進めてきており、一定の蓄積があるので、さらに、教育課

程及びそれを取り巻く教育環境の整備充実を図りつつ、外部評価に臨むための資料収集を計画的、組織的に進めている。一方これまで必ずしも十分な蓄積のなかった財務関係、事務体制に関わる部分についても体制を整え、準備に取り組んでいる。

【特記事項について】

（１）大学として特に努力している改善点等

教員の研究力量向上をめざし、研究補助や出版助成の充実を図るとともに、教員個々人の負担軽減のための学内体制の整備に重点を置いている。教授会委員会の組織を整備し、役割分担を明確化し効率化を図り、委員会の回数を減らすことをめざすとともに、学科会議の効率的運営により、学科長等の役職者の負担軽減を図る方策を講じ、総体として教員の研究時間確保に結びつけようとしている。

また、授業評価の方法に改善を加え、演習、実習等一部の授業を除く全授業での完全実施をほぼ達成した。そしてその評価の後に生かすシステムを確立した。

学生生活支援に関しては、学生からの生の声を聞き、それを実際の環境整備に反映させられるアンケート調査を実施した。今後はその分析を急ぎ、学生の求めに応じて、支援の実をあげる取り組みを強めたい。また、最近問題になることの多い、学内でのセクシャルハラスメント、アカデミックハラスメントといった状況に対して適切な対処ができるような実態調査の体制を整えていきたい。

（２）評価項目や評価観点が実現できない事由

授業環境の整備や学内諸施設の改修、改善等で大きな障害になっているのはやはり財政問題である。その点に関しては前述したように、教学部門と法人との連絡調整を密にする体制を準備したので、それを生かし、毎年度の重点項目の策定とそこへの予算の振り向けなどを計画的に行うことができるよう、具体的な改善を進めて行きたい。

《補 将来計画の策定について》

（１）将来計画の策定について

昨今の短期大学を取り巻く厳しい情勢に鑑み、教育課程の全面的見直しを含めた抜本的な改革を企図する必要がある、その中で、本学の教育課程とその背景にある建学の理念を、より充実させ、より幅広く展開させる未来像を構想することが急務であると考えます。

他方、本学が人材養成において主眼を置いている保育士、幼稚園教諭が活躍する現場にあっては、子どもを取り巻く社会的、文化的環境は大きく変化し、建学の理念であるヒューマニズムの精神に根ざした人材の育成が、今まで以上に必要とされ、求められていると言える。しかも、高度化し複雑化した社会環境の中では、従来以上に豊富な知見と専門的スキルを要する子どもや高齢者、障害者の援助者が切実に求められている。このような要請に応え、地域を含めた社会に対して本学の教育の成果を還元していくためにも、より幅広い視野と豊かな内容をもった教育課程、教育環境を整えていくことが必須であり、次年度以降に向けて、このような方向での将来構想を実現するためのプロジェクトに取り組みたい。

（２）終わりに

2007年（平成19年）は本学が第三者評価を受ける年である。2005年4月に短期大学の一部を白梅学園大学子ども学部子ども学科として四年制大学に改組し、今後短期大学の部分をどのように発展させていくのか検討中である。

自己点検評価委員会としてもそうした将来計画を視野に入れた自己点検評価をすすめるべきではない。特に次年度の第三者評価を積極的に受け止めて、本学の課題を追求していく姿勢が求められている。

2005年度は全学への授業アンケート及び学園生活等に関するアンケートを実施し、学生と共に大学創りを進めることを視野に入れて取り組みをすすめてきたが、本報告書にそれが十分に反映されているかどうかは不安もある。この報告書をもとにして学園内の議論をすすめることで生かされるのではないかと期待している。

はじめにや領域Ⅰのところでも触れたように、白梅学園短期大学はヒューマニズムを学是として60年を超える歴史を歩んできている。その精神は現在の教職員や学生に受け継がれ、常に協力的に物事に取り組んできている。今回の第三者評価を更に学園の前進に結びつけ、新たな一歩を築くために力を尽くすのが、ALOの役割であろう。

大学としても個人としても力が問われる時代である。